

3G対応 シグナルモニター&スイッチャー

SMS-70H

SIGNAL MONITOR & SWITCHER

取扱説明書

このたびは、ビデオトロン製品をお買い上げいただきありがとうございました。
安全に正しくお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この製品を安全にご使用いただくために



警告

誤った取扱いをすると死亡または重傷、火災など重大な結果を招く恐れがあります。

1) 電源プラグ、コードは

- ・ 定格で定められた電源以外は使用しないでください。
- ・ 差込みは確実に。ほこりの付着やゆるみは危険です。
- ・ 濡れた手でプラグの抜き差しを行わないでください。
- ・ 抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを持って引っ張らないでください。
- ・ 電源コードは巻かずに、伸ばして使用してください。
- ・ 電源コードの上に重い物を載せないでください。
- ・ 機械の取り外しや清掃時等は必ず機械の電源スイッチを OFF にし、電源プラグを抜いてから行ってください。

2) 本体が熱くなったら、焦げ臭いにおいがしたら

- ・ すぐに電源スイッチを切ってください。電源スイッチのない機械の場合は、電源プラグを抜くなどして電源の供給を停止してください。機械の保護回路により電源が切れた場合、あるいはブザー等による警報がある場合にもすぐに電源スイッチを切るか、電源プラグを抜いてください。
- ・ 空調設備を確認してください。
- ・ しばらくの間機械に触れないでください。冷却ファンの停止などにより異常発熱している場合があります。
- ・ 機械の通風孔をふさぐような設置をしないでください。熱がこもり異常発熱の原因になります。
- ・ 消火器の設置をお勧めします。緊急の場合に取り扱えるようにしてください。

3) 修理等は、弊社サービスにお任せください

- ・ 感電・故障・発火・異常発熱などの原因になりますので、弊社サービスマン以外は分解・修理などを行わないでください。
- ・ 故障の場合は、弊社 サポートセンターへご連絡ください。

4) その他

- ・ 長期に渡ってご使用にならない時は電源スイッチを切り、安全のため電源プラグを抜いてください。
- ・ 質量のある機械は一人で持たず、複数人でしっかりと持ってください。転倒や機械の落下によりけがの原因になります。
- ・ 冷却ファンが回っている時はファンに触れないでください。ファン交換などは必ず電源を切り、停止していることを確かめてから行ってください。
- ・ 車載して使用する場合は、より確実に固定してください。転倒し、けがの原因になります。
- ・ ラックマウントおよびラックの固定はしっかりと行ってください。地震などの災害時に危険です。
- ・ 機械内部に異物が入らないようにしてください。感電・故障・発火の原因になります。



注意

誤った取扱いをすると機械や財産の損害など重大な結果を招く恐れがあります。

1) 機械の持ち運びに注意してください

- ・落下等による衝撃は機械の故障の原因になります。
また、足元に落としたりしますとけがの原因になります。

2) 外部記憶メディア対応の製品では

- ・規格に合わないメディアの使用はドライブ・コネクタの故障の原因になります。
マニュアルに記載されている規格の製品をご使用ください。
- ・強い磁場がかかる場所に置いたり近づけたりしないでください。内部データに影響を及ぼす場合があります。
- ・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。故障の原因になります。
- ・大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

● 定期的なお手入れをおすすめします

- ・ほこりや異物等の浸入により接触不良や部品の故障が発生します。
- ・お手入れの際は必ず電源を切り、電源プラグを抜いてから行ってください。
また、電解コンデンサー、バッテリー他、長期使用劣化部品等は事故の原因につながります。
安心してご使用いただくために定期的な(5年に一度)オーバーホール点検をおすすめします。
期間、費用等につきましては弊社 サポートセンターまでお問い合わせください。

※上記現象以外でも故障かなと思われた場合やご不明な点がございましたら、弊社 サポートセンターまでご連絡ください。

保証規定

① 本製品の保証期間は、お買い上げ日より1年間とさせていただきます。

なお、保証期間内であっても次の項目に該当する場合は有償修理となります。

- (1) ご利用者様での、輸送、移動、落下時に生じた製品破損、損傷、不具合。
- (2) 適切でない取り扱いにより生じた製品破損、損傷、不具合。
- (3) 火災、天災、設備異常、供給電圧の異常、不適切な信号入力などにより生じた破損、損傷、不具合。
- (4) 当社製品以外の機器が起因して当社製品に生じた破損、損傷、不具合。
- (5) 当社以外で修理、調整、改造が行われている場合、またその結果生じた破損、損傷、不具合。

② 保証は日本国内においてのみ有効です。【This Warranty is valid only in Japan.】

③ 修理責任免責事項について

当社の製品におきまして、有償無償期間に関わらず出来る限りご依頼に沿える修理対応を旨としておりますが、以下の項目に該当する場合はやむをえず修理対応をお断りさせていただく場合がございます。

- (1) 生産終了より7年以上経過した製品、及び製造から10年以上経過し、機器の信頼性が著しく低下した製品。
- (2) 交換の必要な保守部品が製造中止により入手不可能となり在庫もない場合。
- (3) 修理費の総額が製品価格を上回る場合。
- (4) 落雷、火災、水害、冠水、天災などによる破損、損傷で、修理後の恒久的な信頼性を保証出来ない場合。

④ アプリケーションソフトについて

- (1) 製品に付属しているアプリケーションは、上記規定に準じます。
- (2) アプリケーション単体で販売している場合は、販売終了より3年経過した時点で、サポートを終了いたします。

※紙の保証書は廃止し、製品のシリアル番号で保証期間内外の判断をさせていただいております。

何卒、ご理解の程よろしくお願いいたします。

この製品を安全にご使用いただくために.....	I
保証規定.....	III
1. 概 説.....	1
2. 機能チェックと筐体への取り付け.....	2
1. 構 成.....	2
2. 筐体への取り付け.....	3
3. 機能チェック接続.....	4
4. POWER ON までの手順.....	4
5. 基本動作チェック.....	4
3. 各部の名称と働き.....	5
1. メインモジュール／コネクタモジュール.....	5
2. SMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル(オプション).....	8
3. RCP-01F-ALM LAN 対応 アラーム・コントロール・パネル(オプション).....	10
4. 操作方法.....	12
1. 基本操作.....	12
2. メニューツリー.....	14
3. 各機能の説明.....	31
(1)ERROR LOG.....	31
(2)LOG FILTER.....	34
(3)p ERROR DETECT.....	36
(4)s ERROR DETECT.....	41
(5)a ERROR DETECT.....	41
(6)PRESET.....	41
(7)GPI.....	43
(8)SYSTEM.....	47
(9)MEMORY FILE.....	52
(10)CONFIG.....	54
(11)INFORMATION.....	61
(12)MAINTENANCE.....	63
4. AVDL メーターについて.....	67
5. SMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル(オプション)の使い方.....	68
(1)パネル基本操作.....	68
(2)パネル設定モード操作.....	69
6. RCP-01F-ALM LAN 対応 アラーム・コントロール・パネル(オプション)の使い方.....	70
(1)設定項目の選択と終了操作.....	71
(2)パネル基本操作.....	75
(3)設定項目の選択と終了操作.....	76
(4)パネル基本操作.....	78
(5)パネル設定モード操作.....	79
7. ログのダウンロード.....	80
8. 設定ファイルのダウンロード、アップロード.....	80
9. MEMORY FILE 機能.....	82
(1)静止画ファイルのフォーマット.....	82
(2)音声ファイルのフォーマット.....	82

(3) ファイルの取り込み	83
(4) ファイル機能に関する所要時間	84
5. エラー検出について	85
1. SDI SIGNAL	85
2. TRS	85
3. LINE NUMBER	85
4. CRC Y	85
5. CRC C	85
6. LINE LENGTH	86
7. FIELD LENGTH	86
8. RESERVED DATA	86
9. ANC PARITY	86
10. ANC CHECKSUM	86
11. BCH	87
12. AUDIO PACKET	87
13. NO AUDIO PACKET	87
14. MUTE	87
15. BLACK	87
16. FREEZE	88
17. BLUE	88
18. COMPARE	88
19. STILL	89
6. 外部インターフェース	92
1. GPI/PANEL 端子	92
7. SNMP	93
8. トラブルシューティング	110
9. 仕 様	112
1. 機 能	112
2. 定 格	113
3. 性 能	114
10. その他	116
1. 出荷時設定に戻す	116
2. GENLOCK PHASE 設定	116
3. 切り替えタイミング	117
11. ブロック図	119
12. 外形寸法図	120
1. SMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル(オプション)	120
2. RCP-01F-ALM LAN 対応 アラーム・コントロール・パネル (オプション)	120
3. RCP-01F-STAND 卓上置きタイプ取付キット付き RCP-01F-ALM (オプション)	121

1. 概 説

SMS-70Hは、現用系、予備系、AUX系のそれぞれのSDI入力信号のエラーを監視し、SDI出力信号を任意の系統へ切り替えてアラーム信号を出力するモジュールです。SDI出力信号は現用系、予備系の他にAUX入力やムービングCB、オプションでフラッシュメモリーに保存された静止画像とWAV音声の出力も可能です。

エラーはTRS、CRCなど19種類を検出します。アラームは接点出力およびSNMP(筐体実装)で出力します。SNMPはVbus筐体経由ですので1つのIPアドレスで棚板全体を監視するシステムを組めます。また、接点入力により強制的に現用系から予備系へ出力を切り替えることもできます。

《特 長》

- HD-SDI、3G-SDI信号に対応 ※1
- 現用系入力からSD OUT 1へのバイパス機能
- 現用系、予備系、AUX入力のエラーを監視
- 接点入力によりSDI OUT 1の強制切り替え
- エラー発生時は、外部に信号を接点出力
- エラー内容は、項目別にON/OFFプログラム
- SNMPで設定変更が可能、エラー時はTRAP発生
- ログの閲覧、ダウンロードが可能
- PREVIEW出力で切り替え前の映像確認が可能
- AUX入力をチョイ待ちスーパーや予備予備として使用可能
- AUX入力端子は設定メニューで予備系入力のリクロック出力として使用可能
- 現用系、予備系、AUXの各入力の処理はFSとAVDLのどちらかを選択可能で、同タイミングでスイッチ可能 ※2
- EMB音声のクリーンスイッチングが可能 ※3
- ムービング設定が可能な内蔵カラーバーの出力が可能
- 内蔵フラッシュメモリーに保存された静止画像とWAV音声の出力が可能 ※4
- HANC、VANCのデータを通過 ※5

※1 3G-SDI信号でのご使用時には以下の機能制限がございます。

- ・STILL検出 : ご使用になれません
- ・PREVIEW出力の4SCREENS : ご使用になれません。

※2 FSとAVDLを混在した時のスイッチのタイミングは、AVDLの引き込み範囲内になります。

※3 切り替えを行う映像入力にFSを選択した時に可能です。切り替え前のノイズは吸収されません。

※4 オプションです。静止画像は4枚(1920x1080)、WAV音声は4つ(2CH/16bit/48kHz/最長およそ52秒)の保存が可能です。

また、静止画像の出力時のAUX入力には以下の機能制限がございます。

- ・HD-SDI信号 : PREVIEW出力でAUX出力はご使用になれません。
- ・3G-SDI信号 : PREVIEW出力でAUX、SPLIT2出力はご使用になれません。

※5 入力信号処理にAVDLを使用した場合、全てのANCデータが通過します。

入力信号処理にFSを使用した場合、一部のHANCデータ(オーディオ、RP188、352M)とVANCデータ(スイッチングポイントとその次のラインを除くY領域)が通過します。

2. 機能チェックと筐体への取り付け

1. 構 成

(1) SMS-70H 本体

番号	品名	型名・規格	数量	記事
1	メインモジュール	SMS-70H	1	
2	コネクタモジュール		1	
3	取扱説明書		1	本書

①メインモジュール

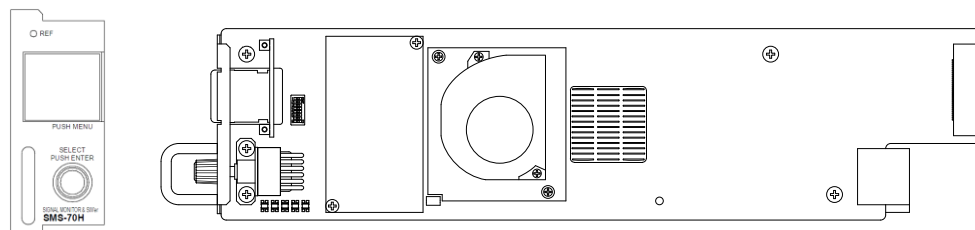


図2-1 メインモジュール外観図

②コネクタモジュール

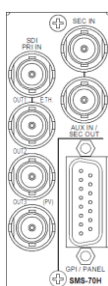


図2-2 コネクタモジュール外観図

(2) SMS-70H-01 リモート・コントロール・ケーブル(オプション)

番号	品名	型名・規格	数量	記事
1	リモート・コントロール・ケーブル (15cm)	SMS-70H-01	1 本	SMS-70H と SMS-70V-01 又は RCP-01F-ALM の接続に使用

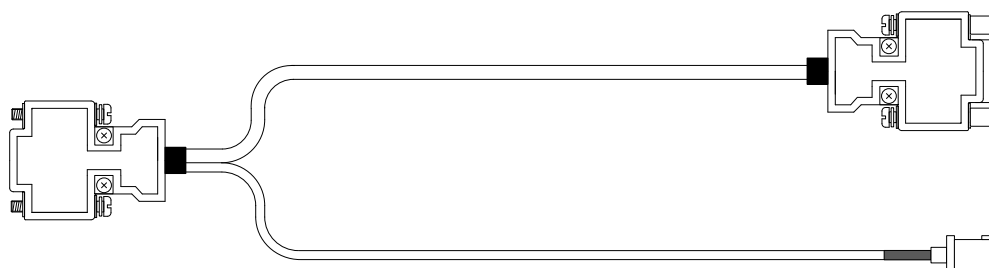


図2-3 SMS-70H-01外観図(オプション)

(3) SMS-70H-02 画像音声ファイルオプション(オプション)

番号	品名	型名・規格	記事
1	画像音声ファイルオプション	SMS-70H-02	MEMORY FILE 機能を実装するオプションです。 内蔵フラッシュメモリーに保存された静止画像と WAV 音声を出力することができます。

(4) SMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル(オプション)

番号	品名	型名・規格	数量	記事
1	リモート・コントロール・パネル	SMS-70V-01	1	
2	電源ケーブル	2m	1	
3	マウントビス	5mm	4	
4	予備ヒューズ	2A/250V	1	ヒューズホルダーに実装済み

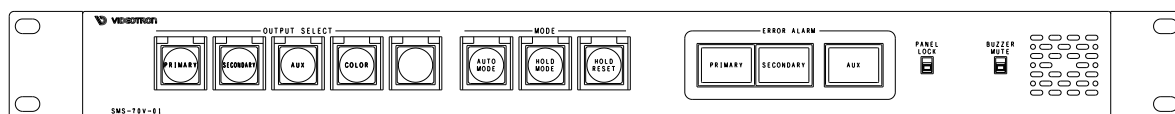


図2-4 SMS-70V-01外観図(オプション)

(5) RCP-01F-ALM LAN対応 アラーム・コントロール・パネル(オプション)

番号	品名	型名・規格	数量	記事
1	アラーム・コントロール・パネル	RCP-01F-ALM	1	
2	電源ケーブル	2m	1	
3	マウントビス	5mm	4	
4	予備ヒューズ	2A/250V	1	ヒューズホルダーに実装済み

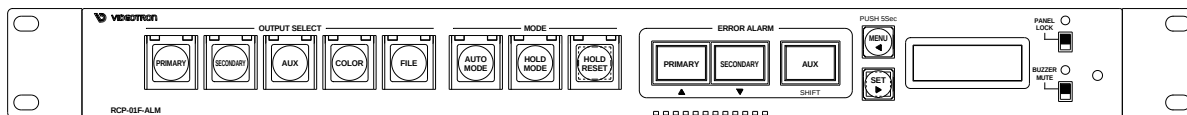


図2-5 RCP-01F-ALM外観図(オプション)

(6) RCP-01F-STAND 卓上置きタイプ取付キット(オプション)

番号	品名	型名・規格	数量	記事
1	卓上置きタイプ取付キット	RCP-01F-STAND	1	
2	取付ネジ	M3x8	8	

※RCP-01F-ALMへ取り付けをした図は、「12.外形寸法図 / 3. RCP-01F-STAND 卓上置きタイプ取付キット付き RCP-01F-ALM (オプション)」をご参照ください。

2. 筐体への取り付け

ご使用の際には、コネクターモジュールおよびメインモジュールを筐体に取り付けてください。筐体はVbusシリーズに対応します。実装方法については「各Vbusの取扱説明書」を参照してください。

3. 機能チェック接続

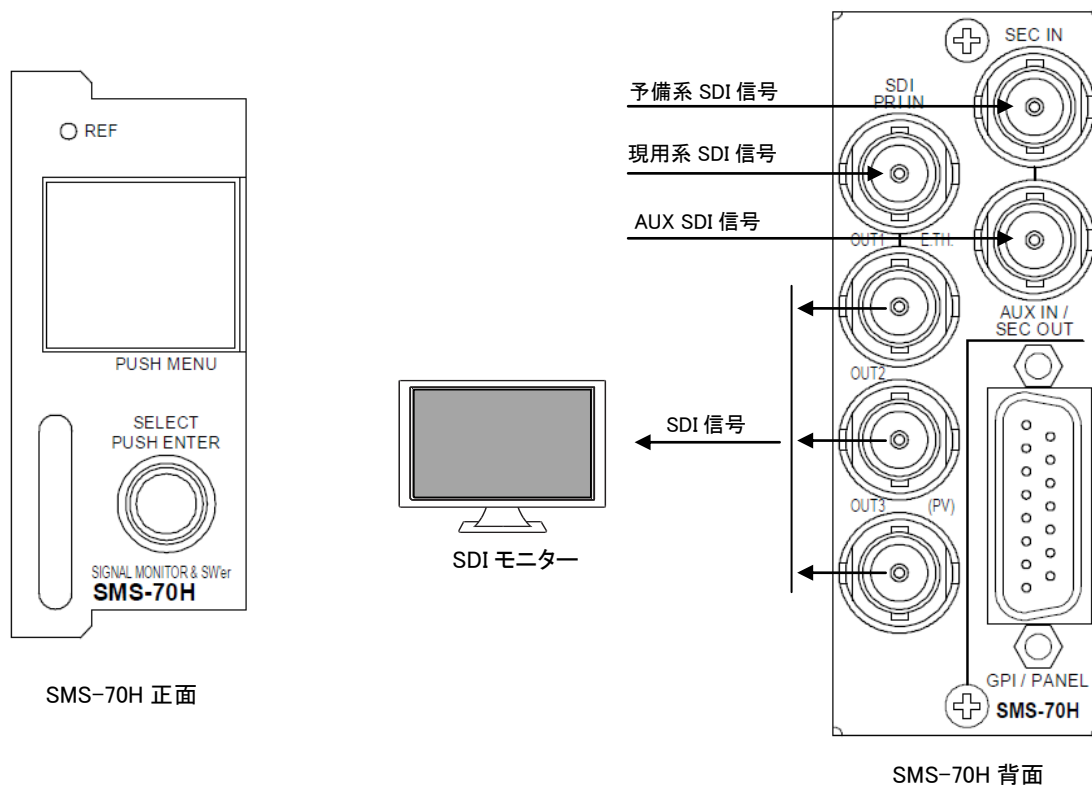


図2-1 機能チェック接続図

4. POWER ON までの手順

- (1)コネクタモジュールおよびメインモジュールを筐体へ正しくセットします。
- (2)筐体の電源プラグをAC100Vのコンセントに接続します。
- (3)SDI PRI INに現用系、SDI SEC INに予備系、AUX INに補助用としてSDI信号を入力します。
本製品で対応する映像フォーマットは「9.仕様 / 2.定格」を参照してください。
工場出荷時は1080i59.94になっていますので、他のフォーマットを使用する時はMENU→SYSTEM→FORMATで設定を行ってください。
- (4)SDI OUT 1、2、3をSDIモニターに接続します。
- (5)筐体の電源スイッチを投入します。電源スイッチを投入すると筐体のパワーランプが点灯します。

5. 基本動作チェック

下記の操作で本機が正常に動作していることをチェックします。

正常に動作しない場合は「8.トラブルシューティング」を参照してください。

- (1)上記「3.機能チェック接続」、「4.POWER ONまでの手順」を参照して、筐体の電源スイッチを投入します。
- (2)メインモジュール正面のELディスプレイに入力信号や出力信号の選択状態が確認できるステータスが表示されます。
- (3)工場出荷時の状態でSDI OUT 1とOUT 2にSDI PRI INの信号が出力されていることを確認します。
- (4)他のSDI INを確認します。MENU→CONFIG→PREVIEW→PREVIEW MODEでSPLIT 2を選択します。
- (5)SDI OUT 3に3分割の映像が出力され、左がSDI PRI IN、中がSDI SEC IN、右がSDI AUX INの映像になっている事を確認します。

3. 各部の名称と働き

1. メインモジュール／コネクターモジュール

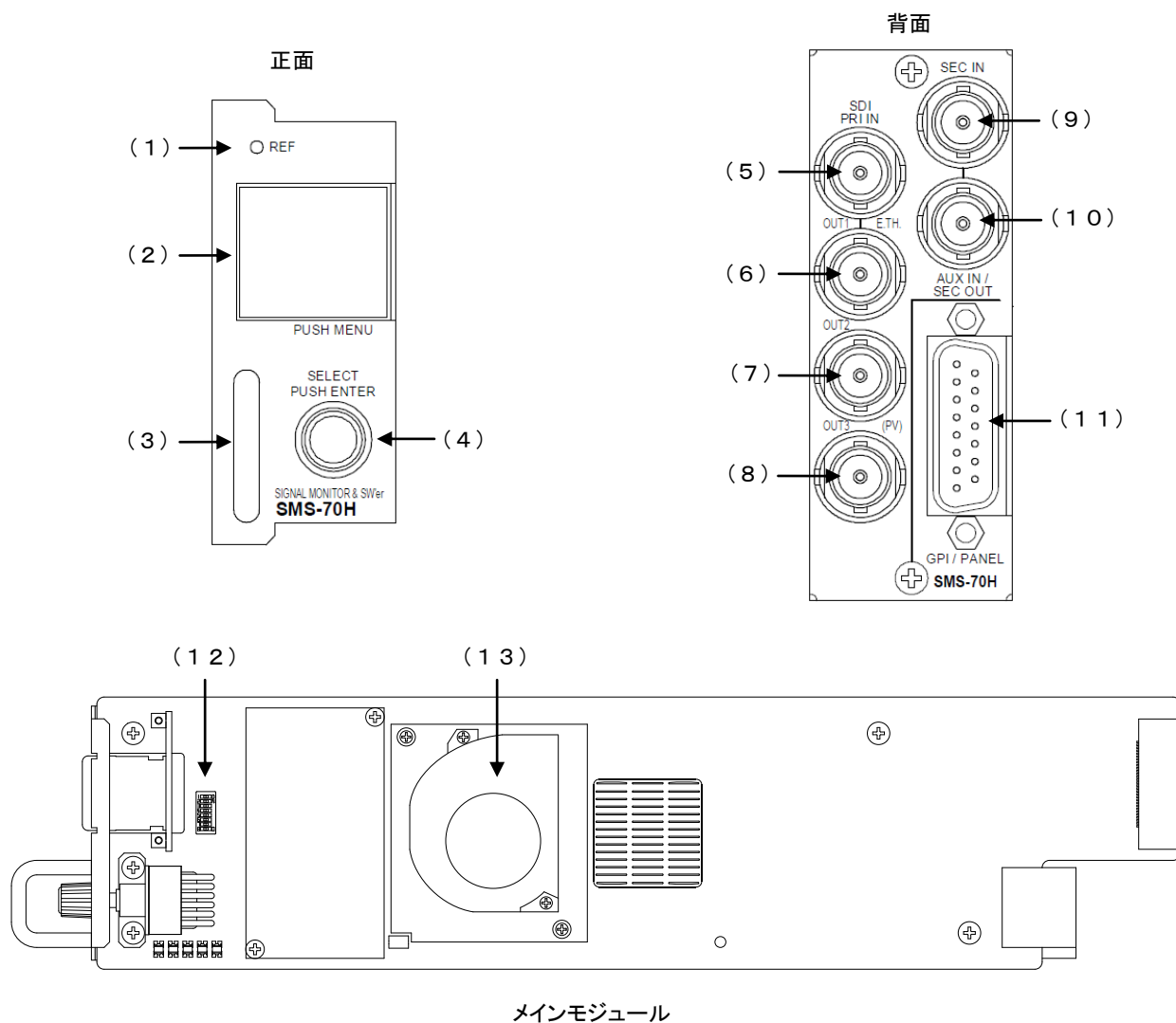


図3-1 各部の名称と働き

(1) REFランプ

リファレンス信号の状態を示します。

ランプの状態	REFERENCE SELECT	説明
消灯	LINE DIRECT	REFERENCE設定がLINE DIRECTに設定されている
消灯	EXT SUB	同一筐体内のMASTER設定のモジュールからのリファレンス信号がない
緑点灯	EXT SUB	同一筐体内のMASTER設定のモジュールからのリファレンス信号でロックしている ※MASTER設定のモジュール(筐体背面のREF INを含む)からのリファレンス信号の供給が断になると筐体前面のREF INランプが点滅しますが、筐体内のリファレンス信号は自走で供給を続ける為、当装置のREFランプは緑点灯になります。
橙点灯	EXT SUB	同一筐体内のMASTER設定のモジュールからのリファレンス信号でロックできない

(2) ELディスプレイ / MENUスイッチ

通常時は各種ステータスを表示するディスプレイです。

スイッチ機能も兼ねており、通常時にELディスプレイパネルを押すと設定メニューの階層に入り、様々な設定を行うことができます。設定メニューの階層下では、キャンセルボタン、またはメニューの階層を上げるスイッチとして機能します。

表示内容の詳細は「4.操作方法 / 1.基本操作」の項を参照してください。また、当MENUスイッチを2秒間押し続けると、SDI OUT 3にオンスクリーンメニューが表示されます。

※オンスクリーンメニューが表示されない時は、**MENU**→CONFIG→DISPLAY→OSDの設定をENABLEにしてください。

(3) 取手

筐体への取り付け、取り外しなどを行う場合はこの部分を持ちます。

(4) 選択ツマミ及びENTERボタン

選択ツマミはプッシュスイッチを内蔵します。選択ツマミはメニューの項目や設定の選択に使用し、ENTERボタンは決定ボタンに使用します。

(5) SDI PRI IN端子(PRIMARY入力)

現用系SDI信号を入力します。

(6) SDI OUT 1 / E.TH.端子

SDI信号を出力します。

バイパス機能付きで、電源OFF時はSDI IN PRIからSDI OUT 1へバイパスされます。

(7) SDI OUT 2端子

SDI信号を出力します。

SDI OUT 1の分配出力です。

SDI IN PRIのバイパス機能はありません。

(8) SDI OUT 3(PV)端子

SDI信号を出力します。

プレビュー機能を選択できます。

設定メニューのオンスクリーンディスプレイに対応しています。

(9) SDI SEC IN端子(SECONDARY入力)

予備系SDI信号を入力します。

(10) SDI AUX IN / SEC OUT端子

補助系SDI信号を入力します。

AUX入力を使用しない時は、設定メニューでSDI SEC INのリクロック出力としても使用できます。

(11) GPI / PANEL端子

接点信号及びリモート・コントロール・パネルと接続します。

詳細は「6.外部インターフェース / 1.GPI/PANEL端子」を参照してください。

(12)ディップスイッチ

以下*は工場出荷時設定です。

1)DIP SW-8 工場出荷時初期化設定

DIP SW	ON/OFF	機能
8	OFF*	設定値を維持します
	ON	設定値を工場出荷時設定にします

工場出荷設定に戻す時に使用します。

※工場出荷時設定に戻す手順

ディップスイッチを下図の”工場出荷時設定”にした後、モジュールを筐体の実装し電源を投入します。
モジュールが起動しELディスプレイに”RST!”が表示されると初期化完了です。

初期化完了後は必ず通常設定に戻してください。

通常設定 工場出荷時設定

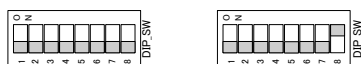


図 3-2 ディップスイッチによる工場出荷時設定

(13)チップクーリングFAN

デバイス冷却用のファンです。

ファンの回転数が規定値を下回った場合、本体正面の表示器に”FAN ERR”を表示します。

”FAN ERR”を表示している場合はVbus筐体からモジュールアラームの接点出力、SNMPによるトラップ発行があります。この状態におけるご使用は可能な限り避け、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

2. SMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル(オプション)

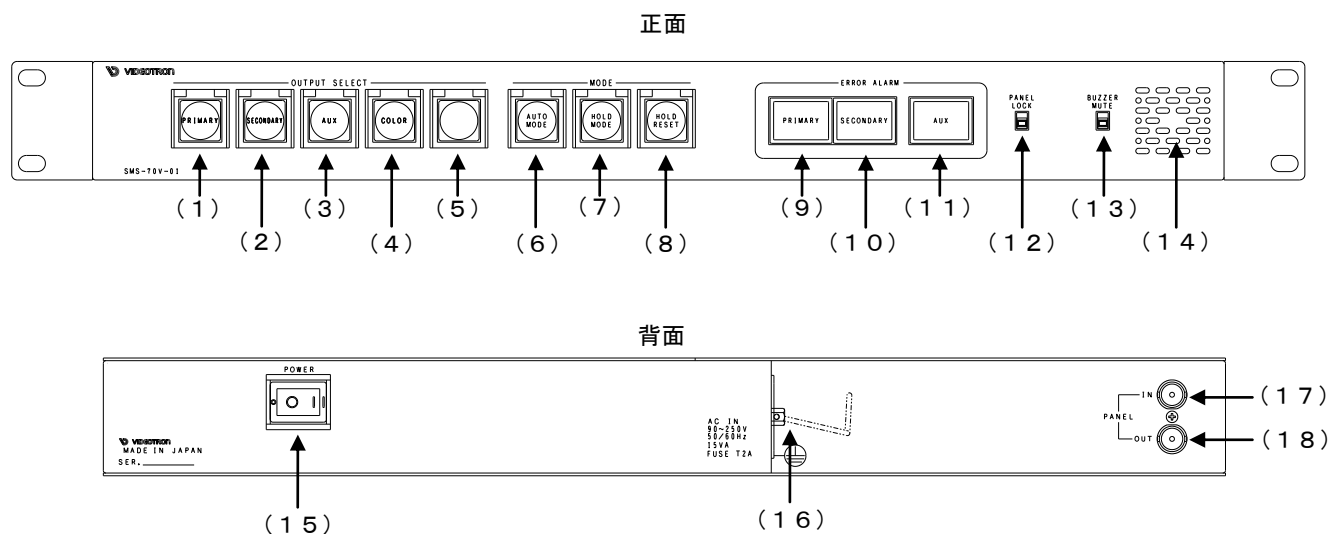


図3-3 SMS-70V-01各部の名称と働き

- (1) **PRIMARY** ボタン
SDI OUT 1をPRIMARYに切り替えるボタンです。
- (2) **SECONDARY** ボタン
SDI OUT 1をSECONDARYに切り替えるボタンです。
- (3) **AUX** ボタン
SDI OUT 1をAUXに切り替えるボタンです。
- (4) **COLOR** ボタン
SDI OUT 1をCOLORに切り替えるボタンです。
- (5) ボタン
将来の拡張用です。
画像音声ファイルオプションを実装した時はFILEボタンになります。
- (6) **AUTO MODE** ボタン
AUTO MODEのON/OFFボタンです。
- (7) **HOLD MODE** ボタン
HOLD MODEのON/OFFボタンです。
- (8) **HOLD RESET** ボタン
エラーホールド解除ボタンです。
- (9) PRIMARY ALARM LED
PRIMARY ERRORアラームです。

- (10) SECONDARY ALARM LED
SECONDARY ERRORアラームです。
- (11) AUX ALARM LED
AUXアラームです。
- (12) PANEL LOCKスイッチ
パネル操作を禁止にします。
- (13) BUZZER MUTEスイッチ
ブザー音を禁止にします。
- (14) BUZZERスピーカー
ALARM LED点灯時にブザー音を発します。
- (15) POWER
電源スイッチです。
- (16) AC IN
電源ケーブルコネクタです。
- (17) PANEL IN
本体コネクタモジュールへ同軸ケーブルで接続します。
- (18) PANEL OUT
現在未使用です。

3. RCP-01F-ALM LAN 対応 アラーム・コントロール・パネル(オプション)

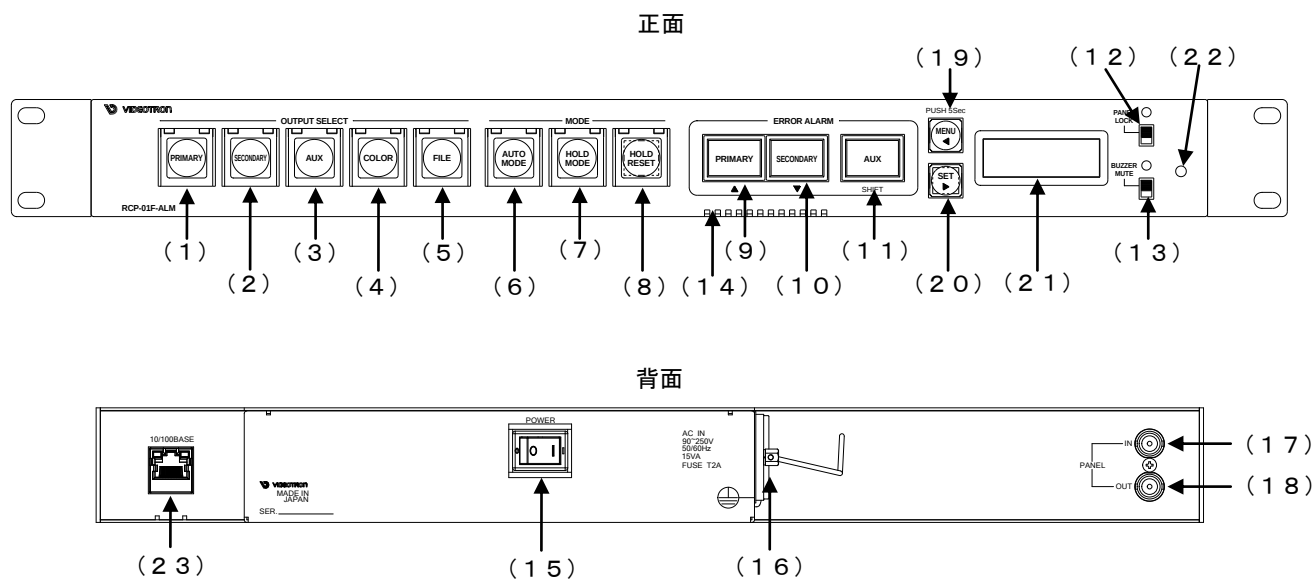


図3-3 RCP-01F-ALM各部の名称と働き

- (1) **PRIMARY** ボタン
SDI OUT 1をPRIMARYに切り替えるボタンです。
- (2) **SECONDARY** ボタン
SDI OUT 1をSECONDARYに切り替えるボタンです。
- (3) **AUX** ボタン
SDI OUT 1をAUXに切り替えるボタンです。
- (4) **COLOR** ボタン
SDI OUT 1をCOLORに切り替えるボタンです。
- (5) **FILE** ボタン
オプションの内蔵ファイル機能です。
- (6) **AUTO MODE** ボタン
AUTO MODEのON/OFFボタンです。
- (7) **HOLD MODE** ボタン
HOLD MODEのON/OFFボタンです。
- (8) **HOLD RESET** ボタン
エラーホールド解除ボタンです。
- (9) **PRIMARY ALARM LED**
PRIMARY ERRORアラームです。

- (10) SECONDARY ALARM LED
SECONDARY ERRORアラームです。
- (11) AUX ALARM LED
AUXアラームです。
- (12) PANEL LOCKスイッチ
パネル操作を禁止にします。
- (13) BUZZER MUTEスイッチ
ブザー音を禁止にします。
- (14) BUZZERスピーカー
ALARM LED点灯時にブザー音を発します。
- (15) POWER
電源スイッチです。
- (16) AC IN
電源ケーブルコネクタです。
- (17) PANEL IN
本体コネクタモジュールへ同軸ケーブルで接続します。
- (18) PANEL OUT
現在未使用です。
- (19) MENU ◀ ボタン
メニュー操作の設定キャンセルおよび制御宛先モジュールの選択を左方向へ切り替えます。
- (20) SET ▶ ボタン
メニュー操作の設定確定および制御宛先モジュールの選択を右方向へ切り替えます。
- (21) LCD表示器
カレント選択モジュール、10台分モジュールのエラーステータス、MENUなどを表示します。
表示内容詳細は P70 ページをご参照ください。
- (22) 調整穴
LCD表示器のコントラストを調整するための穴です。
Φ4.0mm以下の“—”ドライバーを使用して調整します。
- (23) RJ45コネクタ
10/100 Base イーサネットコネクタです。
ネットワーク経由遠隔地の複数台モジュールを制御、エラー監視します。

4. 操作方法

1. 基本操作

(1) 電源投入直後の本装置の起動中、前面のREFランプが約0.5秒ごとに緑と橙に点灯します。

その後、工場出荷時のメインモジュール正面のELディスプレイは、入力信号の状態や出力信号の選択状態を示す【STATUS】が表示されます。また、入力信号のAVDLの位相の状態を示す【AVDL METER】への切り替えも可能です。

【AVDL METER】への切り替えは **MENU** → CONFIG → DISPLAY → MAIN VIEW の操作で行います。



図4-1-1 ELディスプレイの表示

①機種名(SMS-70H)⇒映像フォーマットが交互に表示されます。この情報以外に以下の表示があります。

- Loading..... 静止画像もしくはWAV音声ファイルの展開動作中を示します。
この表示がある時は同各ファイルの出力はできません。
- FAN ERROR... 基板上のチップクーリングFANの故障が考えられます。その際は弊社カスタマーサービスまでご連絡ください。

②SDI OUT 1に出力されている入力ソースを丸印で示します。丸印の色は以下の意味があります。

- 白..... AUTO MODE設定がOFFになっている事を示します。
- 青..... AUTO MODE設定がONでHOLD MODE設定がOFFになっている事を示します。
- 緑..... AUTO MODE設定とHOLD MODE設定が共にONになっている事を示します。

③SDI PRIMARY INの状態を示します。

④SDI SECONDARY INの状態を示します。

⑤SDI AUX INの状態を示します。「AUX」の文字の色によって「SDI AUX IN / SEC OUT端子」の設定の状態を示します。

- 白..... AUX INに設定しています。
- グレー... SECONDARY OUTに設定しています。

⑥インターナルカラーを示します。

⑦入力信号の状態を示します。

- OK..... 正常な信号が入力されています。
- ER..... エラーが検出されている信号が入力されています。
- NO..... 入力信号がありません。

⑧切り替え設定を示します。

- TGL..... トグルモードで切り替えを行います。
- 表示なし.. 通常の切り替えを行います。

⑨ SYNC MODEを表示します。

- F..... フレームシンクロナイザー(FS)が使用されています。
- A..... ラインシンクロナイザー(AVDL)が使用されています。
緑色のAは入力されているSDI信号の位相がAVDLの引き込み範囲に入っている事を示し、赤色のAは同位相がAVDLの引き込み範囲に入っていない事を示します。
- L..... REFERENCE設定がLINE DIRECTになっている事を示します。

⑩ AVDL METERを表示している信号名を示します。

- PRI..... SDI PRIMARY INです。
- SEC..... SDI SECONDARY INです。
- AUX..... SDI AUX INです。

⑪ AVDLのメーター表示部です。

SYNCモードがFSの時は「FS MODE」と表示がされ、AVDLの時はAVDLメーターのグラフィックが表示されます。

AVDLメーターは入力信号の位相が、本機のAVDLの引き込み範囲内にあるか否かのステータスを図示します。

緑のラインはAVDL引き込み範囲内を意味し、赤い部分は引き込み範囲外であることを意味します。

▼のマーカは入力信号の位相を意味し、AVDLの引き込み範囲に対しての位相関係を把握できます。

▼のマーカが0HIに近いほど、最短の内部遅延で出力されていることを示します。

-1H...0H のスケールは、各フォーマットにおける水平ラインに相当する時間を意味しています。

入力信号がAVDLの引き込み範囲外にある場合は、入力信号の位相を調整するか、

MENU→SYSTEM→GENLOCK PHASEで疑似的にゲンロックの位相を内部的に調整することが可能です。

⑫ 位相情報を表示します。

SYNCモードがFSの時は入力と出力の遅延時間を示します。

AVDLの時はその引き込み範囲の最短遅延位相を0秒とした時の位相を数値で表示します。この数値が“0”Sの時は、引き込み範囲に入るか入らないかの境界点です。この境界点は入力信号と、リファレンス信号の位相関係によって決まります。

2. メニューツリー

MENU

ERROR LOG	【ERROR LOG】	プレビュー出力にオンスクリーンで ERROR LOG を表示します。
LOG DISP	【LOG DISP】	ERROR LOG を表示します。
LOG CLEAR	【LOG CLEAR】	ERROR LOG をクリアします。
YES=ENTER ボタン	【CLEAR?】	操作を実行します。
NO=MENU スイッチ		操作を実行しません。
LOG MODE	【LOG MOE】	ERROR LOG の並び順を設定します。
ZtoA	【ZtoA】	ログを記録の順に上から下へ表示します。
AtoZ	【AtoZ】	ログを記録の順に下から上へ表示します。
LOG FILTER	【LOG FILTER】	ERROR LOG で表示する項目を選択します。
LOG SAVE	【LOG SAVE】	ERROR LOG をテキストファイルに保存します。
YES=ENTER ボタン	【SAVE?】	操作を実行します。
NO=MENU スイッチ		操作を実行しません。
ALL SET	【ALL SET】	全項目一斉に設定します。
OFF	【OFF】	全項目を OFF に設定します。
ON	【ON】	全項目を ON に設定します。
SDI SIGNAL	【SDI SIGNAL】	SDI 信号無しエラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
TRS	【TRS】	TRS エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
LINE NUMBER	【LINE NUM】	LINE NUMBER エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
CRC Y	【CRC Y】	Y 信号の CRC エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
CRC C	【CRC C】	C 信号の CRC エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
LINE LENGTH	【LINE LEN】	LINE LENGTH エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
FIELD LENGTH	【FIELD LEN】	FIELD LENGTH エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
RESERVED DATA	【RSV DATA】	RESERVED DATA エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。

MENU

LOG FILTER(続き)	【LOG FILTER】	ERROR LOG で表示する項目を選択します。
ANC PARITY	【ANC PARITY】	ANCILLARY PARITY エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
ANC CHECKSUM	【ANC CSUM】	ANCILLARY CHECKSUM エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
BCH	【BCH】	AUDIO BCH エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
AUDIO PACKET	【AUDIO PKT】	AUDIO DATA PACKET DBN インクリメントエラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
NO AUDIO	【NO AUDIO】	NO AUDIO PACKET エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
MUTE	【MUTE】	MUTE エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
BLACK	【BLACK】	BLACK エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
FREEZE	【FREEZE】	FREEZE エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
BLUE	【BLUE】	BLUE エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
COMPARE	【COMPARE】	COMPARE エラーの表示設定をします。
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。
STILL	【STILL】	STILL エラーの表示設定をします。※1
OFF	【OFF】	ログを表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。

MENU

p ERROR DETECT	【p ERR DET】	PRIMARY のエラー検出およびアラームを出力する条件を設定します。
p ERR DET1 OFF, 1 ~ 9	【p ERR DET1】 【OFF,1~9】	エラーパターン 1 の検出設定をします。 1~9 でプリセットパターン(PRESET1~9)を指定します。OFF は検出を行いません。
p ERR DET2 OFF, 1 ~ 9	【p ERR DET2】 【OFF,1~9】	エラーパターン 2 の検出設定をします。 1~9 でプリセットパターン(PRESET1~9)を指定します。OFF は検出を行いません。
p ERR DET3 OFF, 1 ~ 9	【p ERR DET3】 【OFF,1~9】	エラーパターンの 3 検出設定をします。 1~9 でプリセットパターン(PRESET1~9)を指定します。OFF は検出を行いません。
p MUTE	【p MUTE】	MUTE 音声検出のパラメータ設定をします。
p TIME1 1 ~ 5 ~ 999	【p TIME1】 【5】	ERROR DETECT1 のミュート検出時間を設定します。 検出時間を秒単位で設定します。
p TIME3 1 ~ 5 ~ 999	【p TIME3】 【5】	ERROR DETECT3 のミュート検出時間を設定します。 検出時間を秒単位で設定します。
psa LEVEL -80 ~ -60	【psaLEVEL】 【-80】	ミュートを検出する音声レベルを設定します。 音声レベルを dBFS で設定します。
p CHANNEL1 OFF ON	【p CHANNEL1】 【OFF】 【ON】	チャンネル 1 検出の設定をします。 検出を無効にします。 検出を有効にします。
p CHANNEL4 p CHANNEL1 に同じ	【p CHANNEL4】	チャンネル 4 検出の設定をします。
p CHANNEL5 OFF ON	【p CHANNEL5】 【OFF】 【ON】	チャンネル 5 検出の設定をします。 検出を無効にします。 検出を有効にします。
p CHANNEL8 p CHANNEL5 に同じ	【p CHANNEL8】	チャンネル 8 検出の設定をします。
p CH MODE OR AND	【p CH MODE】 【OR】 【AND】	チャンネルの検出条件を設定します。 音声の無音を OR 条件で検出します。 音声の無音を AND 条件で検出します。
p BLACK	【p BLACK】	BLACK 映像検出のパラメータ設定をします。
p TIME1 0 ~ 5 ~ 999	【p TIME1】 【5】	ERROR DETECT1 の BLACK 検出時間を設定します。 検出時間を秒単位で設定します。
p TIME3 0 ~ 5 ~ 999	【p TIME3】 【5】	ERROR DETECT3 の BLACK 検出時間を設定します。 検出時間を秒単位で設定します。
psaLEVEL 0 ~ 99	【psaLEVEL】 【0】	BLACK を検出する輝度レベルを設定します。 輝度レベルを IRE で設定します。

MENU

p ERROR DETECT(続き)	【p ERR DET】	PRIMARY のエラー検出およびアラームを出力する条件を設定します
p FREEZE TIME	【p FREEZE】	FREEZE 映像検出のパラメータ設定をします。
p TIME1	【p TIME1】	ERROR DETECT1 の FREEZE 検出時間を設定します。
0 ~ 5 ~ 999	【5】	検出時間を秒単位で設定します。
p TIME3	【p TIME3】	ERROR DETECT3 の FREEZE 検出時間を設定します。
0 ~ 5 ~ 999	【5】	検出時間を秒単位で設定します。
p BLUE	【p BLUE】	BLUE 映像検出のパラメータ設定をします。
p FREEZE に同じ		
p COMPARE TIME	【p COMPARE】	COMPARE 映像検出のパラメータ設定をします。
p TIME1	【p TIME1】	ERROR DETECT1 の COMPARE 検出時間を設定します。
0 ~ 150 ~ 19800	【150】	検出時間をフレーム単位で設定します。
p TIME3	【p TIME3】	ERROR DETECT3 の COMPARE 検出時間を設定します。
0 ~ 150 ~ 19800	【150】	検出時間をフレーム単位で設定します。
p STILL	【p STILL】	STILL 映像検出のパラメータ設定をします。※1
p TIME1	【p TIME1】	ERROR DETECT1 の STILL 検出時間を設定します。
0 ~ 5 ~ 999	【5】	検出時間を秒単位で設定します。
p TIME3	【p TIME3】	ERROR DETECT3 の STILL 検出時間を設定します。
0 ~ 5 ~ 999	【5】	検出時間を秒単位で設定します。
p PIX COMPARE	【p PIX COMP】	ピクセル(画素)の静止画判定のレベルを設定します。
PIX1 ~ PIX10	【PIX1~10】	PIX1~PIX10 の段階で設定します。
VARI	【VARI】	数値モードの VARI を選択します。
p PIX COMP VARI	【p PIX VARI】	VARI を選択した時の数値設定です。
1 ~ 100	【1】	1~100 の値で設定します。
p PIX HIT	【p PIX HIT】	STILL 判定するピクセル(画素)数の比率を設定します。
70 ~ 100	【100】	70~100%の値で設定します。
p MASK	【p MASK】	BLACK、FREEZE、STILL の検出範囲を決める MASK 設定をします。
p MASK	【p MASK】	MASK の有効・無効を設定します。
OFF	【OFF】	MASK を無効にします。
ON	【ON】	MASK を有効にします。
p PRESET	【p PRESET】	プリセットパターンを選択します。
1 ~ 8	【1】	1~8 を設定します。
p LEFT	【p LEFT】	MASK の左位置を設定します。
0 ~ 860 ~ 1059	【860】	ピクセル単位で指定します。
p RIGHT	【p RIGHT】	MASK の右位置を設定します。
861 ~ 1060 ~ 1919	【1060】	ピクセル単位で指定します。
p TOP	【p TOP】	MASK の上位置を設定します。
0 ~ 440 ~ 639	【440】	ピクセル単位で指定します。
p BOTTOM	【p BOTTOM】	MASK の下位置を設定します。
441 ~ 640 ~ 1019	【640】	ピクセル単位で指定します。

MENU

p ERROR DETECT(続き)	【p ERR DET】	PRIMARY のエラー検出およびアラームを出力する条件を設定します。 BLACK、FREEZE、STILL の検出範囲を決める MASK 設定をします。
└ p MASK(続き)	【p MASK】	
└ p H MOVE	【p H MOVE】	全体を横方向に移動させます。
└ 0	【0】	数値を+で右方向、-で左方向に移動します。
└ p V MOVE	【p V MOVE】	全体を縦方向に移動させます。
└ 0	【0】	数値を+で下方向、-で上方向に移動します。
└ p REVERSE	【p REVERS】	MASK の反転設定をします。
└ OFF	【OFF】	MASK を反転しません。
└ ON	【ON】	MASK を反転します。
└ psa LEVEL	【psaLEVEL】	MASK カーソルの透過レベルを設定します。
└ 1 ~ 3 ~ 4	【3】	1~4 を設定します。
s ERROR DETECT	【s ERR DET】	SECONDARY のエラー検出およびアラームを出力する条件を設定します。
└ p ERROR DETECT に同じ		
a ERROR DETECT	【a ERR DET】	AUX のエラー検出およびアラームを出力する条件を設定します。COMPARE 検出はありません。
└ a ERR DET1	【a ERR DET1】	エラーパターン 1 の検出設定をします。
└ OFF, 1 ~ 9	【OFF,1~9】	1~9 でプリセットパターン(PRESET1~9)を指定します。 OFF は検出を行いません。
└ 以降 COMPARE を除き、 p ERROR DETECT に同じ		
PRESET	【PRESET】	各エラー検出の有無をプリセットとして設定します。
└ PRESET1	【PRESET1】	PRESET1 を設定します。
└ ALL	【ALL】	全エラー検出項目を一斉に設定します。
└ OFF	【OFF】	OFF に設定します。
└ OR	【OR】	OR 条件で検出します。
└ AND	【AND】	AND 条件で検出します。
└ SDI SIGNAL	【SDI SIGNAL】	SDI 信号無しエラーの検出設定をします。
└ ALL に同じ		
└ TRS	【TRS】	TRS エラーの検出設定をします。
└ ALL に同じ		
└ LINE NUMBER	【LINE NUM】	LINE NUMBER エラーの検出設定をします。
└ ALL に同じ		
└ CRC Y	【CRC Y】	Y 信号の CRC エラーの検出設定をします。
└ ALL に同じ		
└ CRC C	【CRC C】	C 信号の CRC エラーの検出設定をします。
└ ALL に同じ		
└ LINE LENGTH	【LINE LEN】	LINE LENGTH エラーの検出設定をします。
└ ALL に同じ		

MENU

PRESET(続き)	【PRESET】	各エラー検出の有無をプリセットとして設定します。
PRESET1(続き)	【PRESET1】	PRESET1 を設定します。
FIELD LENGTH	【FIELD LEN】	FIELD LENGTH エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
RESERVED DATA	【RSV DATA】	RESERVED DATA エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
ANC PARITY	【ANC PARITY】	ANC PARITY エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
ANC CHECKSUM	【ANC SUM】	ANC CHECKSUM エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
BCH	【BCH】	BCH エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
AUDIO PACKET	【AUDIO PKT】	AUDIO PACKET エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
NO AUDIO PACKET	【NO AUDIO】	NO AUDIO PACKET エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
MUTE	【MUTE】	MUTE エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
BLACK	【BLACK】	BLACK エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
FREEZE	【FREEZE】	FREEZE エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
BLUE	【BLUE】	BLUE エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
COMPARE	【COMPARE】	COMPARE エラーの検出設定をします。
ALL に同じ		
STILL	【STILL】	STILL エラーの検出設定をします。※1
ALL に同じ		
PRESET9	【PRESET9】	PRESET9 を設定します。
PRESET1 に同じ		

MENU

GPI	【GPI】	GPI 制御を設定します。
HOLD MODE	【HOLD MODE】	アラーム出力の保持機能を設定します。
HOLD MODE	【HOLD MODE】	有効/無効を設定します。
OFF	【OFF】	保持機能を無効にします。
ON	【ON】	保持機能を有効にします。
HOLD MODE TIME	【HOLD TIME】	アラーム出力の自動リセット時間を設定します。
0 ~ 99	【0】	自動リセット時間を 0~99(分)で設定します。
HOLD RESET	【HOLD RESET】	保持されたエラー出力をリセットします。
YES=ENTER ボタン	【RESET?】	解除操作を実行します。
NO=MENU スイッチ		解除操作を実行しません。
MANUAL OUT	【MANUAL OUT】	手動操作で SDI OUT 1 の出力を切り替えます。
PRIMARY	【PRI】	SDI OUT 1 を PRIMARY に切り替えます。
SECONDARY	【SEC】	SDI OUT 1 を SECONDARY に切り替えます。
AUX	【AUX】	SDI OUT 1 を AUX に切り替えます。
COLOR	【COLOR】	SDI OUT 1 をインターナルカラーに切り替えます。
FILE	【FILE】	SDI OUT 1 を MEMORY FILE に切り替えます。
CUT OUT	【CUT OUT】	本製品では設定できません。
FREE ASSIGN	【FREE ASG】	GPI の割り当てをカスタマイズします。
INPUT1	【IN1】	INPUT1 をカスタマイズします。
OFF	【OFF】	未使用にします。
PRI	【PRI】	SDI OUT 1 を PRIMARY に切り替えます。
SEC	【SEC】	SDI OUT 1 を SECONDARY に切り替えます。
AUX	【AUX】	SDI OUT 1 を AUX 切り替えに切り替えます。
COLOR	【COLOR】	SDI OUT 1 をインターナルカラーに切り替えます。
FILE	【FILE】	SDI OUT 1 を MEMORY FILE に切り替えます。
HOLD RESET	【HOLD RESET】	エラーホールドを解除します。
P/S SELECT	【P/S SELECT】	PRIMARY/SECONDARY を切り替えます。
M/A SELECT	【M/A SELECT】	MANUAL/AUTO を切り替えます。
MASK ON/OFF	【MASK】	MASK ON/OFF を切り替えます。
INPUT6	【IN6】	INPUT6 をカスタマイズします。
IN1 に同じ		

MENU

— GPI(続き) —	【GPI】	GPI 制御を設定します。
— FREE ASSIGN —	【FREE ASG】	GPI の割り当てをカスタマイズします。
— OUTPUT1 —	【OUT1】	OUTPUT1 をカスタマイズします。
— OFF —	【OFF】	未使用にします。
— PRI —	【PRI】	SDI OUT 1 が PRIMARY の時に出力します。
— SEC —	【SEC】	SDI OUT 1 が SECONDARY の時に出力します。
— AUX —	【AUX】	SDI OUT 1 が AUX の時に出力します。
— COLOR —	【COLOR】	SDI OUT 1 がインターナルカラーの時に出力します。
— FILE —	【FILE】	SDI OUT 1 が MEMORY FILE の時に出力します。
— CUT OUT —	【CUT OUT】	SDI OUT 1 が CUT OUT の時に出力します。
— PRI ERROR123 —	【PRI ERROR123】	PRIMARY ERROR1、2、3 が検出した時に出力します。
— PRI ERROR1 —	【PRI ERROR1】	PRIMARY ERROR1 が検出した時に出力します。
— PRI ERROR2 —	【PRI ERROR2】	PRIMARY ERROR2 が検出した時に出力します。
— PRI ERROR3 —	【PRI ERROR3】	PRIMARY ERROR3 が検出した時に出力します。
— PRI ERROR12 —	【PRI ERROR12】	PRIMARY ERROR1、2 が検出した時に出力します。
— PRI ERROR23 —	【PRI ERROR23】	PRIMARY ERROR2、3 が検出した時に出力します。
— PRI ERROR13 —	【PRI ERROR13】	PRIMARY ERROR1、3 が検出した時に出力します。
— SEC ERROR123 —	【SEC ERROR123】	SECONDARY ERROR1、2、3 が検出した時に出力します。
— SEC ERROR1 —	【SEC ERROR1】	SECONDARY ERROR1 が検出した時に出力します。
— SEC ERROR2 —	【SEC ERROR2】	SECONDARY ERROR2 が検出した時に出力します。
— SEC ERROR3 —	【SEC ERROR3】	SECONDARY ERROR3 が検出した時に出力します。
— SEC ERROR12 —	【SEC ERROR12】	SECONDARY ERROR1、2 が検出した時に出力します。
— SEC ERROR23 —	【SEC ERROR23】	SECONDARY ERROR2、3 が検出した時に出力します。
— SEC ERROR13 —	【SEC ERROR13】	SECONDARY ERROR1、3 が検出した時に出力します。
— AUX ERROR123 —	【AUX ERROR123】	AUX ERROR1、2、3 が検出した時に出力します。
— AUX ERROR1 —	【AUX ERROR1】	AUX ERROR1 が検出した時に出力します。
— AUX ERROR2 —	【AUX ERROR2】	AUX ERROR2 が検出した時に出力します。
— AUX ERROR3 —	【AUX ERROR3】	AUX ERROR3 が検出した時に出力します。
— AUX ERROR12 —	【AUX ERROR12】	AUX ERROR1、2 が検出した時に出力します。
— AUX ERROR23 —	【AUX ERROR23】	AUX ERROR2、3 が検出した時に出力します。
— AUX ERROR13 —	【AUX ERROR13】	AUX ERROR1、3 が検出した時に出力します。
— P/S ERROR ALL —	【P/S ERR】	PRIMARY ERROR123、SECONDARY ERROR123 が検出した時に出力します。
— OUTOUT6 —	【OUT6】	OUTPUT6 をカスタマイズします。
— OUT1 に同じ —		

MENU

— GPI(続き)	【GPI】	GPI 制御を設定します。
— PRIMARY ALARM	【PRI ALARM】	リモート・コントロール・パネルの PRIMARY ALARM LED に出力する条件を設定します。
— 123	【123】	ERROR 1、2、3 のどれかを検出した時。
— 1	【1】	ERROR 1 を検出した時。
— 2	【2】	ERROR 2 を検出した時。
— 3	【3】	ERROR 3 を検出した時。
— 12	【12】	ERROR 1、2 のどちらを検出した時。
— 23	【23】	ERROR 2、3 のどちらかを検出した時。
— 13	【13】	ERROR 1、3 のどちらかを検出した時。
— SECONDARY ALARM	【SEC ALARM】	リモート・コントロール・パネルの SECONDARY ALARM LED に出力する条件を設定します。
— PRIMARY ALARM に同じ		
— AUX ALARM	【AUX ALARM】	リモート・コントロール・パネルの AUX ALARM LED に出力する条件を設定します。
— PRIMARY ALARM に同じ		

MENU

SYSTEM	【SYSTEM】	システムに関する各種設定を行います。
FORMAT	【FORMAT】	映像フォーマットを切り替えます。
1080i59	【1080i59】	1080i59.94 に設定します。
1080p59A	【1080p59A】	1080p59.94 Level-A に設定します。※3
1080p29	【1080p29】	1080p29.97 に設定します。
1080p23	【1080p23】	1080p23.98 に設定します。
1080sF29	【1080sF29】	1080sF29.97 に設定します。
1080sF23	【1080sF23】	1080sF23.98 に設定します。
SYNC MODE	【SYNC MODE】	映像同期モードを選択します。
PRIMARY IN	【PRI IN】	PRIMARY IN を設定します。
FS	【FS】	FS モード(フレームシンクロナイザー)を選択します。
AVDL	【AVDL】	AVDL モード(ラインシンクロナイザー)を選択します。
SECONDARY IN	【SEC IN】	SECONDARY IN を設定します。
PRIMARY IN に同じ		
AUX IN	【AUX IN】	AUX IN を設定します。
PRIMARY IN に同じ		
REFERENCE SELECT	【REF SEL】	リファレンス信号を選択します。
EXT SUB	【EXT SUB】	筐体内バスのリファレンス信号に同期します。
LINE DIRECT	【LINE DIR】	SDI OUT 1 に選択している映像信号に同期します。
GENLOCK PHASE	【PHASE】	EXT SUB 設定時の SDI 出力の位相を設定します。 LINE DIRECT 設定時はこの設定が無視されます。
H	【H】	水平位相を設定します。
-2749 ~ 0 ~ 2199	【0】	
V	【V】	垂直位相を設定します。
-1124 ~ 0 ~ 1124	【0】	
SYSEM TIME	【SYS TIME】	内部時計を設定します。
yy	【yy】	年を設定します。
0	【0】	
mm	【mm】	月を設定します。
0	【0】	
dd	【dd】	日を設定します。
0	【0】	
hh	【hh】	時を設定します。
0	【0】	
mm	【mm】	分を設定します。
0	【0】	
ss	【ss】	秒を設定します。
0	【0】	

MENU

SYSTEM(続き)	【SYSTEM】	システムに関する各種設定を行います。
AUX IN	【AUX IN】	SDI AUX IN / SEC OUT 端子の設定を行います。
IN	【IN】	AUX IN に設定します。
OUT	【OUT】	SECONDARY OUT に設定します。
EXT SUB LOST	【E-SUB LOST】	EXT SUB 設定時、筐体内バスリファレンス信号が断になった時の動作を設定します。
INTERNAL	【INTERNAL】	内部信号に同期します。(内部同期)
LINE DIRECT	【LINE DIR】	SDI OUT 1 に選択している映像信号に同期します。
SWN FILTER	【SWN FILTER】	SWN FILTER の設定をします。
OFF	【OFF】	OFF に設定します。
ON	【ON】	ON に設定します。
MEMORY FILE	【MEM FILE】	内蔵メモリーに保存されている静止画像、音声ファイルの使用に関する設定を行います。※4
IMAGE SELECT	【IMAGE SEL】	出力する静止画像を選択します。
IMAGE1	【IMAGE1】	IMAGE1 を選択します。
IMAGE2	【IMAGE2】	IMAGE2 を選択します。
IMAGE3	【IMAGE3】	IMAGE3 を選択します。
IMAGE4	【IMAGE4】	IMAGE4 を選択します。
AUTO CHANGE	【AUTO CHG】	自動切換えを行います。
IMAGE1 CONTROL	【IMAGE1 CTL】	IMAGE1 を設定します。
TRANSITION SELECT	【TRANSITION】	静止画像のトランジション(切り替え効果)を選択します。
DISABLE	【DISABLE】	この静止画像を使用しません。
CUT	【CUT】	カットを選択します。
DISSOLVE	【DISSOLVE】	ディゾルブを選択します。
TRANSITION TIME	【TRS TIME】	AUTO CHANGE での静止画像を切り替える時間を設定します。
1~10~3600	【10】	1~3600 秒の範囲で設定します
DISSOLVE SPEED	【DISOLV SPD】	ディゾルブの時間を設定します。
1~30~3600	【30】	1~3600 フレームの範囲で設定します。
AUDIO SELECT	【AUDIO SEL】	音声ファイルを選択します。
MUTE	【MUTE】	音声をミュートします。
AUDIO1	【AUDIO1】	AUDIO1 を選択します。
AUDIO2	【AUDIO2】	AUDIO2 を選択します。
AUDIO3	【AUDIO3】	AUDIO3 を選択します。
AUDIO4	【AUDIO4】	AUDIO4 を選択します。
AUDIO LOOP	【AUDIO LOOP】	音声ファイルのループ再生設定を行います。
DISABLE	【DISABLE】	ループ再生を無効にします。
ENABLE	【ENABLE】	ループ再生を有効にします。
IMAGE4 CONTROL	【IMAGE4 CTL】	IMAGE4 を設定します。
IMAGE1 CONTROL に同じ		

MENU

CONFIG	【CONFIG】	機能に関する各種設定を行います。
AUTO MODE	【AUTO MODE】	PRIMARY と SECONDARY の自動切り替え機能を設定します。
AUTO MODE	【AUTO MODE】	自動切り替え機能の有効/無効を設定します。
OFF	【OFF】	無効にします。
ON	【ON】	有効にします。
RETURN TIME	【RET TIME】	自動切り替えでアラーム解除から正常に復帰する時間を設定します。
-1 ~ 0 ~ 3600	【0】	自動復帰時間を秒で設定します。 -1 に設定すると自動復帰はしません。
DOUBLE ERROR	【DOUBLE ERR】	PRIMARY、SECONDARY 共にアラームを検出した時の動作を設定します。
OFF	【OFF】	DOUBLE ERROR を無効にします。
PRIMARY	【PRIMARY】	SDI OUT 1 を PRIMARY に切り替えます。
SECONDARY	【SECONDARY】	SDI OUT 1 を SECONDARY に切り替えます。
AUX	【AUX】	SDI OUT 1 を AUX に切り替えます。
COLOR	【COLOR】	SDI OUT 1 をインターナルカラーに切り替えます。
FILE	【FILE】	SDI OUT 1 を MEMORY FILE に切り替えます。
CUT OUT	【CUT OUT】	SDI OUT 1 の SDI 信号を出力しません。
AUX ERROR	【AUX ERROR】	AUX でアラームを検出した時の動作を設定します。
COLOR	【COLOR】	SDI OUT 1 をインターナルカラーに切り替えます。
FILE	【FILE】	SDI OUT 1 を MEMORY FILE に切り替えます。
PRI ERR SELECT	【pERROR SEL】	PRIMARY の自動切り替えの条件を設定します。
123	【123】	ERROR 1、2、3 のどれかを検出した時。
1	【1】	ERROR 1 を検出した時。
2	【2】	ERROR 2 を検出した時。
3	【3】	ERROR 3 を検出した時。
12	【12】	ERROR 1、2 のどちらかを検出した時。
23	【23】	ERROR 2、3 のどちらかを検出した時。
13	【13】	ERROR 1、3 のどちらかを検出した時。
SEC ERR SELECT	【sERROR SEL】	SECONDARY の自動切り替えの条件を設定します。
PRI ERR SELECT に同じ		
AUX ERR SELECT	【aERROR SEL】	AUX の自動切り替えの条件を設定します。
PRI ERR SELECT に同じ		
TOGGLE MODE	【TOGGLE MOD】	PRIMARY と SECONDARY の交互切り替えを設定します。
OFF	【OFF】	通常の切り替えを行います。
ON	【ON】	交互切り替えを行います。
ANC CONTROL	【ANC CTRL】	アンシラリパケットに関する設定を行います。
LINE 19/582 SELECT	【19/582 SEL】	19/582 ライン VANC の Y データ系列データに重畳するデータを選択します。
THROUGH	【THROUGH】	データの入れ替えを行いません。
AUX ANC	【AUX ANC】	AUX IN のデータを多重します。
LINE 20/583 SELECT	【20/583 SEL】	20/583 ライン VANC の Y データ系列データに重畳するデータを選択します。
THROUGH	【THROUGH】	データの入れ替えを行いません。
AUX ANC	【AUX ANC】	AUX IN のデータを多重します。

MENU

CONFIG(続き)	【CONFIG】	機能に関する各種設定を行います。
DISPLAY	【DISPLAY】	本体正面の表示器と OSD に関する設定を行います。
SCREEN SAVER	【SCR SAVER】	スクリーンセーバーの設定を行います。
DIM 50%	【DIM 50%】	MAIN VIEW の表示輝度が 10 分後に 50%に落ちます。
DIM 30%	【DIM 30%】	MAIN VIEW の表示輝度が 10 分後に 30%に落ちます。
OFF	【OFF】	スクリーンセーバー機能を無効にします。
NAME ROLL	【NAME ROLL】	MAIN VIEW の表示が 10 分後に機種名に変わります。
DIM 70%	【DIM 70%】	MAIN VIEW の表示輝度が 10 分後に 70%に落ちます。
MAIN VIEW	【MAIN VIEW】	無操作時の表示器に表示する機能を設定します。
STATUS	【STATUS】	ステータスを表示します。
PRI AVDL METER	【PRI AVDL】	PRIMARY の AVDL メーターを表示します。
SEC AVDL METER	【SEC AVDL】	SECONDARY の AVDL メーターを表示します。
AUX AVDL METER	【AUX AVDL】	AUX の AVDL メーターを表示します。
OSD	【OSD】	SDI OUT3 のオンスクリーンメニューの表示を設定します。
DISABLE	【DISABLE】	表示を無効にします。
ENABLE	【ENABLE】	表示を有効にします。
OSD BRIGHT	【OSD BRIGHT】	オンスクリーンメニューの輝度を設定します。
0 ~ 100	【100】	工場出荷時設定は 100%です。
INTERNAL COLOR	【INT COLOR】	インターナルカラーを設定します。
PATTERN	【PATTERN】	画像を選択します。
FULL FIELD COLOR BAR	【FULL CB】	フルフィールドカラーバーを選択します。
MULTI FORMAT COLOR BAR	【MULTI CB】	マルチフォーマットカラーバーを選択します。
BLUE	【BLUE】	単色青を選択します。
RED	【RED】	単色赤を選択します。
BLACK	【BLACK】	単色黒を選択します。
SCROLL H	【SCROLL H】	水平方向のスクロールを設定します。
OFF	【OFF】	水平方向のスクロールをしません。
LEFT	【LEFT】	左方向へスクロールします。
RIGHT	【RIGHT】	右方向へ横スクロールします。
SCROLL V	【SCROLL V】	垂直方向のスクロールを設定します。
OFF	【OFF】	垂直方向のスクロールをしません。
UP	【UP】	上方向へスクロールします。
DOWN	【DOWN】	下方向へスクロールします。
SCROLL H SPEED	【SCR H SPD】	水平方向のスクロールの速度を設定します。
LOW	【LOW】	低速に設定します。
MID	【MID】	中速に設定します。
HIGH	【HIGH】	高速に設定します。
SCROLL V SPEED	【SCR V SPD】	垂直方向のスクロールの速度を設定します。
LOW	【LOW】	低速に設定します。
MID	【MID】	中速に設定します。
HIGH	【HIGH】	高速に設定します。

MENU

— CONFIG(続き)	【CONFIG】	機能に関する各種設定を行います。
— INTERNAL COLOR(続き)	【INT COLOR】	インターナルカラーを設定します。
— AUDIO	【AUDIO】	音声を選択します。
— MUTE	【MUTE】	音声をミュートします。
— 1kHz	【1kHz】	1kHzを選択します。
— CHARACTER	【CHARACTER】	表示する文字を設定します。
— (ブランク)	【(ブランク)】	(空白です)
— PREVIEW	【PREVIEW】	SDI OUT 3 のプレビュー出力を設定します。
— PREVIEW MODE	【PREV MODE】	プレビュー出力の映像を選択します。※5
— OFF	【OFF】	SDI OUT 1 と同じ映像を出力します。
— NEXT	【NEXT】	SDI OUT 1 の反対 BUS 信号を出力します。
— SPLIT1	【SPLIT1】	画面を 2 分割して PRIMARY と SECONDARY を出力します。
— SPLIT2	【SPLIT2】	画面を 3 分割して PRIMARY、SECONDARY、AUX を出力します。※6
— AUX	【AUX】	AUX 入力を出力します。※7
— FILE	【FILE】	MEMORY FILE で選択されている映像を出力します。
— 4 SCREENS	【4 SCREENS】	4 分割画面を出力します。※1 ※2
— 4 SCREENS	【4 SCREENS】	4 分割画面の設定を行います。
— TOP LEFT SEL	【T LEFT SL】	左上の画面を選択します。
— PRIMARY	【PRIMARY】	PRIMARY を表示します。
— SECONDARY	【SECONDARY】	SECONDARY を表示します。
— AUX	【AUX】	AUX を表示します。
— COLOR	【COLOR】	インターナルカラーを表示します。
— FILE	【FILE】	MEMORY FILE で選択されている映像を表示します。
— BLACK	【BLACK】	黒画面にします。
— OUT	【OUT】	SDI OUT 1 に出力されている映像を出力します。
— TOP RIGHT SEL	【T RIGHT SL】	右上の画面を選択します。
— SECONDARY	【SECONDARY】	SECONDARY を表示します。
— TOP LEFT SEL に同じ		
— BOTTOM LEFT SEL	【B LEFT SL】	左下の画面を選択します。
— AUX	【AUX】	AUX を表示します。
— TOP LEFT SEL に同じ		
— BOTTOM RIGHT SEL	【B RIGHT SL】	右下の画面を選択します。
— COLOR	【COLOR】	インターナルカラーを表示します。
— TOP LEFT SEL に同じ		

MENU

CONFIG(続き)	【CONFIG】	機能に関する各種設定を行います。
PREVIEW(続き)	【PREVIEW】	SDI OUT 3 のプレビュー出力を設定します。
4 SCREENS(続き)	【4 SCREENS】	4 分割画面の設定を行います。
TOP LEFT CHR	【T LEFT CH】	左上画面の文字を設定します。
OFF	【OFF】	文字を表示しません。
AUTO	【AUTO】	自動で設定した文字を表示します。
CUSTOM	【CUSTOM】	カスタム設定をした文字を表示します。
TOP RIGHT CHR	【T RIGHT CH】	右上画面の文字を設定します。
TOP LEFT CHR に同じ		
BOTTOM LEFT CHR	【B LEFT CH】	左下画面の文字を設定します。
TOP LEFT CHR に同じ		
BOTTOM RIGHT CHR	【B RIGHT CH】	右下画面の文字を設定します。
TOP LEFT CHR に同じ		
TOP LEFT CUSTOM	【T LEFT CS】	左上画面の文字をカスタム設定します。
CUSTOM	【CUSTOM】	
TOP RIGHT CUSTOM	【T RIGHT CS】	右上画面の文字をカスタム設定します。
TOP LEFT CUSTOM に同じ		
BOTTOM LEFT CUSTOM	【B LEFT CS】	左下画面の文字をカスタム設定します。
TOP LEFT CUSTOM に同じ		
BOTTOM RIGHT CUSTOM	【B RIGHT CS】	右下画面の文字をカスタム設定します。
TOP LEFT CUSTOM に同じ		
AUDIO MODE	【AUDIO MODE】	出力する音声を選択します。
TOP LEFT	【TOP LEFT】	左上画面の音声を出力します。
TOP RIGHT	【TOP RIGHT】	右上画面の音声を出力します。
BOTTOM LEFT	【BTM LEFT】	左下画面の音声を出力します。
BOTTOM RIGHT	【BTM RIGHT】	右下画面の音声を出力します。
PRIMARY	【PRIMARY】	PRIMARY の音声を出力します。
SECONDARY	【SECONDARY】	SECONDARY の音声を出力します。
AUX	【AUX】	AUX の音声を出力します。
FILE	【FILE】	FILE の音声を出力します。
1 kHz	【1kHz】	1 kHz を出力します。
MUTE	【MUTE】	無音にします。

MENU

— CONFIG(続き)	【CONFIG】	機能に関する各種設定を行います。
└─ PANEL CONFIG	【PANEL CFG】	オプションのリモート・コントロール・パネルを設定します。
└─ VOLUME	【VOLUME】	ブザーの音量を設定します。※8
└─ 1 ~ 3	【1】	
└─ TYPE	【TYPE】	ブザーの種類を設定します。
└─ 1 ~ 3	【1】	
└─ TIME	【TIME】	ブザーの自動停止時間を設定します。
└─ 0 ~ 3	【0】	停止時間を 0~3(分)で指定します。 0 を設定した場合ブザーは停止しません。
— INFORMATION	【INFO】	各種ステータスを表示します。
└─ VERSION	【VERSION】	モジュールのバージョン情報を表示します。
└─ SOFT	【SOFT】	ソフトウェアのバージョン情報を表示します。
└─ HARD MAIN	【HARD MAIN】	ハードウェアのバージョン情報を表示します。
└─ HARD GEN	【HARD GEN】	ゲンロックのハードウェアのバージョン情報を表示します。
└─ STATUS	【STATUS】	各 SDI 入力の状態とオプションの情報を表示します。
└─ PRI PAYLOAD IN	【pPAYLOAD】	PRIMARY IN のペイロード ID を表示します。
└─ SEC PAYLOAD IN	【sPAYLOAD】	SECONDARY IN のペイロード ID を表示します。
└─ AUX PAYLOAD IN	【aPAYLOAD】	AUX IN のペイロード ID を表示します。
└─ PAYLOAD OUT	【PAYLOAD OT】	SDI OUT(1,2,3 共通)のペイロードを示します。
— MAINTENANCE	【MTN】	メンテナンスの設定をします。
└─ INIT CONDITION	【INI COND】	全ての設定値を工場出荷時に戻します。
└─ YES=ENTER ボタン	【INITIAL?】	初期化を実行します。
└─ NO=MENU スイッチ		初期化を実行せず、キャンセルします。
└─ FLASH FORMAT	【FL FORMAT】	フラッシュドライブをフォーマットします。
└─ YES=ENTER ボタン	【SET?】	フォーマットを実行します。
└─ NO=MENU スイッチ		フォーマットを実行せず、キャンセルします。
└─ pERROR DUMP	【pERR DUMP】	PRIMARY IN の全エラーを表示します。
└─ SDI SIGNAL	【SDI SIGNAL】	SDI 信号無しエラーを表示します。
└─ TRS	【TRS】	TRS エラーを表示します。
└─ LINE NUMBER	【LINE NUM】	LINE NUMBER エラーを表示します。
└─ CRC Y	【CRC Y】	Y 信号の CRC エラーを表示します。
└─ CRC C	【CRC C】	C 信号の CRC エラーを表示します。
└─ LINE LENGTH	【LEN LEN】	LINE LENGTH エラーを表示します。
└─ FIELD LENGTH	【FILED LEN】	FIELD LENGTH エラーを表示します。
└─ RESERVED DATA	【RSV DATA】	RESERVED DATA エラーを表示します。
└─ ANC PARITY	【ANC PARITY】	ANC PARITY エラーエラーを表示します。
└─ ANC CHECKSUM	【ANC CSUM】	ANC CHECKSUM エラーを表示します。
└─ BCH	【BCH】	BCH エラーを表示します。
└─ AUDIO PACKET	【AUDIO PKT】	AUDIO PACKET エラーを表示します。
└─ NO AUDIO	【NO AUDIO】	NO AUDIO PACKET エラーを表示します。

MENU

└─ MAINTENANCE(続き)	──────────	【MTN】	メンテナンスの設定をします。
└─ pERROR DUMP(続き)	──────────	【pERR DUMP】	PRIMARY IN の全エラーを表示します。
└─ MUTE	──────────	【MUTE】	MUTE エラーを表示します。
└─ BLACK	──────────	【BLACK】	BLACK エラーを表示します。
└─ FREEZE	──────────	【FREEZE】	FREEZE エラーを表示します。
└─ BLUE	──────────	【BLUE】	BLUE エラーを表示します。
└─ COMPARE	──────────	【COMPARE】	COMPARE エラーを表示します。
└─ STILL	──────────	【STILL】	STILL エラーを表示します。
└─ sERROR DUMP	──────────	【sERR DUMP】	SECONDARY IN の全エラーを表示します。
└─ pERROR DUMP に同じ	──────────		
└─ aERROR DUMP	──────────	【aERR DUMP】	AUX IN の全エラーを表示します。
└─ pERROR DUMP に同じ	──────────		
└─ FAN ROTATE	──────────	【FAN ROTATE】	チップクーリング FAN の回転数を表示します。
└─ DEVICE TEMP	──────────	【DEV TEMP】	メインデバイス温度を表示します。
└─ ERROR MASK	──────────	【ERROR MASK】	SNMP 設定のエラーマスクの設定状態を表示します。
└─ OFF	──────────	【OFF】	SDI SIGNAL～STILL までの全ての検知が有効です。
└─ ON	──────────	【ON】	SDI SIGNAL～STILL までの全ての検知が無効です。

メニューツリー内の【 】は、ELディスプレイ上に表示される略称を示します。

メニューツリー内の は工場出荷時設定を示します。変更した全ての設定は電源OFF時も保持されます。

※1 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)ではご使用になれません。

※2 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)ではSPLIT2に設定されます。

※3 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)でのご使用時には機能制限がございます。詳しくは本書の「9.仕様 / 1.機能」欄をご参照ください。

※4 画像音声ファイルオプションSMS-70H-02が必要です。

※5 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)では、起動後やMEMORY FILEのアップロード操作、映像フォーマットの変更後の各ファイルの展開動作中は【OFF】に設定されます。

※6 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)にて、SDI OUT 1をFILEに設定した時のAUX入力の映像は黒表示になります。

※7 SDI OUT 1をFILEに設定した時、黒表示になります。

※8 RCP-01F-ALMパネルでの調整は無効です。

3. 各機能の説明

各機能を説明いたします。

本体正面のELディスプレイと選択ツマミによる操作を説明しておりますが、SDI OUT 3 出力のオンスクリーン表示(OSD)でしか機能できないものや、EL ディスプレイより視認性が良いものはオンスクリーン表示の説明がされております。

(1) ERROR LOG

ELディスプレイを押すと、ELディスプレイ上に下図の「図4-3-1 メインメニュー階層」が表示されます。更に、選択ツマミでERROR LOGを選択し、同ツマミを押すと、下図の「図4-3-2 ERROR LOG階層」が表示されます。本書ではこの様な操作手順を”MENU→ERROR LOG”と表現し、ERROR LOG階層と呼びます。

ERROR LOG階層は、エラーログについてのオンスクリーン表示やフィルター指定、テキストファイル保存を行います。

```
>ERROR LOG
LOG FILTER
p ERR DET
s ERR DET
a ERR DET
```

```
>LOG DISP
LOG CLEAR
LOG MODE
```

図4-3-1 メインメニュー階層

図4-3-2 ERROR LOG階層

1) LOG DISP

ERROR LOGの表示を行います。

ログはSDI OUT 3でオンスクリーン表示されますので、事前にオンスクリーンメニューを表示させてください。
(操作方法は「3.各部の名称と働き / 1.メインモジュール/コネクターモジュール / (2)ELディスプレイ/MENUスイッチ」を参照)

ELディスプレイはログ表示までの操作はできますが、ログ自体は表示されません。

MENU→ERROR LOG→LOG DISPを選択すると、SDI OUT 3のオンスクリーン表示にERROR LOGを表示します。以下はオンスクリーン表示とその説明です。

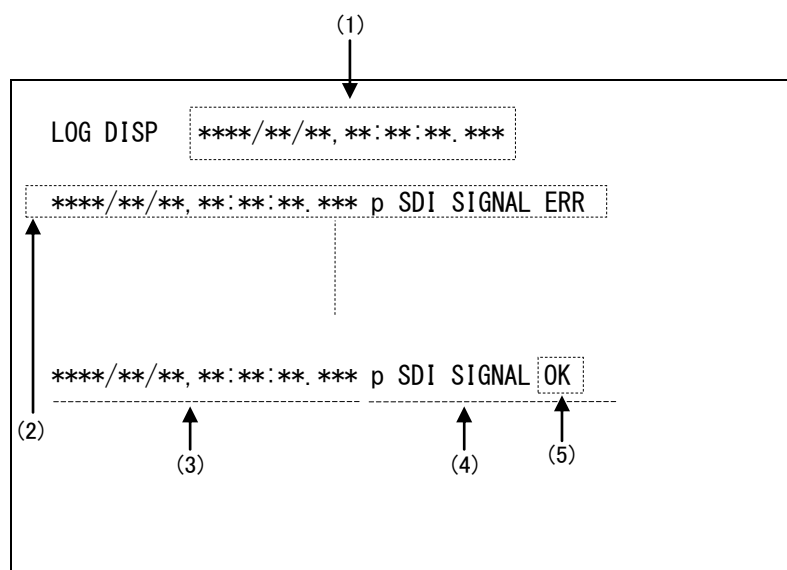


図4-3-3 ERROR LOG

- (1) 内部時計の現在の時刻を示します。
****/**/**,**:**:** = 年 / 月 / 日, 時 : 分 : 秒(1/1000秒まで表示)
- (2) 最新のログが最下段に表示されます。
選択ツマミを回すとイベントがスクロールします。
- (3) エラーを検出した日時を示します。
- (4) エラー内容を示します。
エラー内容の左端の「p」はPRIMARY IN、「s」はSECONDARY IN、「a」はAUX INでのエラー発生を意味します。
エラーの表示内容は表4-3-1 エラーログ一覧をご参照ください。
- (5) エラーが解除されるとOKの表示がされます。

・ご注意

- ①ログは40,000イベントまで記録され、越えた場合は順次古いイベントから削除され新しいイベントが記録されます。
- ②ログの表示能力は1秒間に約12行程度です。それを超える場合は表示されない時があります。
- ③ログはフラッシュメモリーに保存されるため、書き込みには時間がかかります。例えば数フレーム間隔でエラーが連続するような場合は、書き込み時間が間に合わず保存されない場合があります。
(5 フレーム間隔のエラーが約20秒以上連続した場合など。)
- ④フラッシュメモリーには寿命がありますので、頻繁に発生するエラーや運用に影響のないエラーなどは記録しないよう設定を見直してください。

2) LOG CLEAR

MENU→ERROR LOG→LOG CLEARを選択すると、ERROR LOGをクリアできます。
ENTERボタンを押下するとERROR LOGのクリアを実行します。
クリアを実行しない時はMENUスイッチを押下してください。

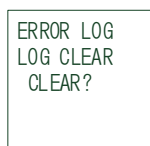


図4-3-4 LOG CLEAR階層

3) LOG MODE

MENU→ERROR LOG→LOG MODEを選択すると、LOG MODEを設定できます。



図4-3-5 LOG MODE階層

- ① ZtoA ログを記録の順に上から下へ表示します。テキストファイルの並びもこれに従います。
- ② AtoZ ログを記録の順に下から上へ表示します。テキストファイルの並びもこれに従います。

表4-3-1 エラーログ一覧

名称	説明	ERROR DETECT 1～3対応
SDI SIGNAL	SDI信号なし	
TRS	映像タイミング基準コード(TRS)エラー	
LINE NUMBER	ラインナンバーエラー	
CRC Y	Yデータ系列CRCエラー	
CRC C	Cb,Crデータ系列CRCエラー	
LINE LENGTH	1ラインの長さエラー	
FIELD LENGTH	1フィールドの長さエラー	
RESERVED DATA	リザーブデータエラー	
ANC PARITY	補助データパケットのパリティエラー	
ANC CHECKSUM	補助データパケットのチェックサムエラー	
BCH	エンベデッド・オーディオのエラー	
AUDIO PACKET	エンベデッド・オーディオ・パケットのデータブロック番号 インクリメントエラー	
NO AUDIO PACKET	エンベデッド・オーディオなし	
MUTE1～3	エンベデッド・オーディオ無音検出	○
BLACK1～3	黒味検出	○
FREEZE1～3	フリーズ検出	○
BLUE1～3	青色検出	○
COMPARE1～3	映像比較	○
STILL1～3	スチル検出(3G-SDI使用時は検出無し)	○
LOG CLEAR	ログクリアー操作が行われた	
POWER ON	電源再投入が行われた	
AUTO CHG PRI	PRIMARYに自動切り替えした	
AUTO CHG SEC	SECONDARYに自動切り替えした	
AUTO CHG AUX	AUXに自動切り替えした	
AUTO CHG COL	COLORに自動切り替えした	
AUTO CHG FILE	FILEに自動切り替えした	
AUTO RET PRI	PRIMARYに自動復帰した	
AUTO RET SEC	SECONDARYに自動復帰した	
AUTO RET AUX	AUXに自動復帰した	
AUTO RET COL	COLORに自動復帰した	
AUTO RET FILE	FILEに自動復帰した	
MENU CHG PRI	メニュー操作でPRIMARYに切り替えた	
MENU CHG SEC	メニュー操作でSECONDARYに切り替えた	
MENU CHG AUX	メニュー操作でAUXに切り替えた	
MENU CHG COL	メニュー操作でCOLORに切り替えた	
MENU CHG FILE	メニュー操作でFILEに切り替えた	
SNMP CHG PRI	SNMPからPRIMARYに切り替えた	
SNMP CHG SEC	SNMPからSECONDARYに切り替えた	
SNMP CHG AUX	SNMPからAUXに切り替えた	
SNMP CHG COL	SNMPからCOLORに切り替えた	
SNMP CHG FILE	SNMPからFILEに切り替えた	
GPI CHG PRI	GPIからPRIMARYに切り替えた	
GPI CHG SEC	GPIからSECONDARYに切り替えた	
GPI CHG AUX	GPIからAUXに切り替えた	
GPI CHG COL	GPIからCOLORに切り替えた	
GPI CHG FILE	GPIからFILEに切り替えた	

表 4-3-1 エラーログ一覧の続き

PANEL CHG PRI	PANELからPRIMARYに切り替えた	
PANEL CHG SEC	PANELからSECONDARYに切り替えた	
PANEL CHG AUX	PANELからAUXに切り替えた	
PANEL CHG COL	PANELからCOLORに切り替えた	
PANEL CHG FILE	PANELからFILEに切り替えた	

(2) LOG FILTER

MENU→LOG FILTERを選択すると、ERROR LOG一覧のテキストファイルへの保存と、ERROR LOGの一覧から表示させたくない項目の指定ができます。

```
>LOG SAVE
ALL SET
SDI SIGNAL
TRS
LINE NUMBER
```

図4-3-6 LOG FILTER階層

① LOG SAVE

FILTERをかけたログ一覧をテキストファイルlogtext.txtに保存します。
筐体のLANからFTPでダウンロードしてパソコンなどで閲覧・編集ができます。
詳細は「4.操作方法 / 7.ログのダウンロード」を参照してください。

LOG SAVEを選択すると下図の画面が表示されます。
ENTERボタンを押下するとLOG SAVEを実行します。
LOG SAVEを実行しない時はMENUスイッチを押下してください。

```
LOG FILTER
LOG SAVE
SAVE?
```

図4-3-7 LOG SAVE階層

② ALL SET

全てのエラー検出項目を一斉に設定します。
「ON」設定は表示をしません。(フィルターをする)
「OFF」設定は表示をします。(フィルターをしない)
選択後にENTERボタンを押下してください。
以降の項目の設定は同様の操作になります。

```
LOG FILTER
ALL SET
OFF
```

図4-3-8 ALL SET階層

③ SDI SIGNAL	SDI信号無しエラーの表示設定をします。
④ TRS	TRSエラーの表示設定をします。
⑤ LINE NUMBER	LINE NUMBERエラーの表示設定をします。
⑥ CRC Y	Y信号のCRCエラーの表示設定をします。
⑦ CRC C	C信号のCRCエラーの表示設定をします。
⑧ LINE LENGTH	LINE LENGTHエラーの表示設定をします。
⑨ FIELD LENGTH	FIELD LENGTHエラーの表示設定をします。
⑩ RESERVED DATA	RESERVED DATAエラーの表示設定をします。
⑪ ANC PARITY	ANCILLARY PARITYエラーの表示設定をします。
⑫ ANC CHECKSUM	ANCILLARY CHECKSUMエラーの表示設定をします。
⑬ BCH	BCHエラーの表示設定をします。
⑭ AUDIO PACKET	AUDIO DATA PACKET DBNインクリメントエラーの表示設定をします。
⑮ NO AUDIO	NO AUDIO PACKETエラーの表示設定をします。
⑯ MUTE	MUTEエラーの表示設定をします。
⑰ BLACK	BLACKエラーの表示設定をします。
⑱ FREEZE	FREEZEエラーの表示設定をします。
⑲ BLUE	BLUEエラーの表示設定をします。
⑳ COMPARE	COMPAREエラーの表示設定をします。
㉑ STILL	STILLエラーの表示設定をします。※1

※1 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)ではご使用になれません。

(3) p ERROR DETECT

MENU→p ERR DETを選択すると、PRIMARY入力のエラー検出をする項目や検出に関するパラメータを設定できます。

```
>p ERR DET1
p ERR DET2
p ERR DET3
p MUTE
p BLACK
```

図4-3-9 p ERR DET階層

1) p ERR DETECT1

MENU→p ERR DET→p ERR DETECT1を選択すると、エラーパターン1の検出設定ができます。

```
p ERR DET
p ERR DET1
1
```

図4-3-10 p ERR DET1階層

- ① 1～9 プリセットパターン1～9(PRESET1～9)を指定します。
プリセットパターンは9パターンあり、PRIMARY、SECONDARY、AUXで共有されます。
- ② OFF エラー検出を行いません。

2) p ERR DETECT2

MENU→p ERR DET→p ERR DETECT2を選択すると、エラーパターン2の検出設定ができます。
設定方法は「p ERR DET1」と同じです。

3) p ERR DETECT3

MENU→p ERR DET→p ERR DETECT3を選択すると、エラーパターン3の検出設定ができます。
設定方法は「p ERR DET1」と同じです。

4) p MUTE

MENU→p ERR DET→p MUTEを選択すると、MUTE音声検出のパラメータ設定ができます。

```
>p TIME1
p TIME2
p TIME3
psaLEVEL
p CHANNEL1
```

図4-3-11 p MUTE階層

- | | |
|--------------|--|
| ① p TIME1 | ERROR DETECT1のミュート検出時間を設定します。設定範囲は1～999秒です。 |
| ② p TIME2 | ERROR DETECT2のミュート検出時間を設定します。設定範囲は1～999秒です。 |
| ③ p TIME3 | ERROR DETECT3のミュート検出時間を設定します。設定範囲は1～999秒です。 |
| ④ psa LEVEL | ミュート検出のレベルを設定します。設定値はPRIMARY、SECONDARY、AUX
共通です。設定範囲は-80～-60dBFSです。 |
| ⑤ p CHANNEL1 | チャンネル1検出のON(有効)/OFF(無効)を設定します。 |
| ⑥ p CHANNEL2 | チャンネル2検出のON(有効)/OFF(無効)を設定します。 |
| ⑦ p CHANNEL3 | チャンネル3検出のON(有効)/OFF(無効)を設定します。 |
| ⑧ p CHANNEL4 | チャンネル4検出のON(有効)/OFF(無効)を設定します。 |
| ⑨ p CHANNEL5 | チャンネル5検出のON(有効)/OFF(無効)を設定します。 |
| ⑩ p CHANNEL6 | チャンネル6検出のON(有効)/OFF(無効)を設定します。 |
| ⑪ p CHANNEL7 | チャンネル7検出のON(有効)/OFF(無効)を設定します。 |
| ⑫ p CHANNEL8 | チャンネル8検出のON(有効)/OFF(無効)を設定します。 |
| ⑬ p CH MODE | 上記⑤～⑫でONに設定したチャンネルの検出条件をAND/ORで設定します。
➤ OR・・・ ONに設定したチャンネルのどれか1つでもMUTEになると検出になります。(OR条件)
➤ AND・・・ ONに設定したチャンネルが全てMUTEの時に検出になります(AND条件) |

5) p BLACK

MENU→p ERR DET→p BLACKを選択すると、BLACK映像検出のパラメータ設定ができます。

```
>p TIME1
p TIME2
p TIME3
psaLEVEL
```

図4-3-12 p BLACK階層

- | | |
|-------------|---|
| ① p TIME1 | ERROR DETECT1のBLACK検出時間を設定します。設定範囲は0～999秒です。 |
| ② p TIME2 | ERROR DETECT2のBLACK検出時間を設定します。設定範囲は0～999秒です。 |
| ③ p TIME3 | ERROR DETECT3のBLACK検出時間を設定します。設定範囲は0～999秒です。 |
| ④ psa LEVEL | BLACK検出のレベルを設定します。設定値はPRIMARY、SECONDARY、AUX
共通です。設定範囲は0～99IREです。 |

6) p FREEZE TIME

MENU→p ERR DET→p FREEZEを選択すると、FREEZE映像検出のパラメータ設定ができます。

```
>p TIME1  
p TIME2  
p TIME3
```

図4-3-13 p FREEZE階層

- ① p TIME1 ERROR DETECT1のFREEZE検出時間を設定します。設定範囲は0～999秒です。
- ② p TIME2 ERROR DETECT2のFREEZE検出時間を設定します。設定範囲は0～999秒です。
- ③ p TIME3 ERROR DETECT3のFREEZE検出時間を設定します。設定範囲は0～999秒です。

7) p BLUE

MENU→p ERR DET→p BLUEを選択すると、BLUE映像検出のパラメータ設定ができます。

```
>p TIME1  
p TIME2  
p TIME3
```

図4-3-14 p BLUE階層

- ① p TIME1 ERROR DETECT1のBLUE検出時間を設定します。設定範囲は0～999秒です。
- ② p TIME2 ERROR DETECT2のBLUE検出時間を設定します。設定範囲は0～999秒です。
- ③ p TIME3 ERROR DETECT3のBLUE検出時間を設定します。設定範囲は0～999秒です。

8) p COMPARE

MENU→p ERR DET→p COMPAREを選択すると、COMPARE映像検出のパラメータ設定ができます。

```
>p TIME1  
p TIME2  
p TIME3
```

図4-3-15 p COMPARE階層

- ① p TIME1 ERROR DETECT1のCOMOARE検出時間を設定します。設定範囲は0～19800フレームです。
- ② p TIME2 ERROR DETECT2のCOMPARE検出時間を設定します。設定範囲は0～19800フレームです。
- ③ p TIME3 ERROR DETECT3のCOMPARE検出時間を設定します。設定範囲は0～19800フレームです。

9) p STILL

MENU→p ERR DET→p STILLを選択すると、STILL映像検出のパラメータ設定ができます。

※映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)ではご使用になれません。

```
>p TIME1
p TIME2
p TIME3
p PIX COMP
p PIX VARI
```

図4-3-16 p STILL階層

- | | |
|-------------------|---|
| ① p TIME1 | ERROR DETECT1のCOMOARE検出時間を設定します。
設定範囲は0～999秒です。 |
| ② p TIME2 | ERROR DETECT2のCOMPARE検出時間を設定します。
設定範囲は0～999秒です。 |
| ③ p TIME3 | ERROR DETECT3のCOMPARE検出時間を設定します。
設定範囲は0～999秒です。 |
| ④ p PIX COMPARE | ピクセル(画素)の静止判定のレベルを設定します。
➤ PIX1～PIX10…… 10段階の設定モードです。
「PIX1」は静止画判定が厳しくなり、「PIX10」は判定が
甘くなります。
➤ VARI…………… 数値設定モードです。 |
| ⑤ p PIX COMP VARI | ④で「VARI」を設定した時の数値設定です。
ピクセル(画素)の静止判定を数値で設定します。設定範囲は1～100です。
1を設定するとピクセルの上位8ビットが完全に同じ場合に静止画と判定します。
100を設定すると静止判定が甘くなり多少ピクセルが変動していても静止画として
判定します。 |
| ⑥ p PIX HIT | STILL判定するピクセル(画素)数の比率を設定します。設定範囲は70～100%
です。
100%を設定すると全ピクセルが静止判定した場合にスチル判定します。
70%を設定すると全ピクセルの70%以上が静止判定した場合にスチル判定します。 |

※設定値の詳細は「5.エラー検出について / 19.STILL」をご参照ください。

※完全に静止した映像を検出するにはFREEZEを使用してください。

※映像が多少変化してもスチルと検出しますので、ディゾルブなど1フレーム間で差分の変化が少ない映像は設定値により、見ただけ動いていてもスチル検出することがあります。

10) p MASK

MENU→p ERR DET→p MASKを選択すると、BLACK、FREEZE、STILLの検出範囲を決めるMASKの設定ができます。

```
>p MASK
p PRESET
p LEFT
p RIGHT
p TOP
```

図4-3-17 p MASK階層

- | | |
|-------------|--|
| ① p MASK | マスクのON(有効)/OFF(無効)を設定します。
マスクがONの時、 MENU →p ERR DETの選択時に下図のマスクカーソルが表示されます。 |
| ② p PRESET | マスクを使用するプリセットパターンを選択します。 |
| ③ p LEFT | マスクの左位置を設定します。 |
| ④ p RIGHT | マスクの右位置を設定します。 |
| ⑤ p TOP | マスクの上位置を設定します。 |
| ⑥ p BOTTOM | マスクの下位置を設定します。 |
| ⑦ p H MOVE | マスク全体を横方向に移動します。 |
| ⑧ p V MOVE | マスク全体を縦方向に移動します。 |
| ⑨ p REVERSE | マスクを反転します。 |
| ⑩ pas LEVEL | マスクカーソルの表示レベルを設定します。
1に設定するとカーソルに映像が透過し、4は透過しません。 |

・マスクカーソル

マスクカーソルは実際のマスクの範囲を示します。

マスクは下図のグレーの領域で示されるように、外枠と内部の矩形部分の二つで構成されます。

グレーの領域はBLACK、FREEZE、STILLの検出が行われません。

マスクの範囲の調整ができるのは内部の四角部分です。

外枠は全体の97.5%より外の領域で、固定の検出されない領域です。

REVERSEをONにするとマスクに対して検出エリアが反転します。

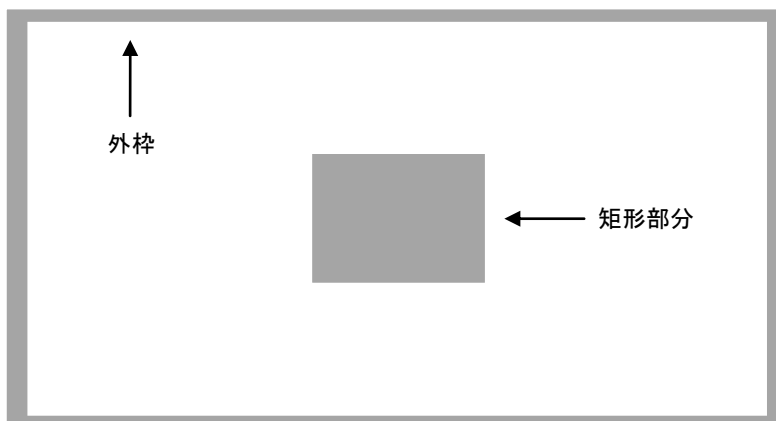


図4-3-18 マスクカーソル

(4) s ERROR DETECT

MENU→s ERR DETを選択すると、SECONDARY入力のエラー検出をする項目や検出に関するパラメータを設定できます。

設定方法はp ERR DETと同じです。

設定項目の先頭の「p」はPRIMARYでのエラーの設定を示します。SECONDARYでの設定は「p」を「s」に読み替えてください。

(5) a ERROR DETECT

MENU→a ERR DETを選択すると、AUX入力のエラー検出をする項目や検出に関するパラメータを設定できます。

設定方法はp ERR DETと同じですが、COMPARE検出はありません。

AUXでの設定は設定項目の先頭の「p」を「a」に読み替えてください。

(6) PRESET

MENU→PRESETを選択すると、各エラー検出の有無を設定してプリセットとして登録できます。

プリセットは9パターン登録できます。

```
>PRESET1  
PRESET2  
PRESET3  
PRESET4  
PRESET5
```

図4-3-19 PRESET階層

1) PRESET1

MENU→PRESET→PRESET1を選択すると、PRESET1について各エラー検出の条件を設定できます。

プリセットはPRIMARY、SECONDARY、AUX共通になります。

エラー検出を「OFF」に設定するとGPI出力もされず、エラーログも記録されません。

```
>ALL  
SD1 SIGNAL  
TRS  
LINE NUM  
CRC Y
```

図4-3-20 PRESET1階層

① ALL

全てのエラー検出項目を一斉に設定します。

➤ OFF…… エラー検出がされてもアラーム出力をしません。

➤ OR…… エラー検出がされるとアラーム出力をします。

他のエラー検出の影響は受けません。

➤ AND…… PRESET1階層の他のエラー検出項目について全てエラー検出がされた場合にアラーム出力されます。

※以降の項目の設定は同様の操作になります。



図4-3-21 ALL階層

② SDI SIGNAL

SDI信号無しエラーの検出設定をします。

③ TRS

TRSエラーの検出設定をします。

④ LINE NUMBER

LINE NUMBERエラーの検出設定をします。

⑤ CRC Y

Y信号のCRCエラーの検出設定をします。

⑥ CRC C

C信号のCRCエラーの検出設定をします。

⑦ LINE LENGTH

LINE LENGTHエラーの検出設定をします。

⑧ FIELD LENGTH

FIELD LENGTHエラーの検出設定をします。

⑨ RESERVED DATA

RESERVED DATAエラーの検出設定をします。

⑩ ANC PARITY

ANC PARITYエラーの検出設定をします。

⑪ ANC CHECKSUM

ANC CHECKSUMエラーの検出設定をします。

⑫ BCH

BCHエラーの検出設定をします。

⑬ AUDIO PACKET

AUDIO PACKETエラーの検出設定をします。

⑭ NO AUDIO PACKET

NO AUDIO PACKETエラーの検出設定をします。

⑮ MUTE

MUTEエラーの検出設定をします。

⑯ BLACK

BLACKエラーの検出設定をします。

⑰ FREEZE

FREEZEエラーの検出設定をします。

⑱ BLUE

BLUEエラーの検出設定をします。

⑲ COMPARE

COMPAREエラーの検出設定をします。

⑳ STILL

STILLエラーの検出設定をします。※1

※1 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)ではご使用になれません。

2) PRESET2～9

MENU→PRESET→PRESET2～9を選択すると、PRESET2～9について各エラー検出の条件を設定できます。

設定内容はPRESET1と同じです。

(7) GPI

MENU → PRESETを選択すると、GPI入出力の設定ができます。

```
>HOLD MODE
MANUAL OUT
FREE ASG
PRI ALARM
SEC ALARM
```

図4-3-22 GPI階層

1) HOLD MODE

MENU → GPI → HOLD MODEを選択すると、アラーム出力の保持機能を設定できます。

```
>HOLD MODE
HOLD TIME
HOLD RESET
```

図4-3-23 HOLD MODE階層

- | | |
|------------------|--|
| ① HOLD MODE | アラーム出力の保持機能を設定します。 <ul style="list-style-type: none">➤ OFF…… 設定を無効にします。➤ ON…… 設定を有効にします。 一度発生したエラーが解消しても、その表示とGPI出力は保持されます。
保持機能のリセットはメニュー操作のHOLD RESETまたはGPI、SNMPでリセットすることができます |
| ② HOLD MODE TIME | アラーム出力の自動リセット時間を分単位で設定します。
0を設定するとリセットはされません。
1～99を設定した場合、その時間になるとホールド機能がリセットされます。 |
| ③ HOLD RESET | 保持されたエラー出力をリセットします。 <ul style="list-style-type: none">➤ YES…… リセット操作を実行します。➤ NO…… リセット操作を実行しません。 |

2) MANUAL OUT

MENU→GPI→MANUAL OUTを選択すると、手動操作でSDI OUT 1の出力切り替えができます。

※AUTO MODEがONの時は自動切り替えが優先します。

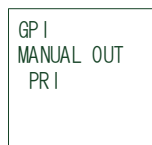


図4-3-24 MANUAL OUT階層

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| ① PRIMARY | SDI OUT 1をPRIMARYに切り替えます。 |
| ② SECONDARY | SDI OUT 1をSECONDARYに切り替えます。 |
| ③ AUX | SDI OUT 1をAUXに切り替えます。 |
| ④ COLOR | SDI OUT 1をインターナルカラーに切り替えます。 |
| ⑤ FILE | SDI OUT 1をMEMORY FILEに切り替えます。 |
| ⑥ CUT OUT | 本製品では設定できません。 |

3) FREE ASSIGN

MENU→GPI→FREE ASSIGNを選択すると、GPIの割り当てをカスタマイズできます。

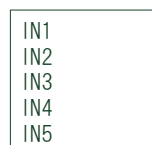


図4-3-25 FREE ASSIGN階層

- | | |
|----------|---|
| ① INPUT1 | INPUT1をカスタマイズします。 <ul style="list-style-type: none">➤ OFF…………… 未使用にします。➤ PRI…………… パルス入力でSDI OUT 1をPRIMARYに切り替えます。➤ SEC…………… パルス入力でSDI OUT 1をSECONDARYに切り替えます➤ AUX…………… パルス入力でSDI OUT 1をAUXに切り替えます➤ COLOR…………… パルス入力でSDI OUT 1をインターナルカラーに切り替えます。➤ FILE…………… パルス入力でSDI OUT 1をMEMORY FILEに切り替えます。➤ HOLD RESET… パルス入力でエラーホールドを解除します。➤ P/S SELECT… 立下りエッジでSDI OUT 1をSECONDARYに、立ち上がりエッジでPRIMARYに切り替えます➤ M/A SELECT… 立下りエッジでAUTO MODEをONに、立ち上がりエッジでOFFに設定します➤ MASK…………… 立下りエッジでMASKをONに、立ち上がりエッジでMASKをOFFに設定します。 |
|----------|---|

② INPUT2～6

INPUT2～6をカスタマイズします。設定方法はINPUT1と同じです。

③ OUTPUT1

OUTPUT1をカスタマイズします。

- OFF…………… 未使用にします。
- PRI…………… SDI OUT 1がPRIMARYの時に出力します。
- SEC…………… SDI OUT 1がSECONDARYの時に出力します。
- AUX…………… SDI OUT 1がAUXの時に出力します。
- COLOR…………… SDI OUT 1がCOLORの時に出力します。
- FILE…………… SDI OUT 1がMEMORY FILEの時に出力します。
- CUT OUT…………… SDI OUT 1がCUT OUTの時に出力します。
- PRI ERROR123… PRIMARY ERROR1、2、3が検出した時に出力します。
- PRI ERROR1… PRIMARY ERROR1が検出した時に出力します。
- PRI ERROR2… PRIMARY ERROR2が検出した時に出力します。
- PRI ERROR3… PRIMARY ERROR3が検出した時に出力します。
- PRI ERROR12… PRIMARY ERROR1、2が検出した時に出力します。
- PRI ERROR23… PRIMARY ERROR2、3が検出した時に出力します。
- PRI ERROR13… PRIMARY ERROR1、3が検出した時に出力します。
- SEC ERROR123… SECONDARY ERROR1、2、3が検出した時に出力します。
- SEC ERROR1… SECONDARY ERROR1が検出した時に出力します。
- SEC ERROR2… SECONDARY ERROR2が検出した時に出力します。
- SEC ERROR3… SECONDARY ERROR3が検出した時に出力します。
- SEC ERROR12… SECONDARY ERROR1、2が検出した時に出力します。
- SEC ERROR23… SECONDARY ERROR2、3が検出した時に出力します。
- SEC ERROR13… SECONDARY ERROR1、3が検出した時に出力します。
- AUX ERROR123… AUX ERROR1、2、3が検出した時に出力します。
- AUX ERROR1… AUX ERROR1が検出した時に出力します。
- AUX ERROR2… AUX ERROR2が検出した時に出力します。
- AUX ERROR3… AUX ERROR3が検出した時に出力します。
- AUX ERROR12… AUX ERROR1、2が検出した時に出力します。
- AUX ERROR23… AUX ERROR2、3が検出した時に出力します。
- AUX ERROR13… AUX ERROR1、3が検出した時に出力します。
- P/S ERROR ALL… PRIMARY ERROR123、SECONDARY ERROR123が検出した時に出力します。

④ OUTPUT2～6

OUTPUT2～6をカスタマイズします。設定方法はOUTPUT1と同じです。

※ERROR1,2,3はエラーパターン1,2,3を示します。

4) PRIMARY ALARM

MENU→GPI→PRIMARY ALARMを選択すると、リモート・コントロール・パネルのPRIMARY ALARM LEDに出力する条件を設定できます。

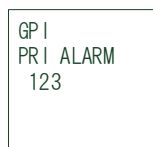


図4-3-26 PRIMARY ALARM階層

- | | |
|-------|---------------------------------|
| ① 123 | ERROR1、2、3のどれかがエラーを検出した時に出力します。 |
| ② 1 | ERROR1のエラーを検出した時に出力します。 |
| ③ 2 | ERROR2のエラーを検出した時に出力します。 |
| ④ 3 | ERROR3のエラーを検出した時に出力します。 |
| ⑤ 12 | ERROR1、2のどれかがエラーを検出した時に出力します。 |
| ⑥ 23 | ERROR2、3のどれかがエラーを検出した時に出力します。 |
| ⑦ 13 | ERROR1、3のどれかがエラーを検出した時に出力します。 |

※ERROR1,2,3はエラーパターン1,2,3を示します。

5) SECONDARY ALARM

MENU→GPI→SECONDARY ALARMを選択すると、リモート・コントロール・パネルのSECONDARY ALARM LEDに出力する条件を設定できます。

設定方法はPRIMARY ALARMと同じです。

6) AUX ALARM

MENU→GPI→AUX ALARMを選択すると、リモート・コントロール・パネルのAUX ALARM LEDに出力する条件を設定できます。

設定方法はPRIMARY ALARMと同じです。

(8) SYSTEM

MENU→SYSTEMを選択すると、システムに関する各種設定ができます。

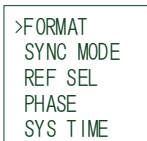


図4-3-27 SYSTEM階層

1) FORMAT

MENU→SYSTEM→FORMATを選択すると、映像フォーマットの切り替えができます。

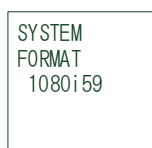


図4-3-28 FORMAT階層

- | | |
|------------|--|
| ① 1080i59 | 1080i59.94に設定します。 |
| ② 1080p59A | 1080p59.94 Level-A(1080p59.94Aと略します)に設定します。※ |
| ③ 1080p29 | 1080p29.97に設定します。 |
| ④ 1080p23 | 1080p23.98に設定します。 |
| ⑤ 1080sF29 | 1080sF29.97に設定します。 |
| ⑥ 1080sF23 | 1080sF23.98に設定します。 |

※ 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)でのご使用時には機能制限がございます。詳しくは本書の「9.仕様 / 1.機能」欄をご参照ください。

2) SYNC MODE

MENU→SYSTEM→SYNC MODEを選択すると、映像同期モードの選択ができます。



図4-3-29 SYNC MODE階層

- ① PRIMARY IN PRIMARY INを設定します。
 - FS……… FSモード(フレームシンクロナイザー)を選択します。
REFERENCE SELECTを「LINE DIR」にすると強制時にこのモードになります。
 - AVDL…… AVDLモード(ラインシンクロナイザー)を選択します。
- ② SECONDARY IN SECONDARY INを設定します。設定方法はPRIMARY INと同じです。
- ③ AUX IN AUX INを設定します。設定方法はPRIMARY INと同じです。

・FSモードとAVDLモードの信号処理

FSモードとAVDLモードの各信号処理を以下の表に示します。

表4-3-2 FSの信号処理

	FS
SDI入力信号の引き込み範囲	引き込み範囲の制限なし
エンベデッド音声出力	サンプルレートコンバータを通して16chのみ出力
SDI OUT 1に出力する入力信号の切り替え時の音声ノイズ	クロスフェード処理によって吸収 ※切り替え前もしくは後の入力信号でAVDLが使用されている場合はノイズが除去されません ※切り替え前の入力信号のノイズは吸収されません
H ANC	エンベデッド音声、Payload ID(SMPTE ST352)、タイムコード(SMPTE RP188)を重畳して出力
V ANC	スイッチングポイントとその次のラインを除くラインを通過(Y領域のみ)
映像遅延時間	「9.仕様 / 3.性能 / (1)SMS-70H 本体 / 映像入出力遅延 / ・FS設定」参照
音声遅延時間	「9.仕様 / 3.性能 / (1)SMS-70H 本体 / 音声入出力遅延 / ・FS設定」参照

表4-3-3 AVDLの信号処理

	AVDL
SDI入力信号の引き込み範囲	AVDLの引き込み範囲
エンベデッド音声出力	入力信号を無加工で通過
SDI OUT 1に出力する入力信号の切り替え時の音声ノイズ	除去なし
H ANC	入力信号を無加工で通過
V ANC	入力信号を無加工で通過
映像・音声遅延時間	約0.2H～1.2H

3) REFERENCE SELECT

MENU→SYSTEM→REFERENCE SELECTを選択すると、リファレンス信号の選択ができます。

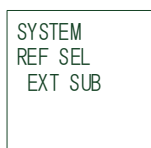


図4-3-30 REFERENCE SELECT階層

- ① EXT SUB 筐体内部バスのリファレンス信号に同期します。
SYNC MODEはFSとAVDLが選択できます。
SDI出力信号の位相は、GENLOCK PHASEのHとVのそれぞれの設定が0時、
SDI入力信号に対して1フレーム遅延した信号になります。
なお、筐体内部バスのリファレンス信号がない場合は、
MENU→SYSTEM→EXT SUB LOST の設定に従います。
- ② LINE DIRECT SDI OUT 1の出力に選択したSDI入力信号をリファレンス信号にします。
SYNC MODEは強制的にFSになります。
SDI出力信号は SDI入力信号に対して3ライン遅延した信号になります。位相の調整
はできません。
なお、SDI OUT 1の出力にSDI入力以外を選択した場合は自走モードになります。

4) GENLOCK PHASE

MENU→SYSTEM→GENLOCK PHASEを選択すると、EXT SUB設定時のSDI出力位相の設定ができます。
LINE DIRECT設定時のこの設定は無視されます。
SDI出力信号の位相については、**MENU**→REFERENCE SELECTの説明も合わせてご参照ください。

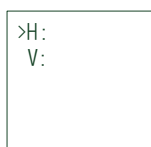


図4-3-31 GENLOCK PHASE階層

- ① H 水平位相を設定します。
- ② V 垂直位相を設定します。

5) SYSTEM TIME

MENU→SYSTEM→SYSTEM TIMEを選択すると、内部時計の確認と設定ができます。

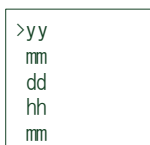


図4-3-32 SYSTEM TIME階層

- | | |
|------|----------|
| ① yy | 年を設定します。 |
| ② mm | 月を設定します。 |
| ③ dd | 日を設定します。 |
| ④ hh | 時を設定します。 |
| ⑤ mm | 分を設定します。 |
| ⑥ ss | 秒を設定します。 |

6) AUX IN

MENU→SYSTEM→AUX INを選択すると、SDI AUX IN / SEC OUT端子の設定ができます。



図4-3-33 AUX IN階層

- | | |
|-------|----------------------|
| ① IN | AUX INに設定します。 |
| ② OUT | SECONDARY OUTに設定します。 |

7) EXT SUB LOST

MENU→SYSTEM→EXT SUB LOSTを選択すると、EXT SUB設定時の筐体内部バスのリファレンス信号が断になった時の動作を設定できます。

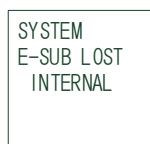


図4-3-34 EXT SUB LOST階層

- ① INTERNAL 内部信号に同期します。(内部同期)
筐体内部バスのリファレンス信号が供給されるとそれに同期します。
- ② LINE DIRECT **MENU**→SYSTEM→REFERENCE SELECT設定を「LINE DIECT」へ切り替えます。
一度、「LINE DIRECT」へ切り替わると、筐体内部バスのリファレンス信号が供給されても「EXT SUB」へ戻りません。
「EXT SUB」へ切り替える時は、**MENU**→SYSTEM→REFERENCE SELECT設定で再度「EXT SUB」を選択してください。

8) SWN FILTER

MENU→SYSTEM→SWN FILTERを選択すると、スイッチング ノイズ フィルターの設定ができます。
このフィルターを有効にすると、ブランキングスイッチャーの信号切り替え時に生じる「SDI SIGNALエラー」を非検出にします。



図4-3-35 SWN FILTER階層

- ① OFF OFFに設定します。
- ② ON ONに設定します。

(9) MEMORY FILE

※画像音声ファイルオプションSMS-70H-02が必要です。

MENU→MEMORY FILEを選択すると、内蔵メモリーに保存されている静止画像、音声ファイルの使用に関する設定ができます。

各ファイルの準備等については、「4.操作方法 / 8.MEMORY FILE機能」を参照してください。



図4-3-36 MEMORY FILE階層

1) IMAGE SELECT

MENU→IMAGE SELECTを選択すると、出力する静止画像の選択ができます。



図4-3-37 IMAGE SELECT階層

- ① IMAGE1 IMAGE1を選択します。
- ② IMAGE2 IMAGE2を選択します。
- ③ IMAGE3 IMAGE3を選択します。
- ④ IMAGE4 IMAGE4を選択します。
- ⑤ AUTO CHANGE 自動切換えを行います。

切り替えを行う静止画像は、IMAGE1～4 CONTROL→TRANSITION SELECTに従います。(下記設定項目)

2) IMAGE1 CONTROL

MENU→IMAGE1 CONTROLを選択すると、IMAGE1の静止画像と再生する音声ファイルの設定ができます。



図4-3-38 IMAGE1 CONTROL階層

- ① TRANSITION SELECT 静止画像のトランジション(切り替え効果)を選択します。
- DISABLE この静止画像を使用しません。
AUTO CHANGEの自動切換えにて使用されなくなります。
 - CUT..... カットを選択します。
 - DISSOLVE..... ディゾルブを選択します。
- ② TRANSITION TIME AUTO CHANGEでの静止画像を切り替える時間を設定します。
- ③ DISSOLVE SPEED ディゾルブの時間を設定します。
- ④ AUDIO SELECT 再生する音声ファイルを選択します。
- MUTE..... 音声をミュートします。
 - AUDIO1..... AUDIO1を選択します。
 - AUDIO2..... AUDIO2を選択します。
 - AUDIO3..... AUDIO3を選択します。
 - AUDIO4..... AUDIO4を選択します。
- ⑤ AUDIO LOOP 音声ファイルのループ再生設定を行います。
- DISABLE..... ループ再生を無効にします。
 - ENABLE..... ループ再生を有効にします。

3) IMAGE2 CONTROL

MENU→IMAGE2 CONTROLを選択すると、IMAGE2の静止画像と再生する音声ファイルの設定ができます。
設定方法はIMAGE1と同じです。

4) IMAGE3 CONTROL

MENU→IMAGE3 CONTROLを選択すると、IMAGE3の静止画像と再生する音声ファイルの設定ができます。
設定方法はIMAGE1と同じです。

5) IMAGE4 COTROL

MENU→IMAGE4 CONTROLを選択すると、IMAGE4の静止画像と再生する音声ファイルの設定ができます。
設定方法はIMAGE1と同じです。

(10) CONFIG

MENU→CONFIGを選択すると、機能に関する各種設定ができます。

```
>AUTO MODE
  ANC CTRL
  DISPLAY
  INT COLOR
  PREVIEW
```

図4-3-39 CONFIG階層

1) AUTO MODE

MENU→CONFIG→AUTO MODEを選択すると、PRIMARYとSECONDARYの自動切り替え機能の設定ができます。

自動切り替えを使用する場合、PRIMARY入力にエラーが発生すると、出力は自動的にSECONDARYに切り替わります。

SECONDARYからPRIMARYへの復帰は4通りの方法があります。

- (1) **MENU**→CONFIG→AUTO MODE→RETURN TIMEで設定された時間、PRIMARY入力にエラーがないと出力は自動的にPRIMARYに復帰します。
- (2) GPI入力の「P/S SELECT」に立ち上がりエッジを入力することにより、PRIMARY入力に復帰します。
- (3) **MENU**→GPI→MANUAL OUTで「PRIMARY」を設定してGPI制御を行います。
- (4) SNMPのOID1018out selでPRIMARYを設定します。

```
>AUTO MODE
  RET TIME
  DOUBLE ERR
  AUX ERROR
  pERROR SEL
```

図4-3-40 AUTO MODE階層

- | | |
|---------------|---|
| ① AUTO MODE | 自動切り替え機能を設定します。
➤ OFF…………… 無効にします。
入力信号が無い時は黒画面が出力されます。
➤ ON…………… 有効にします。 |
| ② RETURN TIME | エラーが解消すると一定時間後に切り替え前の状態に自動復帰します。
自動復帰時間をツマミで回して秒単位で設定します。
AUTO MODEを使用する場合のみ有効です。「-1」に設定すると自動復帰は行いません。
復帰時間になる前に手動操作(メニュー、パネル、GPI、SNMPなど)により強制切り替えを行った場合、自動復帰はキャンセルされます。 |

- ③ DOUBLE ERROR PRIMARY、SECONDARY共にアラームを検出した時の動作を設定します。
 ※**MENU**→CONFIG→AUTO MODE→TOGGLE MODEの設定が「ON」の時、
 DOUBLE ERRORの設定は無効になります。
- OFF………… DOUBLE ERRORを無効にします。
 - PRIMARY…… SDI OUT 1をPRIMARYに切り替えます。
 - SECONDARY… SDI OUT 1をSECONDARYに切り替えます。
 - AUX………… SDI OUT 1をAUXに切り替えます。
 - COLOR…… SDI OUT 1をインターナルカラーに切り替えます。
 - FILE………… SDI OUT 1をMEMORY FILEに切り替えます。
 - CUT OUT…… SDI OUT 1のSDI信号を出力しません。
- ④ AUX ERROR AUXでアラームを検出した時の動作を設定します。
- COLOR…… SDI OUT 1をインターナルカラーに切り替えます。
 - FILE………… SDI OUT 1をMEMORY FILEに切り替えます。
- ⑤ PRI ERR SELECT PRIMARYの自動切り替えの条件を設定します
- 123………… ERROR 1、2、3のどれかを検出した時。
 - 1 …………… ERROR 1を検出した時。
 - 2 …………… ERROR 2を検出した時。
 - 3 …………… ERROR 3を検出した時。
 - 12…………… ERROR 1、2のどちらかを検出した時。
 - 23…………… ERROR 2、3のどちらかを検出した時。
 - 13…………… ERROR 1、3のどちらかを検出した時。
- ⑥ SEC ERR SELECT SECONDARYの自動切り替えの条件を設定します。
 設定方法はPRI ERR SELECTと同じです。
- ⑦ AUX ERR SELECT AUXの自動切り替えの条件を設定します。
 設定方法はPRI ERR SELECTと同じです。
- ⑧ TOGGLE MODE PRIMARYとSECONDARYの2系統を使い、エラーの検出にて交互に切り替わる
 トグルモードを設定します。
 PRIMARYとSECONDARYの両系統でエラーが発生した場合は黒画面が出力
 され、その後エラーが復帰した系統へ切り替わります。
- OFF………… 通常の切り替えを行います。
 - ON…………… トグルモードで切り替えを行います。

2) ANC CONTROL

MENU→CONFIG→ANC CTRLを選択すると、SDI出力に重畳するアンシラリパケットに関する設定ができます。

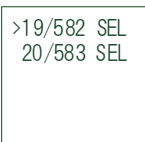


図4-3-41 ANC CONTROL階層

- ① LINE 19/582 SELECT 19/582ラインVANCのYデータ系列データに重畳するデータを選択します。
- THROUGH・・・ データの入れ替えを行いません。
 - AUX ANC・・・ AUX INのデータを重畳します。
- ※デジタル字幕データ packets (ARIB-B37)の多重位置に該当します。
- なお、映像フォーマットがプログレッシブの時は582ラインへの重畳は行いません。
- ② LINE 20/583 SELECT 20/583ラインVANCのYデータ系列データに重畳するデータを選択します。
- THROUGH・・・ データの入れ替えを行いません。
 - AUX ANC・・・ AUX INのデータを重畳します。
- ※放送局間制御信号 packets (ARIB-B39)、データ放送トリガ信号 packets (ARIB-B35)、ユーザデータ1/ユーザデータ2 packets (ARIB-B23)の多重位置に該当します。
- なお、映像フォーマットがプログレッシブの時は583ラインへの重畳は行いません。

3) DISPLAY

MENU → CONFIG → DISPLAYを選択すると、本体正面の表示器とOSDに関する設定ができます。



図4-3-42 DISPLAY階層

- ① SCREEN SAVER スクリーンセーバーの設定を行います。
- DIM 50%…………… MAIN VIEWの表示輝度が10分後に50%に落ちます。
 - DIM 30%…………… MAIN VIEWの表示輝度が10分後に30%に落ちます。
 - OFF…………… スクリーンセーバー機能を無効にします。
 - NAME ROLL…………… MAIN VIEWの表示が10分後に機種名に変わります。
 - DIM 70%…………… MAIN VIEWの表示輝度が10分後に70%に落ちます。
- ② MAIN VIEW 無操作時の表示器に表示する機能を設定します。
- STATUS…………… ステータスを表示します。
入力信号や出力信号の状態を表示します。
 - PRI AVDL METER…… PRIMARYのAVDLメーターを表示します。
 - SEC AVDL METER… SECONDARYのAVDLメーターを表示します。
 - AUX AVDL METER… AUXのAVDLメーターを表示します。
- ③ OSD SDI OUT 3のオンスクリーンメニューの表示を設定します。
- DISABLE…………… 表示を無効にします。
 - ENABLE…………… 表示を有効にします。
- ④ OSD BRIGHT オンスクリーンメニューの輝度を設定します。

4) INTERNAL COLOR

MENU→CONFIG→INT COLORを選択すると、インターナルカラーの設定ができます。

- ① PATTERN 画像を選択します。
 - FULL FIELD COLOR BAR・・・ フルフィールドカラーバーを選択します。
 - MULTI FORMAT COLOR BAR マルチフォーマットカラーバーを選択します。
 - BLUE・・・・・・・・・・・・ 単色青を選択します。
 - RED・・・・・・・・・・・・ 単色赤を選択します。
 - BLACK・・・・・・・・・・・・ 単色黒を選択します。
- ② SCROLL H 水平方向のスクロールを設定します。
 - OFF・・・・・・・・・・・・ 水平方向のスクロールをしません。
 - LEFT・・・・・・・・・・・・ 左方向へスクロールします。
 - RIGHT・・・・・・・・・・・・ 右方向へ横スクロールします。
- ③ SCROLL V 垂直方向のスクロールを設定します。
 - OFF・・・・・・・・・・・・ 垂直方向のスクロールをしません。
 - UP・・・・・・・・・・・・ 上方向へスクロールします。
 - DOWN・・・・・・・・・・・・ 下方向へスクロールします。
- ④ SCROLL H SPEED 水平方向のスクロールの速度を設定します。
 - LOW・・・・・・・・・・・・ 低速に設定します。
 - MID・・・・・・・・・・・・ 中速に設定します。
 - HIGH・・・・・・・・・・・・ 高速に設定します。
- ⑤ SCROLL V SPEED 垂直方向のスクロールの速度を設定します。
 - LOW・・・・・・・・・・・・ 低速に設定します。
 - MID・・・・・・・・・・・・ 中速に設定します。
 - HIGH・・・・・・・・・・・・ 高速に設定します。
- ⑥ AUDIO 音声を選択します。
 - MUTE・・・・・・・・・・・・ 音声をミュートします。
 - 1kHz・・・・・・・・・・・・ 1kHzを選択します。
- ⑦ CHARACTER 表示する文字を設定します。

英数字と”-“、スペースを20文字まで設定できます。(英小文字は非対応です)

※①～⑤の設定を変更した後、4分割画面でのCOLOR表示で不連続な動きが一瞬ある時がありますが故障ではありません。

5) PREVIEW

MENU→CONFIG→PREVIEWを選択すると、SDI OUT 3のプレビュー出力の設定ができます。



図4-3-43 PREVIEW階層

① PREVIEW MODE

プレビュー出力の映像を選択します。※1

- OFF…………… 映像/音声を含むANCデータはSDI OUT 1と同じ信号を出力します。
- NEXT…………… 映像/音声を含むANCデータはSDI OUT 1の反対BUS信号を出力します。
SDI OUT 1がPRIMARYの場合はSECONDARYを出力し、
SDI OUT 1がSECONDARYの場合はPRIMARYを出力します。
- SPLIT 1…………… 映像は画面を2分割してPRIMARYとSECONDARYを出力します。音声はPRIMARYが出力されます。
- SPLIT 2…………… 映像は画面をほぼ3分割してPRIMARY、SECONDARY、AUXを出力します。音声はPRIMARYが出力されます。※2
- AUX…………… AUXを出力します。※3
- FILE…………… 映像/音声共にMEMORY FILEで選択されている映像を出力します。
- 4 SCREENS…………… 映像は4分割画面を出力します。音声は左上の画面に選択されている信号ソースの音声を出力します。※4

② 4 SCREENS

4分割画面の設定を行います。

- TOP LEFT SEL…………… 左上の画面を選択します。
「PRIMARY」… PRIMARYを表示します。
「SECONDARY」 SECONDARYを表示します。
「AUX」…………… AUXを表示します。
「COLOR」…………… インターナルカラーを表示します。※5
「FILE」…………… MEMORY FILEで選択されている映像を表示します。
「BLACK」…………… 黒画面にします。
「OUT」…………… SDI OUT 1に出力されている映像を出力します。
- TOP RIGHT SEL…………… 右上の画面を選択します。
選択内容はTOP LEFT SELと同じです。
- BOTTOM LEFT SEL…………… 左下の画面を選択します。
選択内容はTOP LEFT SELと同じです。
- BOTTOM RIGHT SEL…………… 右下の画面を選択します。
選択内容はTOP LEFT SELと同じです。

- TOP LEFT CHR..... 左上画面の文字を設定します。※6
「OFF」..... 文字を表示しません。
「AUTO」..... 自動で設定をした文字を表示します。
「CUSTOM」... カスタム設定をした文字を表示します。
- TOP RIGHT CHR..... 右上画面の文字を設定します。※6
選択内容はTOP LEFT CHRと同じです。
- BOTTOM LEFT CHR..... 左下画面の文字を設定します。※6
選択内容はTOP LEFT CHRと同じです。
- BOTTOM RIGHT CHR..... 右下画面の文字を設定します。※6
選択内容はTOP LEFT CHRと同じです。
- TOP LEFT CUSTOM..... 左上画面の文字をカスタム設定します。
英数字と”-“、スペースを20文字まで設定できます。(英小文字は非対応です)
- TOP RIGHT CUSTOM..... 右上画面の文字をカスタム設定します。
設定内容はTOP LEFT CUSTOMと同じです。
- BOTTOM LEFT CUSTOM... 左下画面の文字をカスタム設定します
設定内容はTOP LEFT CUSTOMと同じです。
- BOTTOM RIGHT CUSTOM.. 右下画面の文字をカスタム設定します。
設定内容はTOP LEFT CUSTOMと同じです。
- AUDIO MODE..... 出力する音声を選択します。
「TOP LEFT」..... 左上の音声を出力します。
「TOP RIGHT」..... 右上の音声を出力します。
「BOTTOM LEFT」..... 左下の音声を出力します。
「BOTTOM RIGHT」..... 右下の音声を出力します。
「PRIMARY」..... PRIMARYの音声を出力します。
「SECONDARY」..... SECONDARYの音声を出力します。
「AUX」..... AUXの音声を出力します。
「FILE」..... FILEの音声を出力します。
「1 kHz」..... 1 kHzを出力します。
「MUTE」..... 無音にします。

※1 FILEオプションが実装されていて、映像フォーマットが3G-SDI(1080p59.94A)では、起動後やMEMORY FILEのアップロード操作、映像フォーマットの変更による各ファイルの展開動作中は【OFF】に設定されます。

※2 FILEオプションが実装されていて、映像フォーマットが3G-SDI(1080p59.94A)では、SDI OUT 1をFILEに設定した時にAUX入力の映像は黒表示になります。

※3 FILEオプションが実装されていて、SDI OUT 1をFILEに設定した時は黒表示になります。

※4 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)ではご使用になれません。SPLIT 2の表示になります。

※5 インターナルカラー設定は4分割画面で1か所のみ設定が可能です。複数の箇所を設定がされた場合、設定と実際の表示が不一致する場合があります。

※6 オンスクリーンメニューが表示されている時は表示できません。

・SPLIT1とSPLIT2の表示

下図の様に2分割、3分割で表示されます。

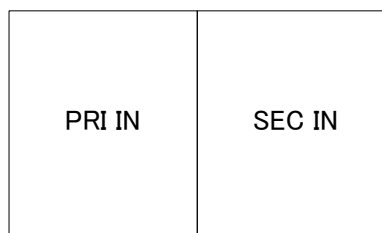


図4-3-44 SPLIT1

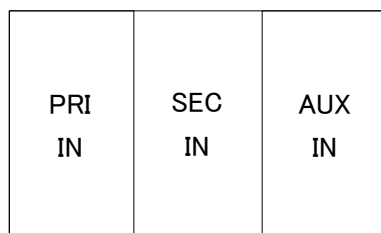


図4-3-45 SPLIT2

・4 SCREENSの表示

下図の様に4分割で表示されます。

タリー表示はSDI OUT 1出力に選択がされている信号ソースが赤で表示され、それ以外はグレーで表示されます。

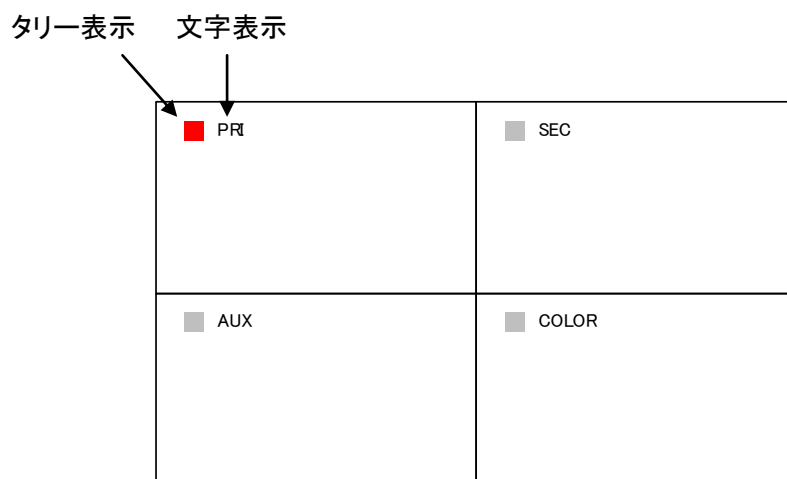


図4-3-46 4 SCREENSの設定例

・PREVIEW出力のANCデータ

PREVIEW出力のANCデータの内容を以下に示します。

表4-3-4 PREVIEW出力のANCデータ

PREVIEW MODE	H ANC	V ANC
OFF	SDI OUT 1と同じ ※	SDI OUT 1と同じ※
NEXT	SDI OUT 1の反対BUS ※	SDI OUT 1の反対BUS ※
SPLIT 1	PRIMARYの音声とペイロードID	無し
SPLIT 2	PRIMARYの音声とペイロードID	無し
AUX	AUXのH ANC ※	AUXのV ANC ※
FILE	音声ペイロードID	無し
4 SCREENS	「AUDIO MODE」で設定した音声と左上画面のペイロード	無し

※重畳されるANCデータはSDI入力のSYNC MODEの設定によって変わります。詳しくは本書の「4.操作方法 / 3.各機能の説明 / (8)SYSTEM / 2)SYNC MODE」をご参照ください。

6) PANEL CONFIG

MENU→CONFIG→PANEL CONFIGを選択すると、オプションのSMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル、RCP-01F-ALM LAN対応 アラーム・コントロール・パネルの設定ができます。



図4-3-47 PANEL CONFIG階層

- | | |
|----------|--|
| ① VOLUME | ブザーの音量を調整します。※RCP-01F-ALMパネルでは無効です。 |
| ② TYPE | ブザーの種類を設定します。 |
| ③ TIME | ブザーの停止時間を設定します。
停止時間を0～3(分)で指定します。
0を設定した場合ブザーは停止しません。 |

(11) INFORMATION

MENU→INFORMATIONを選択すると、各種ステータスが確認できます。



図4-3-48 INFORMATION階層

- | | |
|-----------|--|
| ① VERSION | モジュールのバージョン情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none">➢ SOFT..... ソフトウェアのバージョン情報を表示します。➢ HARD MAIN... ハードウェアのバージョン情報を表示します。➢ HARD GEN... ゲンロックのハードウェアのバージョン情報を表示します。 |
| ② STATUS | 各SDI入力の状態とオプションの情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none">➢ PRI IN..... PRIMARY INの状態を表示します。<ul style="list-style-type: none">「OK」..... 入力信号に異常がありません。「NO-SIG」..... 入力信号がありません。「UNFORMAT」.. 入力信号がロックできません。➢ SEC IN..... SECONDARY INの状態を表示します。<ul style="list-style-type: none">選択内容はPRI INと同じです。➢ AUX IN..... AUX INの状態を表示します。<ul style="list-style-type: none">選択内容はPRI INと同じです。➢ OPTION..... オプション情報を表示します。<ul style="list-style-type: none">「NONE」..... オプションはありません。「OPTION FILE」・ オプションSMS-70H-02が有効です。 |



図4-3-49 STATUS

③ pPAYLOAD I

PRIMARY INのペイロードIDを表示します。

PAYLOAD IDは16進数8桁でBYTE4～BYTE1の順に表示します。
また、PAYLOAD IDを含まない場合、“-----”と表示します。

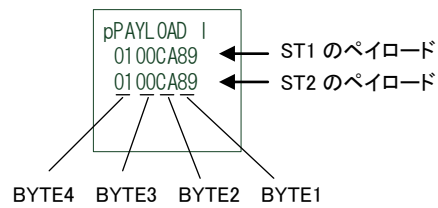


図4-3-50 pPAYLOAD IN

④ sPAYLOAD I

SECONDARY INのペイロードIDを表示します。

表示方法はpPAYLOAD Iと同じです。

⑤ aPAYLOAD I

AUX INのペイロードIDを表示します。

表示方法はpPAYLOAD Iと同じです。

⑥ PAYLOAD OT

SDI OUT(1,2,3共通)のペイロードIDを表示します。

表示方法はpPAYLOAD Iと同じです。

(12) MAINTENANCE

MENU → MAINTENANCEを選択すると、メンテナンスの設定ができます。

```
>INI COND
FL FORMAT
pERR DUMP
sERR DUMP
aERR DUMP
```

図4-3-51 MAINTENANCE階層

1) INIT CONDITION

MENU → INIT CONDITIONを選択すると、全ての設定値を工場出荷時に戻せます。

```
MTN
INI COND
INITIAL?
```

図4-3-52 INIT CONDITION階層

- ① YES(ENTERボタン) 初期化を実行します。
- ② NO(MENUスイッチ) 初期化を実行せず、キャンセルします。

2) FLASH FORMAT

MENU → FLASH FORMATを選択すると、フラッシュドライブのフォーマットができます。

ログのクリアやその他のファイルも消去されますのでフラッシュドライブが壊れた時以外は使用禁止です。

```
MTN
FL FORMAT
SET?
```

図4-3-53 FLASH FORMAT階層

- ① YES(ENTERボタン) フォーマットを実行します。
- ② NO(MENUスイッチ) フォーマットを実行せず、キャンセルします。

3) pERROR DUMP

MENU→pERROR DUMPを選択すると、PRIMARY INの全エラーの検出状態を表示できます。

SDI OUT 3のオンスクリーン表示とELディスプレイでの確認が可能です。

・オンスクリーン表示での確認方法

オンスクリーンメニューを表示させてください。(操作方法は「3.各部の名称と働き / 1.メインモジュール/コネクタモジュール / (2)ELディスプレイ/MENUスイッチ」を参照)

MENU→MTN→pERROR DUMPを選択します。

下図はSDI OUT 3のオンスクリーン表示(OSD)です。

実際には全ての項目を表示することはできませんので、選択ツマミの操作で表示範囲を調整してください。

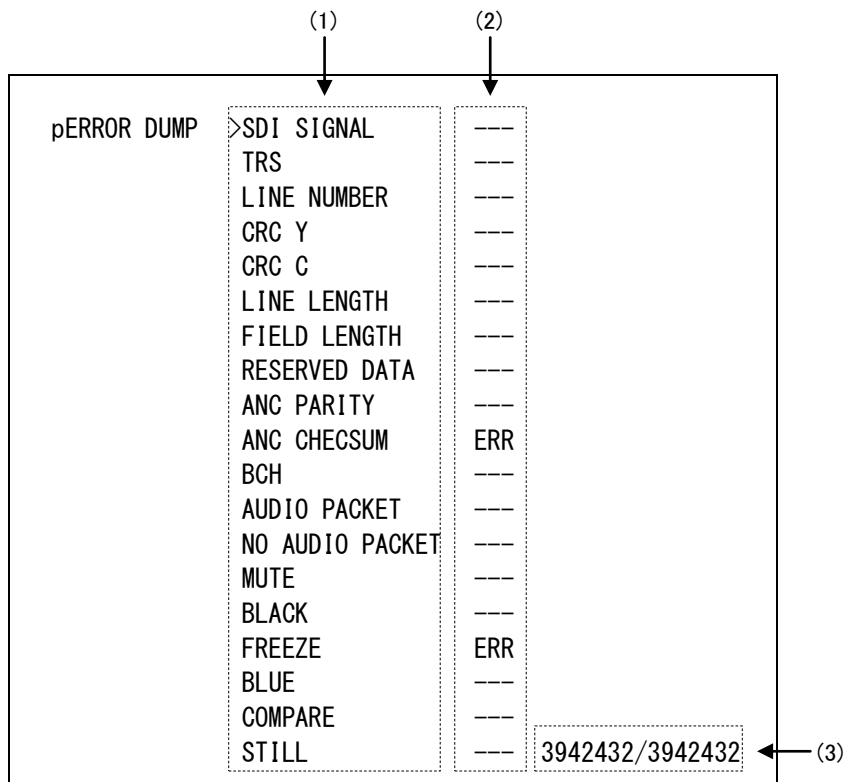


図4-3-54 pERROR DUMP

(1) 検出項目を示します。

(2) 検出状態を示します。

➤ ----- エラーを検出していません。

➤ ERR..... エラーを検出しています。

(3) STILLの検出値を示します。

左の数値が現在の検出値で、右の数値は検出範囲での検出値の総数を示します。

映像フォーマットが1080p59の時の検出値は常に0になります。

・ELディスプレイでの確認方法

MENU→MTN→pERROR DUMPを選択します。

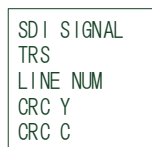


図4-3-55 pERROR DUMP階層

- ① SDI SIGNAL SDI信号無しのエラー検出の状態を表示します。
- ---..... エラーを検出していません。
 - ERR..... エラーを検出しています。
- ※以降の項目の同様の表示になります。



図4-3-56 SDI SIGNAL階層

- | | |
|-----------------|---|
| ② TRS | TRSエラー検出の状態を表示します。 |
| ③ LINE NUMBER | LINE NUMBERエラー検出の状態を表示します。 |
| ④ CRC Y | Y信号のCRCエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑤ CRC C | C信号のCRCエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑥ LINE LENGTH | LINE LENGTHエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑦ FIELD LENGTH | FIELD LENGTHエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑧ RESERVED DATA | RESERVED DATAエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑨ ANC PARITY | ANCILLARY PARITYエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑩ ANC CHECKSUM | ANCILLARY CHECKSUMエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑪ BCH | BCHのエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑫ AUDIO PACKET | AUDIO DATA PACKET DBNインクリメントエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑬ NO AUDIO | NO AUDIO PACKETエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑭ MUTE | MUTEエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑮ BLACK | BLACKエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑯ FREEZE | FREEZEエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑰ BLUE | BLUEエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑱ COMPARE | COMPAREエラー検出の状態を表示します。 |
| ⑲ STILL | STILLエラー検出の状態を表示します。 |

4) sERROR DUMP

MENU→MTN→sERROR DUMPを選択すると、SECONDARY INの全エラーを表示します。
表示方法はpERROR DUMPと同じです。

5) aERROR DUMP

MENU→MTN→aERROR DUMPを選択すると、AUX INの全エラーを表示します。
表示方法はpERROR DUMPと同じです。

6) FAN ROTATE

MENU→MTN→FAN ROTATEを選択すると、チップクーリングFANの回転数を表示します。



図4-3-57 FAN ROT階層

7) DEVICE TEMP

MENU→MTN→DEV TEMPを選択すると、メインデバイス温度を表示します。



図4-3-58 DEV TEMP階層

8) ERROR MASK

MENU→MTN→ERROR MASKを選択すると、SNMP項番1069のsms70hErrorMaskの設定状態を示します。
この設定はSNMPでのみ可能です。



図4-3-59 ERROR MASK階層

- | | |
|-------|--------------------------------|
| ① OFF | SDI SIGNAL～STILLまでの全ての検知が有効です。 |
| ② ON | SDI SIGNAL～STILLまでの全ての検知が無効です。 |

4. AVDL メーターについて

本体正面に表示される AVDL メーターは、SMS-70H の各 SDI 信号入力部に搭載する AVDL の動作状況や、入力信号とリファレンス信号の位相関係を直感的に把握することができます。

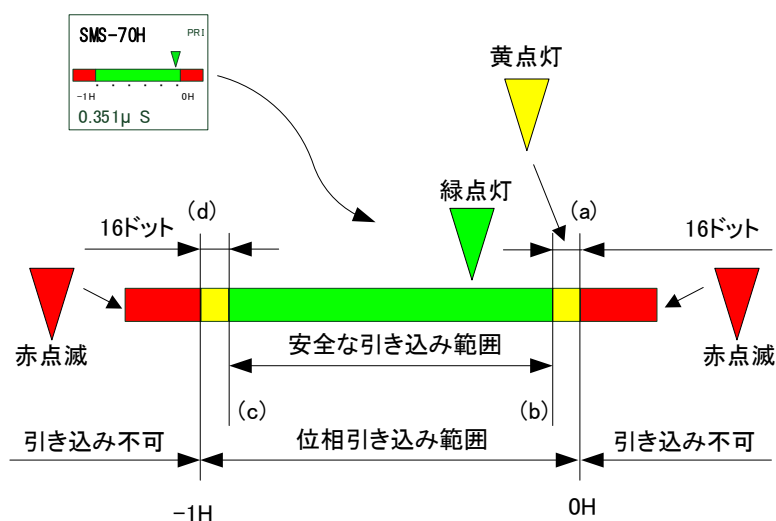


図 4-4 AVDL メーターの表示内容

上図で AVDL の引き込み範囲を緑色と黄色の領域で表し、対象となる入力信号の位相は▼のマーカで示されます。

黄色の領域は、位相引き込み範囲内にはあるが、位相引き込み不可領域に接する 16 ドット分の領域です。この領域は位相引き込み範囲内ですが SDI 入力信号またはリファレンス信号のゆらぎ等により AVDL の引き込み範囲から外れる可能性がある領域です。▼のマーカがこの範囲にある場合、マーカは黄色で表示します。

赤の領域は、引き込み範囲外を示します。▼のマーカがこの範囲にある場合、インジケータは赤で点滅します。

下表に AVDL の引き込み範囲の値を示します。表中の(a)～(d)は「図 4-4 AVDL メーターの表示内容」の(a)～(d)に対応します。この値は引き込み点(a)を $0\mu s$ とした場合の引き込み範囲です。(b)～(c)は安全な引き込み範囲を示し、(d)は引き込み範囲の最大値です。また、参考値として 1H 幅の時間を μs 換算で示します。

表 4-4 AVDL の引き込み範囲

SDI フォーマット	引き込み範囲				
	(a)(μ s) 引き込み点	(b)(μ s) +16ドット	(c)(μ s) -16ドット	(d)(μ s)※ Max	引き込みライン数
1080i59.94 1080psF29.97	0	0.216	29.4	29.6	1H
1080p59.94A	0	0.107	14.7	14.8	1H
1080p29.97	0	0.216	29.4	29.6	1H
1080p23.98	0	0.216	36.8	37.0	1H
1080psF23.98	0	0.216	36.8	37.0	1H

なお、上表の(a)、(d)に示す値の近傍になるように調整すると、SDI 入力信号または SDI 信号のゆらぎ等により AVDL の引き込み範囲から外れる場合があります。このとき、出力映像が垂直方向に 1 ライン以上シフトします。

運用の際は、安全を考慮し、▼のマーカが緑色で表示される領域でご使用いただくことを推奨いたします。

※AVDL の引き込み範囲は 1H よりやや少なめになっているので、この値も 1H よりやや少なめになっています。

5. SMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル(オプション)の使い方

リモート・コントロール・パネルでは出力の切り替え、モード変更等の操作をリモートで行うことができます。また、エラーが発生するランプとブザーでお知らせできます。リモート・コントロール・パネルと本体の接続は、SMS-70H 背面のGPI/PANEL端子とリモート・コントロール・パネルのPANEL IN端子を100M以内の同軸ケーブルで接続します。

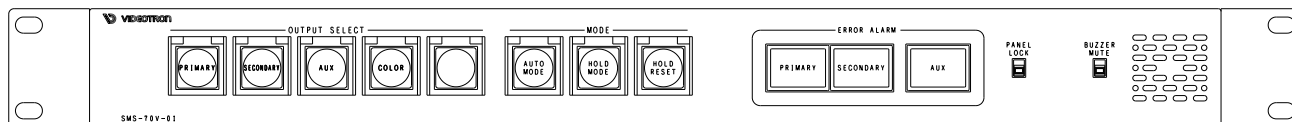


図4-5 SMS-70V-01 リモートパネル(オプション)

(1) パネル基本操作

- 1) 電源投入直後、および通信が断の時はボタンが全点灯し、通信が正常になると各モードに従った表示になります。
- 2) PRIMARY切り替え
ボタンを押すとPRIMARYに切り替わります。※1
SDI OUT 1にPRIMARYが出力されていると橙色で点灯します。
- 3) SECONDARY切り替え
ボタンを押すとSECONDARYに切り替わります。※1
SDI OUT 1にSECONDARYが出力されていると橙色で点灯します。
- 4) AUX切り替え
ボタンを押すとAUXに切り替わります。※1
SDI OUT 1にAUXが出力されていると橙色で点灯します。
- 5) COLOR切り替え
ボタンを押すとCOLORに切り替わります。※1
SDI OUT 1にCOLORが出力されていると橙色で点灯します。
- 6) 拡張ボタン
ボタンは将来の拡張用です。
画像音声ファイルオプションを実装した時はFILEボタンになります。
- 7) AUTO MODE切り替え
ボタンを押すとON→OFF→ONと交互に切り替わります。
AUTO MODEがONの時に点灯します。
TOGGLE MODEがOFFの時は橙色、ONの時は緑色になります。
- 8) HOLD MODE切り替え
ボタンを押すとON→OFF→ONと交互に切り替わります。
HOLD MODEがONの時に橙色で点灯します。
- 9) HOLD RESET
ボタンを押すとエラーホールドを解除します。
- 10) PRIMARY ALARM LED
PRIMARYでエラーが発生すると赤色に点灯しブザー音を発します。
ボタンを押すとブザー音が停止します。

11) SECONDARY ALARM LED

SECONDARYでエラーが発生すると赤色に点灯しブザー音を発します。

SECONDARYボタンを押すとブザー音が停止します。

12) AUX ALARM LED

AUX入力が断になると赤色に点灯しブザー音を発します。

AUXボタンを押すとブザー音が停止します。

13) PANEL LOCK

スイッチを上スライドさせるとLEDが点灯し、パネル操作が不能になります。

下スライドさせるとLEDが消灯し、パネル操作が可能になります。

14) BUZZER MUTE

スイッチを上スライドさせるとLEDが点灯し、ブザー音が消音します。

下スライドさせるとLEDが消灯し、ブザー音を発します。

※1 AUTO MODEがONの場合は自動切り替えが優先します。

(2) パネル設定モード操作

1) **AUX** ボタンを3秒以上長押しするとボタンが緑色に点滅して設定モードへ入ります。

2) ブザー音質の切り替え

PRIMARYボタンを一度押すとごとに音質が1→2→3→1と切り替わります。

3) ブザー音量の調整

SECONDARYボタンを一度押すとごとに音量が1→2→3→1と切り替わります。

4) 設定終了

AUXボタンを押すと設定が終了します。

6. RCP-01F-ALM LAN 対応 アラーム・コントロール・パネル(オプション)の使い方

RCP-01F-ALMは同軸パネル通信、ネットワーク通信経由でSMS-70Hをリモート制御できる操作パネルです。

出力の切り替え、モード変更等の操作をリモートで行うことができます。また、エラー発生を通知するランプとブザーでお知らせできます。リモート・コントロール・パネルと本体の接続は、同軸接続とLAN接続があります。同軸接続は1対1制御でSMS-70H背面のGPI/PANEL端子とリモート・コントロール・パネルのPANEL IN端子を100M以内(L-3C2V)の同軸ケーブルで接続します。LAN接続は1対10制御でVbus筐体のRJ45コネクタとリモート・コントロール・パネルの10/100 BASEコネクタをツイストペアケーブルで接続します。LAN接続はVbus筐体のSNMPボードを通して最大10台分のSMS-70Hを制御、監視ができます。

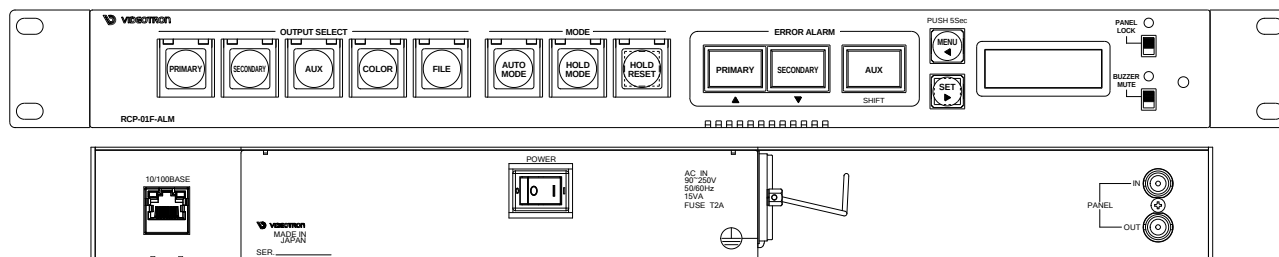


図4-6-1 RCP-01F-ALM アラームコントロールパネル(オプション)

●LCD表示器

モジュール番号とモジュール・ステータスの表示は上下一対一関係です



※ モジュール番号“0”は10番目モジュールを表します。

図4-6-2 ホーム画面

(1) モジュールの切り替え

ホーム画面にて **MENU ◀** ボタン、**SET ▶** ボタン を押すと設定有効なモジュール間で制御モジュールを切り替えます。

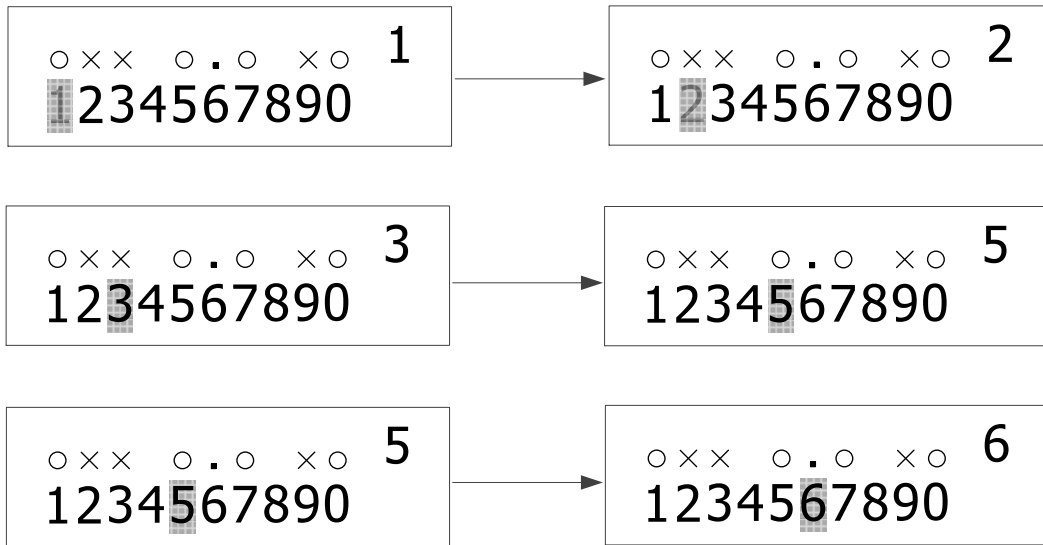


図4-6-3 ホーム画面 制御モジュールの切り替え

※ 設定有効なモジュールはすべて正常状態で動作している場合最初にエラーが発生されたモジュールに自動的に切り替えます。

■イーサネット通信

(1) 設定項目の選択と終了操作

- (1) **MENU ◀** ボタンを 5秒間押すと **MENU ◀** ボタン、**SET ▶** ボタン が点灯します。
パネル本体の設定メニューに入り、表示器にパネル本体の初期設定画面を表示します。

- (2) **PRIMARY ▲**、**SECONDARY ▼** を押し設定項目を選択し、**SET** スイッチを押します。



図 4-6-4 パネル本体の初期設定画

DEST CONFIG : 接続先モジュール選択、接続先IPアドレス、モジュール種類、スロット番号、コミュニティ名、コピーモードなどを設定します。

RCP CONFIG : パネル通信選択、パネル本体IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバー、PHYモード、ブザー鳴動タイプ、鳴動時間、初期化を設定します。

INFORMATION : ソフトウェア、ハードウェア バージョン情報、MACアドレス、リンクステータスを表示します。

- (3) PRIMARY ▲、SECONDARY ▼ を押し DEST1 ～ DEST10 を選択し、SET スイッチを押します。

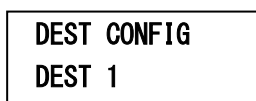


図 4-6-5 一つ下階層の設定画面

- (4) PRIMARY ▲、SECONDARY ▼ を押し設定項目を選択し、SET スイッチを押します。



図 4-6-6 一つ下階層の設定画面

- (5) PRIMARY ▲、SECONDARY ▼ を押し設定項目を選択します。



図 4-6-7 一つ下階層の設定画面

- (6) SET スイッチを押します。

選択された設定項目の一番下の設定項目で設定値が変化した時、SET スイッチは点灯します。
点灯中に SET スイッチを押すとバックアップメモリに設定値を保存します。



図 4-6-8 最下階層設定画面

- (7) MENU ◀ ボタンを押すと一つ上階層の設定画面に戻ります。

※設定をキャンセルする場合は、SET スイッチが点灯していても押さないでください。
押さなければ、一つ前の設定値に戻ります。

- (8) MENU ◀ ボタンをさらに押すとホーム画面に戻ります。

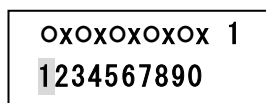


図 4-6-9 ホーム画面

- 接続先モジュールIPアドレス、スロット番号、モジュール種類、パネル本体ネットワーク、ブザー関連の設定
接続先モジュール選択、接続先IPアドレス、モジュール種類、スロット番号、コミュニティ名、コピーモード、
パネル通信選択、パネル本体IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、PHYモード、ブザー鳴動タイプ、
鳴動時間、初期化を設定します。

・パネル本体メニューツリー

MENU	SUB ITEM1	SUB ITEM2	SUB ITEM3	機能
DEST CONFIG	DEST 1	MODEL	OFF / SMS-70H	接続先1の各種設定
	DEST 2	SLOT	1～10	スロット番号の設定 ※4
		IP ADDRESS	192[1] / 168[2] / 1[3] / 0[4]	宛先IPアドレスの設定 ※1
		COMMUNITY NM	VIDEOTRON	コミュニティ名の設定 ※1
		BUZZER TYPE	1 / 2 / 3	ブザー鳴動タイプの設定
		BUZZER TIME	0 / 1 / 2 / 3	ブザー鳴動時間の設定 ※2
	DEST 10	COPY MODE	ENABLE / DISABLE	コピーモードの設定 ※1
				使用通信の選択
				DHCPの有効・無効設定 ※3
				パネル本体 IPアドレス
RCP CONFIG	COM SELECT	LAN / BNC		サブネットマスクの設定
	DHCP	OFF / ON		ゲートウェイの設定
	IP ADDRESS	192[1] / 168[2] / 1[3] / 10[4]		PHYモードの設定
	SUB MASK	255[1] / 255[2] / 255[3] / 0[4]		
	GATEWAY	0[1] / 0[2] / 0[3] / 0[4]		
	PHY MODE	AUTO / 10M Half / 10M Full / 100M Half / 100M Full		
	INITIAL SET	INITIAL?		初期化 SETボタンを押すと実行 ソフトウェア バージョン 情報
INFORMATION	VERSION	SOFT	01.00.00 2025/05/19 16:25:03	ハードウェア バージョン 情報
		HARD	01.00.00 2025.05.19 10:03:58	MACアドレスの表示
	MAC ADDRESS	00:0e:88 xx:xx:xx		ネットワーク・リンク・ ステータス
	LINK STATUS	Link Off /100Mbps Full /100Mbps Half /10Mbps Full /10Mbps Half		
	DHCP STATUS	DHCP Status / IP Address / Gateway / DHCP Server / DNS Server		DHCP接続状態情報の 表示

メニューツリー内の■は工場出荷時設定を示します。変更した全ての設定は電源OFF時も保持されます。

- ※1 COPY MODE は同一筐体内複数枚 SMS を使用する場合 DESTx の設定を簡略化させるために設けられた機能です。関連設定は 宛先 IPアドレス、コミュニティ名となります。
- 異なる筐体内の SMS を監視・制御する場合某 DESTx の宛先 IPアドレス、コミュニティ名を変更する前、先に COPY MODE を無効に設定してください。そのまま宛先 IPアドレス、コミュニティ名を変更すると COPY MODE が有効の DESTx の宛先 IPアドレス、コミュニティ名がすべて変わってしまいます。
- ご注意ください！
- ※2 ブザーの鳴動時間の設定は本体メニューの`CONFIG`→`CONFIG PANEL`→`TIME`と同様です。
- ブザーの鳴動時間 0：無限鳴動、1～3： 1分～3分鳴動後停止です。鳴動開始後MUTEスイッチ、ERROR ALARMボタンスイッチを操作すると鳴動が止まります。
- ※3 DHCP機能を有効するとパネル本体を再起動してください。また、DHCPサーバーが無効のネットワークの場合も DHCP 機能を無効に設定する上で固定 IP アドレスなど関連設定を設定してから再起動してください。
- ※4 同一筐体内複数枚 SMS を使用する場合 DESTx の SLOT 番号設定を注意してください。
- 同一番号に設定すると同一モジュールのステータスを監視することになります。

(2) パネル基本操作

- 1) 電源投入直後、ブロック単位でボタンLEDが赤・緑・橙色順番に全点灯し、通信が正常になると各モードに従った表示になります。
 - 2) SMS-70Hの実装筐体のIPアドレス、モジュールの実装スロット番号、コミュニティ名を合わせてパネルの設定“DEST CONFIG”を変更します。
- 注意！ 異なる筐体内の SMS-70H を制御する場合は COPY MODE を DISABLE に設定してください。
- 3) PRIMARY切り替え
`PRIMARY`ボタンを押すとPRIMARYに切り替わります。※1
 SDI OUT 1にPRIMARYが出力されていると橙色で点灯します。
 - 4) SECONDARY切り替え
`SECONDARY`ボタンを押すとSECONDARYに切り替わります。※1
 SDI OUT 1にSECONDARYが出力されていると橙色で点灯します。
 - 5) AUX切り替え
`AUX`ボタンを押すとAUXに切り替わります。※1
 SDI OUT 1にAUXが出力されていると橙色で点灯します。
 - 6) COLOR切り替え
`COLOR`ボタンを押すとCOLORに切り替わります。※1
 SDI OUT 1にCOLORが出力されていると橙色で点灯します。
 - 7) AUTO MODE切り替え
`AUTO MODE`ボタンを押すとON→OFF→ONと交互に切り替わります。
 AUTO MODEがONの時に点灯します。
 TOGGLE MODEがOFFの時は橙色、ONの時は緑色になります。
 - 8) HOLD MODE切り替え
`HOLD MODE`ボタンを押すとON→OFF→ONと交互に切り替わります。
 HOLD MODEがONの時に橙色で点灯します。

9) HOLD RESET

HOLD RESET ボタンを押すとエラーホールドを解除します。

10) PRIMARY ALARM LED

PRIMARYでエラーが発生すると赤色に点灯しブザー音を発します。

PRIMARY ボタンを押すとブザー音が停止します。

11) SECONDARY ALARM LED

SECONDARYでエラーが発生すると赤色に点灯しブザー音を発します。

SECONDARY ボタンを押すとブザー音が停止します。

12) AUX ALARM LED

AUX入力が断になると赤色に点灯しブザー音を発します。

AUX ボタンを押すとブザー音が停止します。

13) PANEL LOCK

スイッチを上スライドさせるとLEDが点灯し、パネル操作が不能になります。

下スライドさせるとLEDが消灯し、パネル操作が可能になります。

14) BUZZER MUTE

スイッチを上スライドさせるとLEDが点灯し、ブザー音が消音します。

下スライドさせるとLEDが消灯し、ブザー音を発します。

※1 AUTO MODEがONの場合は自動切り替えが優先します。

■同軸パネル通信

(3) 設定項目の選択と終了操作

- (1) **MENU** ◀ ボタンを 5秒間押すと **MENU** ◀ ボタン、**SET** ▶ ボタン が点灯します。
パネル本体の設定メニューに入り、表示器にパネル本体の初期設定画面を表示します。

- (2) **PRIMARY** ▲、**SECONDARY** ▼ を押し設定項目を選択し、**SET** スイッチを押します。



図 4-6-10 パネル本体の各種設定画

DEST CONFIG : 接続先モジュール選択、接続先IPアドレス、モジュール種類、スロット番号、コミュニティ名、コピーモードなどを設定します。

RCP CONFIG : パネル通信選択、パネル本体IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバー、PHYモード、ブザー鳴動タイプ、鳴動時間、初期化を設定します。

INFORMATION : ソフトウェア、ハードウェア・バージョン情報、MACアドレス、リンクステータスを表示します。

- (3) **PRIMARY ▲**、**SECONDARY ▼** を押し **COM SELECT** を選択し、**SET** スイッチを押します。

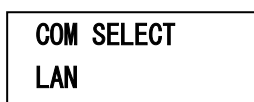


図 4-6-11 最下階層設定画面

- (4) **PRIMARY ▲**、**SECONDARY ▼** を押し設定項目を選択します。



図 4-6-12 最下階層設定画面

- (5) **SET** スイッチを押します。

選択された設定項目の一番下の設定項目で設定値が変化した時、**SET** スイッチは点灯します。
点灯中に**SET** スイッチを押すとバックアップメモリに設定値を保存します。

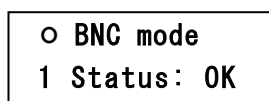


図 4-6-13 一つ上の階層の選択画面

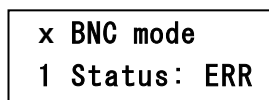
- (5) **MENU ◀** ボタンを押すと一つ上階層の設定画面に戻ります。

※設定をキャンセルする場合は、**SET** スイッチが点灯していても押さないでください。
押さなければ、一つ前の設定値に戻ります。

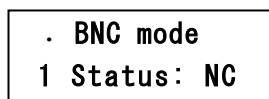
- (6) **MENU ◀** ボタンを押すとホーム画面に戻ります。



同軸通信正常



同軸通信正常（エラーがあります）



同軸通信異常（通信中か通信エラー）

図 4-6-14 同軸パネル通信選択時のホーム画面

(4) パネル基本操作

- 1) 電源投入直後、ブロック単位でボタンLEDが赤・緑・橙色順番に全点灯し同軸通信が断の時はボタンが全点灯し、通信が正常になると各モードに従った表示になります。
- 2) PRIMARY切り替え
PRIMARYボタンを押すとPRIMARYに切り替わります。※1
SDI OUT 1にPRIMARYが出力されていると橙色で点灯します。
- 3) SECONDARY切り替え
SECONDARYボタンを押すとSECONDARYに切り替わります。※1
SDI OUT 1にSECONDARYが出力されていると橙色で点灯します。
- 4) AUX切り替え
AUXボタンを押すとAUXに切り替わります。※1
SDI OUT 1にAUXが出力されていると橙色で点灯します。
- 5) COLOR切り替え
COLORボタンを押すとCOLORに切り替わります。※1
SDI OUT 1にCOLORが出力されていると橙色で点灯します。
- 6) FILE切り替え
FILEボタンを押すと内部FILEに切り替わります。SMS-70Hのみ有効です。※1
SDI OUT 1にFILEが出力されていると橙色で点灯します。
- 7) AUTO MODE切り替え
AUTO MODEボタンを押すとON→OFF→ONと交互に切り替わります。
AUTO MODEがONの時に点灯します。
TOGGLE MODEがOFFの時は橙色、ONの時は緑色になります。
- 8) HOLD MODE切り替え
HOLD MODEボタンを押すとON→OFF→ONと交互に切り替わります。
HOLD MODEがONの時に橙色で点灯します。
- 9) HOLD RESET
HOLD RESETボタンを押すとエラーホールドを解除します。
- 10) PRIMARY ALARM LED
PRIMARYでエラーが発生すると赤色に点灯しブザー音を発します。
PRIMARYボタンを押すとブザー音が停止します。
- 11) SECONDARY ALARM LED
SECONDARYでエラーが発生すると赤色に点灯しブザー音を発します。
SECONDARYボタンを押すとブザー音が停止します。
- 12) AUX ALARM LED
AUX入力が断になると赤色に点灯しブザー音を発します。
AUXボタンを押すとブザー音が停止します。
- 13) PANEL LOCK
スイッチを上スライドさせるとLEDが点灯し、パネル操作が不能になります。
下スライドさせるとLEDが消灯し、パネル操作が可能になります。
- 14) BUZZER MUTE
スイッチを上スライドさせるとLEDが点灯し、ブザー音が消音します。

下にスライドさせるとLEDが消灯し、ブザー音を発します。

※1 AUTO MODEがONの場合は自動切り替えが優先します。

(5) パネル設定モード操作

1) **AUX** ボタンを3秒以上長押しするとボタンが緑色に点滅して設定モードへ入ります。

2) ブザー音質の切り替え

PRIMARY ボタンを一度押すごとに音質が1→2→3→1と切り替わります。

3) ブザー音量の調整

SECONDARY ボタンを一度押すごとに音量が1→2→3→1と切り替わります。※2

4) 設定終了

AUX ボタンを押すと設定が終了します。

※2 RCP-01F—ALMの場合は音量調整が無効です。

7. ログのダウンロード

ログのダウンロードは Vbus 筐体の LAN から FTP で接続をして行います。

Vbus 筐体の接続方法は Vbus-70 シリーズの取扱説明書をご参照ください。

まず、ログのテキストファイルを生成します。

・**MENU**→LOG FILTER→LOG SAVE で YES(ENTER ボタン)を選択して生成を実行します。

次に生成されたログテキストファイルをダウンロードします。

以下の手順はコマンドプロンプトから FTP コマンドを使用してダウンロードする方法です。

[FTP 接続操作]

```
C:\>data>ftp xx.xx.xx.xx[Enter] (ftp クライアントソフトを起動、x は Vbus 筐体の IP アドレス)
xx.xx.xx.xx に接続しました。
220 FTP Server ready
500 Unrecognized command
ユーザー(xx.xx.xx.xx(none)):ADMIN[Enter] (ユーザー名を半角大文字で入力)
331 Password required
パスワード:VBUS[Enter] (パスワードは表示されませんが半角大文字で入力)
230 Logged in
ftp>cd x:[Enter] (x はドライブ名 d~m で、Vbus 筐体スロット 1 が d、スロット 10 が m を示す)
250 Requested file action completed
```

[ログのダウンロード操作]

```
ftp> get logtext.txt
200 Command successful
150 Opening data connection
226 Closing data connection; Requested file action successful
ftp: 25831 バイトが受信されました 0.26 秒 99.73KB/秒。(コマンドプロンプト上で示すディレクトリ
ftp>                                     へログが保存されます)
```

8. 設定ファイルのダウンロード、アップロード

メニューの設定状態を CSV ファイルでダウンロードできます。

また、アップロードによって設定の変更、他のモジュールへの設定のコピーができます。

CSV ファイルのダウンロード・アップロードは、筐体の LAN から WebServer で行います。

WebServer からのダウンロード・アップロードの場合は、Vbus-WebServer の取扱説明書をご参照ください。

※インターナルカラーと 4 分割画面に表示する文字は、こちらの CSV ファイルではダウンロード、アップロード
ができません。

これらの文字の保存と復元は、WebServer の SETTING 画面の**設定 保存**、**設定 復元**機能をご使用く
ださい。

CSV ファイルのフォーマットはテキストで、次に示すようにレコード(行)とフィールド(列)で構成されています。

・テキストエディタで開いた時の例

```
SMS-70H CONDITION Ver01.00.00 R00 SLOT No.7,,,,,
No.,MENU,ITEM,VALUE,SET,COMMENT,
1,LOG FILTER,SDI SIGNAL,OFF      ,0,0=OFF 1=ON,
2,,TRS      ,OFF      ,0,,
3,,LINE NUM ,OFF      ,0,,
4,,CRC Y    ,OFF      ,0,,
5,,CRC C    ,OFF      ,0,,
--- 以下省略 ---
```

・エクセルで開いた時の例

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	SMS-70H	CONDITION Ver01.00.00 R00 SLOT No.7							
2	No.	MENU	ITEM	VALUE	SET	COMMENT			
3	1	LOG FILTER	SDI SIGNAL	OFF	0	0=OFF 1=ON			
4	2		TRS	OFF	0				
5	3		LINE NUM	OFF	0				
6	4		CRC Y	OFF	0				
7	5		CRC C	OFF	0				
8	6		LINE LEN	OFF	0				
9	7		FIELD LEN	OFF	0				
10	8		RSV DATA	OFF	0				
11	11		ANC PARITY	OFF	0				

先頭レコードは機種名、バージョン、SLOT 番号、になります。

第 2 レコードは見出しで第 3 レコードからデータ部になります。

データ部は 6 つのフィールドで構成されます。

第 1 フィールド(A)・・・No.(項目番号です。)

第 2 フィールド(B)・・・MENU(メニュータイトルです。)

第 3 フィールド(C)・・・ITEM(項目名です。)

第 4 フィールド(D)・・・VALUE(設定状態です、デフォルトでない場合は*が付きます。)

第 5 フィールド(E)・・・SET(設定値を変更する場合のフィールドです。)

第 6 フィールド(F)・・・COMMNET(コメントフィールドです、設定の範囲などを表示します。)

設定を変更する場合は第 5 フィールドの SET を変更します。それ以外のフィールドは変更しないでください。

変更する内容はコメントフィールドを参照してください。

設定範囲を外れていたり、入力ミスがありますと正しく設定されない場合があります。

変更したくない場合は SET フィールドを空欄にしてください。

変更した CSV ファイルをアップロードすると、すぐにインポートされ設定は反映しますが、動作が対応しない場合もあります。その場合はモジュールの電源リセットを行ってください。

CSV ファイルのアップロードは運用中には行わないでください。

9. MEMORY FILE 機能

MEMORY FILE 機能は内蔵フラッシュメモリーに保存された静止画像と音声ファイルを SDI OUT へ出力する機能です。

内蔵フラッシュメモリーの各ファイルのアップロードは、Vbus-WebServer を使用する方法と、Vbus 筐体の LAN から FTP 接続をして行う方法があります。

Vbus-WebServer を使用する場合は、Vbus-Webserver の取扱説明書をご参照ください。

注意事項

- ・アップロード機能の動作中は TRAP の発生や SNMP 接続の停止が生じる為、監視機能は使えなくなります。
- ・アップロードするファイル複数ある場合は 1 つずつ確認を含めて行ってください。確認をせず連続で転送をすると失敗する場合があります。
- ・**MENU**→MEMORY FILE→IMAGE SELECT の設定は、SDI OUT1、OUT2、OUT3(PV)共通です。
SDI OUT1 で IMAGE1 出力をしながら SDI OUT3(PV)で IMAGE2 を出力することはできません。

(1) 静止画ファイルのフォーマット

静止画像は IMAGE1～IMAGE4 として 4 枚保存できます。

ファイル形式	TARGA ファイル
画像サイズ	1920x1080 ※サイズが満たない場合、余白は黒になります また、サイズを超えたファイルは使用できません
精度	R/G/B 各 8bit の 24bit ※アルファチャンネル付き 32bit でも可能です
圧縮フォーマット	非圧縮、圧縮に対応
ファイル名	IMAGE1 : image1.tga IMAGE2 : image2.tga IMAGE3 : image3.tga IMAGE4 : image4.tga ※大文字小文字の識別はありません
ファイルサイズ	最大 10M バイト ※10M バイト以上のファイルは使用できません。

(2) 音声ファイルのフォーマット

音声ファイルは AUDIO1～AUDIO4 として 4 枚保存できます。

ファイル形式	WAV ファイル
量子化 bit 数	16bit
チャンネル数	2 チャンネル
サンプリング周波数	48KHz
ファイル名	AUDIO1 : audio1.wav AUDIO2 : audio2.wav AUDIO3 : audio3.wav AUDIO4 : audio4.wav ※大文字小文字の識別はありません
再生時間	ファイルサイズ最大 10M バイト(およそ 52 秒) ※10M バイト以上のファイルは使用できません。

(3) ファイルの取り込み

1) ファイルのアップロード操作

各ファイルのアップロードは、Vbus-WebServer を使用する方法と、Vbus 筐体の LAN から FTP 接続をして行う方法があります。

Vbus-WebServer を使用する場合は、Vbus-Webserver の取扱説明書をご参照ください。

以下は FTP 接続を使用する方法の説明です。

Vbus 筐体の接続方法は Vbus-70 シリーズの取扱説明書をご参照ください。

ファイルのアップロードは 1 つずつ行います。

アップロード操作中に LAN の接続が切れた場合はアップロード操作を始めから行ってください。

以下にコマンドプロンプトから FTP コマンドを使用してアップロードする手順を示します。

① コマンドプロンプトを開きます。

② コマンドプロンプト上でアップロードするファイルがあるフォルダーに移動します。

例) 以下は[data]というフォルダーの例です。

C:¥cd data[Enter] (以降、入力は太字で示します)

③ ftp コマンドを使用してアップロードを行います。

(例) 以下は[image1.tga]をアップロードする例です。

[FTP 接続操作]を行った後に[ファイルのアップロード操作]に必要なファイルの分について行います。

[FTP 接続操作]

C:¥>data>ftp xx.xx.xx.xx[Enter] (ftp クライアントソフトを起動、x は Vbus 筐体の IP アドレス)
xx.xx.xx.xx に接続しました。

220 FTP Server ready

500 Unrecognized command

ユーザー(xx.xx.xx.xx(none)):ADMIN[Enter] (ユーザー名を半角大文字で入力)

331 Password required

パスワード:VBUS[Enter] (パスワードは表示されませんが半角大文字で入力)

230 Logged in

ftp>cd x:[Enter] (x はドライブ名 d~m で、Vbus 筐体スロット 1 が d、スロット 10 が m を示す)

250 Requested file action completed

[ファイルのアップロード操作]

ftp> put image1.tga

200 Command successful

150 Opening data connection (最長で 2 分待ちます)

226 Closing data connection; Requested file action successful

ftp: 6220818 バイトが送信されました 58.62 秒 106.12KB/秒。

ftp>

※コマンドプロンプトで「接続がリモート ホストによって閉じられました。」というメッセージが出た時は、
“bye”と入力して再度[FTP 接続操作]を行ってください。

2) ファイルの展開動作と確認

ファイルのアップロードが終了すると本体正面の表示器に「Loading.」と表示され、ファイルの展開動作が始まります。

本体正面の表示器の「Loading.」の表示が消えた後、以下の手順でファイル映像もしくは音声出力を SDI OUT3(PV)で確認します。

- ① **MENU**→CONFIG→PREVIEW→PREVIEW MODE→FILE を選択してください。
- ② **MENU**→MEMORY FILE→IMAGE SELECT で確認をする IMAGE を選択します。音声ファイルを確認する場合で、静止画ファイルとの関連付けが決められていない時は IMAGE1 を選択してください。
- ③ 音声ファイルがある場合は **MENU**→MEMORY FILE→IMAGE1 CONTROL→AUDIO SEL で確認をする AUDIO を選択します。
- ④ 静止画は既に SDI OUT3(PV)へ出力されていますが、音声ファイルを初めから再生したい時は、**MENU**→MEMORY FILE→IMAGE SELECT で IMAGE を選択し直すことによって初めから再生できます。
- ⑤ SDI OUT3(PV)にて正しく映像もしくは音声が出力されればファイルのアップロードが完了です。
正しく映像もしくは音声が出力されない場合は、(3)アップロードの③を再度行ってください。
- ⑥ アップロードするファイルがまだある場合は、(3)アップロードの③を行ってください。
無い場合は次の⑦を行ってください。
- ⑦ アップロード操作を終了します。

(コマンドプロンプト入力の続き)

ftp>bye[Enter](ftp を終了してコマンドプロンプトに戻ります)

C:\>data>exit[Enter](コマンドプロンプトを終了します)

(4) ファイル機能に関する所要時間

ファイル機能のご使用にあたりその準備に下記の表に示す時間がかかります。

ファイルが複数ある時はそのファイルの数分の時間がかかり、いずれも映像フォーマットや映像入出力の状態で変わってきます。

ファイルの種類	ファイル取り込み操作 (1 ファイルあたり)	ファイル出力準備(1 ファイルあたり)	
		起動時	映像フォーマット変更時
静止画像 (1920×1080 ピクセル)	約 4 分～5 分	約 40 秒～60 秒	約 2 秒
音声ファイル (10M バイト)	約 6 分～7 分	約 30 秒～40 秒	変換時間なし

5. エラー検出について

1. SDI SIGNAL

SDI信号なし

SDI信号未検出および映像フォーマットが一致しない場合、エラーにします。

2. TRS

映像タイミング基準コードエラー

映像タイミング基準コード(TRS)のH,V,FとP3~0の関係が一致しない場合、エラーにします。

映像タイミング基準コード										
ワード番号	ビット番号									
	9 (MSB)	8	7	6	5	4	3	2	1	0 (LSB)
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	1	F	V	H	P3	P2	P1	P0	0	0

F=0 : 第1フィールドの期間 V=0 : デジタルアクティブフィールドの期間
 1 : 第2フィールドの期間 1 : デジタルフィールドブランキングの期間
 H=0 : SAV P3~0 : プロテクションビット
 1 : EAV

図5-1 TRSコード

3. LINE NUMBER

ラインナンバーエラー

映像タイミング基準コード(TRS)のFから数えたライン番号とライン番号データが一致しない場合、エラーにします。

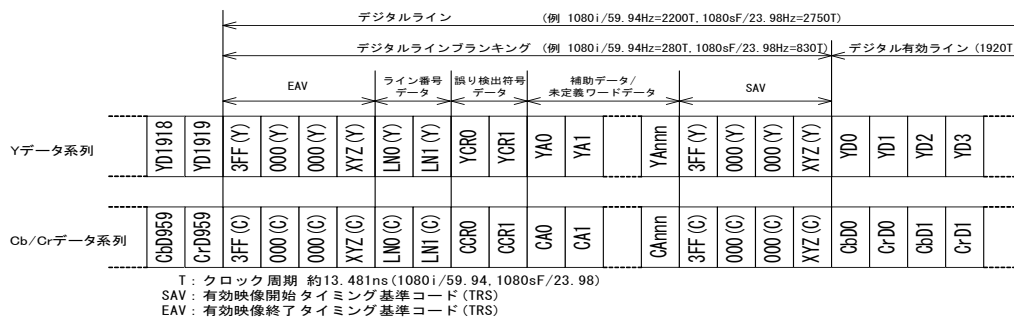


図5-2 データストリームの構造

4. CRC Y

Yデータ系列CRCエラー

Yデータ系列、前ラインのワード(YD0)からライン番号データの最後のワード(LN1)までの誤り検出符号の計算値と誤り検出符号データ(YCR0、YCR1)が一致しない場合、エラーにします。

5. CRC C

Cb,Crデータ系列CRCエラー

Cb/Crデータ系列、前ラインのワード(CbD0)からライン番号データの最後のワード(LN1)までの誤り検出符号の計算値と誤り検出符号データ(CCR0、CCR1)が一致しない場合、エラーにします。

6. LINE LENGTH

1ラインの長さエラー

SAVと次のSAV、SAVとEAVのサンプル数に異常がある場合、エラーにします。

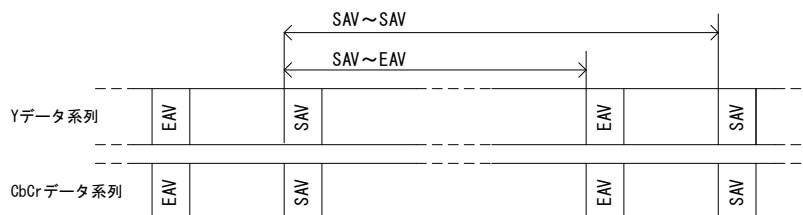


図5-3 SAVとEAVの位置

7. FIELD LENGTH

1フィールドの長さエラー

フィールド、デジタルフィールドブランキングのライン数に異常がある場合、エラーにします。

8. RESERVED DATA

リザーブドデータエラー

SAV、EAV、ADF以外に”000h～003h”、“3FCh～3FFh”のデータがある場合、エラーにします。

9. ANC PARITY

補助データパケットのパリティエラー

補助データパケットのDIDワード、DBN/SDIDワード、DCワードのパリティが一致しない場合、エラーにします。

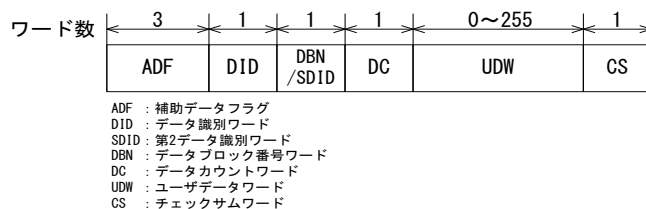


図5-4 音声データパケットの構造

10. ANC CHECKSUM

補助データパケットのチェックサムエラー

補助データパケットのDIDワードからUDWワードまでの総和の下位9ビットとCSワードが一致しない場合、エラーにします。

11. BCH

エンベデッド・オーディオのエラー

音声データパケットのADFワードから音声データCH4までの誤り訂正の生成値と誤り訂正データ(ECC0~5)が一致しない場合、エラーにします。

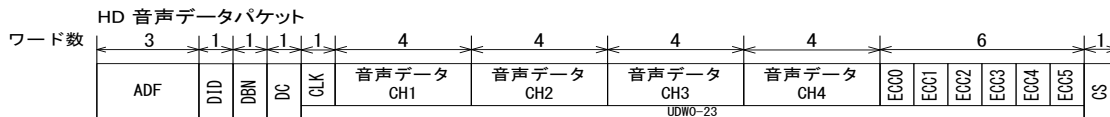


図5-5 誤り訂正データ(ECC0~5)

12. AUDIO PACKET

エンベデッド・オーディオ・パケットのデータブロック番号インクリメントエラー

音声データパケットのデータブロック番号ワード(DBN)がパケットごとに1ずつ増加し、1から255までの値の繰り返しに異常がある場合、エラーにします。

13. NO AUDIO PACKET

エンベデッド・オーディオなし

音声データパケットがない時や、音声クロック位相情報に異常がある場合にエラーにします。
音声データパケットのグループが一つでも検知されるとエラーにしません。

14. MUTE

無音検出

音声レベルのピーク値が閾値(LEVEL設定:-60~-80dBFS)以下で一定時間(DETECT TIME設定:0~999秒の範囲)継続後、エラーにします。(1~8CH対応)

15. BLACK

黒味検出

この検出はマスク(MASK)で検出範囲を調整できます。(画面の約97.5%以内の範囲で)

輝度レベルのピーク値が閾値(LEVEL設定:0~99IRE)以下で一定時間(TIME設定:0~999秒の範囲)継続後、エラーにします。

※画面の約97.5%を検出領域としています。

※通常時のコンテンツに含まれる黒系映像と障害時の黒味映像を識別するために、単独で使用せず**必ず** FREEZE/STILL/MUTEなどを併用してください。

16. FREEZE

フリーズ検出

この検出はマスク(MASK)で検出範囲を調整できます。(画面の約97.5%以内の範囲で)

映像のラインごとにCRCを演算した1フィールドが1フレーム前の値と一致した状態が一定時間(DETECT TIME設定:0~999秒の範囲)継続後、エラーにします。

※画面の約97.5%を検出領域としています。

※フレーム間で圧縮した映像やノイズある映像は目視で静止していても、映像データが1ビットでも異なると動画と判定しフリーズ検出できません。その場合、19.STILL スチル検出を使用してください。

※映画等の3-2プルダウン変換の処理をした映像は静止していなくてもダブリのフィールドでフリーズを検出しますので、DETECT TIMEの設定を最低2フレーム以上にしてください。

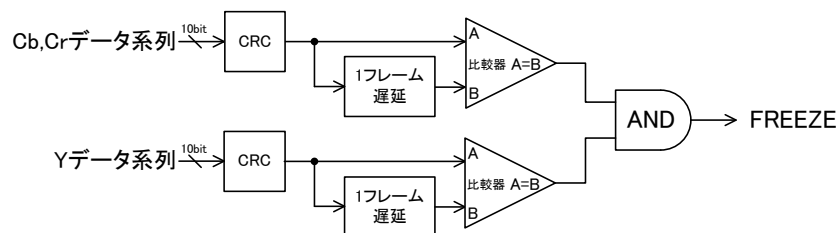


図5-6 フリーズの検出

17. BLUE

青色検出

色相が青色を基準に約-32~+25度、サンプル点が画面の約90%を占めた状態が一定時間(DETECT TIME設定:0~999秒の範囲)継続後、エラーにします。

※画面全体(輝度のみのサンプル点を除く)を検出領域としています。

※輝度が0IRE以下の場合や彩度が約35%以下の場合には検出しません。

※通常時のコンテンツに含まれる青系映像と障害時の青色映像を識別するために、単独で使用せず**必ず** FREEZE/STILL/MUTEなどを併用してください。

18. COMPARE

映像比較

PRIMARYとSECONDARYの画面全体で1サンプル点でも不一致があれば1フレーム+一定時間(DETECT TIME設定:0~19800フレームの範囲)継続後、エラーにします。

※画面全体(HD:1920×1080)を検出領域としています。

19. STILL

スチル検出

この検出はマスク(MASK)で検出範囲を調整できます。(画面の約97.5%以内の範囲で)

現在の映像と1フレーム遅延した映像との差分を取り、差分がPIX COMPARE未満の画素をPIX HITで設定した個数以上の状態が一定時間(DETECT TIME設定:0~999秒の範囲)継続後、エラーにします。

※画面の約 97.5%を検出領域としています。

※映像が多少変化してもスチルと検出しますのでディゾルブなど 1 フレーム間で差分の変化が少ない映像は設定値によりエラーになることがあります。

※映像データが完全に静止した映像を検出するには**16.FREEZE フリーズ検出**を使用してください。

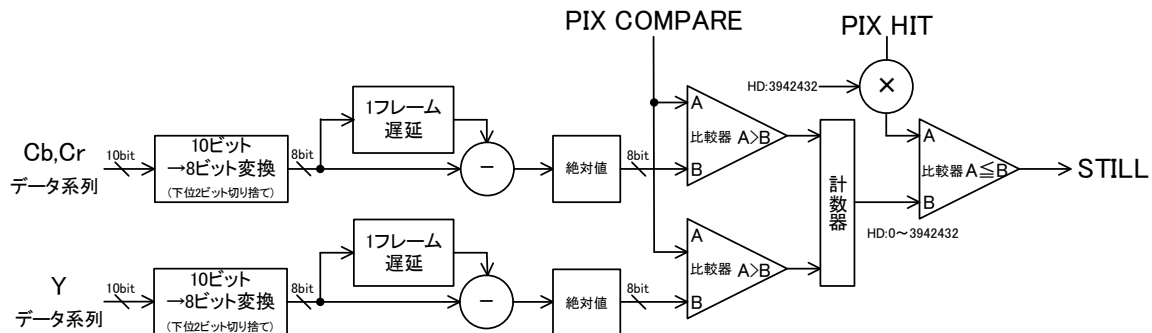


図5-7 スチルの検出

・検出動作の例

以下の 2 枚のサンプル映像を使い、STILL の検出アルゴリズムを解説いたします。

2 枚の画像を比較すると飛行機の部分が違ってきます。通常で考えればこの映像は変化しているので動画になりますが、STILL は映像が変化しても静止画として検出する機能です。

・静止画素判定：実際の差分<条件の差分

(動画：実際の差分>条件の差分)

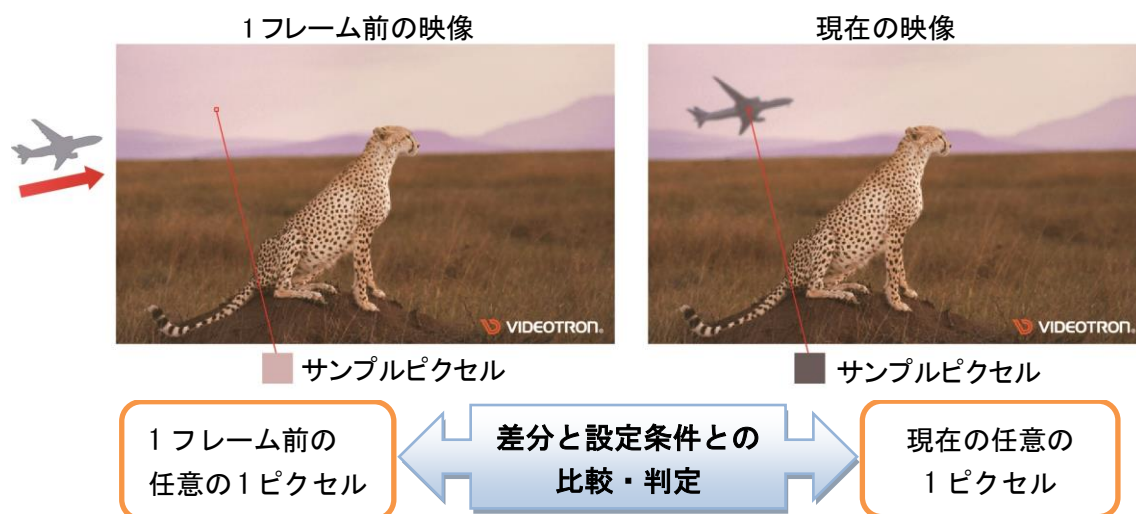


図 5-8 静止画素判定のイメージ

(1)1 ピクセルの比較条件の設定

まず【PIX COMPARE (PIX1～PIX10)】または、【PIX COMP VARI (1～100)】にて比較する任意の 1 ピクセル(1 画素)について条件を設定します。【1 フレーム前の任意の 1 ピクセル】と【現在の任意の 1 ピクセル】の実際の差分と設定した条件の差分を比較し実際の差分が設定条件を超えない時、任意のピクセルを静止画として判定します。

実際の差分が設定条件を超えた時、動画と判断し静止画判定されません。

例として映像にあるサンプルピクセルの差分が仮に 20%だったとすると、PIX COMPARE を

PIX5(または PIX VARI 50) 以下に設定すると動画と判断し静止画判定されません。

PIX6(または PIX VARI 60) 以上に設定しますと変化していても静止画と判定します。

【PIX COMP VARI 1】:前後のピクセルの違い(差分)が 0.39%未満(超えない)の時そのピクセルを静止画と判定します。PIX1～10 と VARI の関係は以下の表の通りです。

表 5-1 PIX COMPARE と PIX COMP VARI の対照表

PIX COMPARE(PIX)	PIX COMP VARI	差分(%)
PIX1	10	3.91%
PIX2	20	7.81%
PIX3	30	11.72%
PIX4	40	15.63%
PIX5	50	19.53%
PIX6	60	23.44%
PIX7	70	27.34%
PIX8	80	31.25%
PIX9	90	35.16%
PIX10	100	39.06%

(2)全体のピクセルの比較条件の設定

次に【PIX HIT (70～100%)】にて面全体のピクセル数に対して静止画判定したピクセル数がどの程度あるかで静止画と判定する割合を決定します。

上記サンプル映像の【1 フレーム前の全ピクセル】と【現在の全ピクセル】を比較します。

静止画と判定したピクセル数が設定値の割合を上回った場合 STILL と検知します。70～100%の値で設定します。

- ・ 静止画面判定：静止画面と判定したピクセル数＞設定値の割合
（動画：静止画と判定したピクセル数＜設定値の割合）

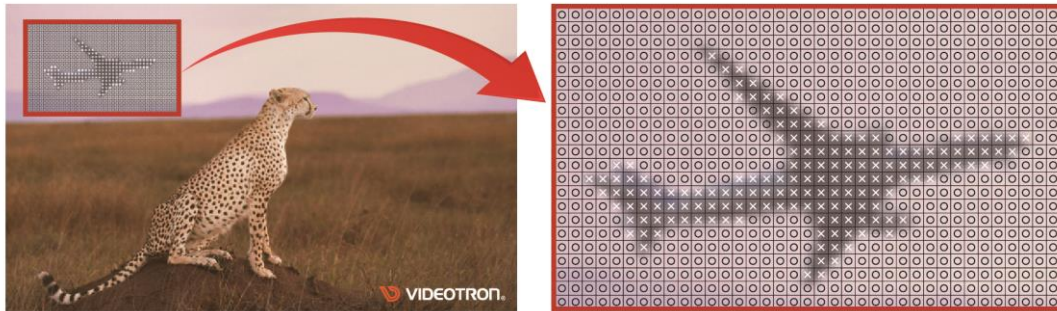


図 5-9 静止画面判定のイメージ

静止画と判定したピクセルを”○”、静止画として判定されなかったピクセルを”×”とします。

仮に”×”の数が全体の 10%だったとすると”○”の数は 90%になります。

PIX HIT の値を 90%以下に設定するとこの映像を静止画として検出します。

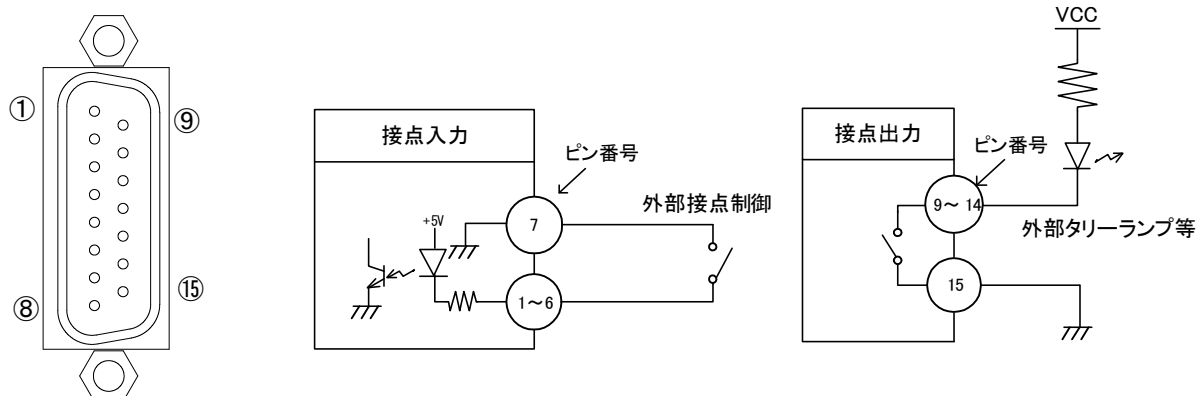
91%以上に設定すると静止画として検出されません。

以上より、【PIX COMPARE (PIX1～PIX10)】または、【PIX COMP VARI (1～100)】の設定値を大きくすると条件の範囲が広がるので静止画判定をしやすくなります。

また、【PIX HIT (70～100%)】は設定値を小さくすることで条件緩和されるので、静止画判定をしやすくなります。

6. 外部インターフェース

1. GPI/PANEL 端子



Dsub-15pin(f)

※薄型の Dsub コネクタのケースをご使用ください。

※推奨 Dsub コネクタケースは、第一電子工業社製: 17JE-15H-1C-CF です。

※推奨 Dsub コネクタは、ヒロセ電機製: HDAB-15PF(05)です。

※Dsub コネクタの嵌合ネジはインチタイプです。

※接点出力の絶対最大定格は 60V/300mA です。外部抵抗で電流を 300mA 以下に制限してください。

※TTL 信号で接点制御する場合は、吸い込み電流が 12mA 以上のデバイスで駆動してください。

ピン番号	I/O	信号	名称	備考
1	I	接点入力	IN 1	フリーアサイン
2	I	接点入力	IN 2	フリーアサイン
3	I	接点入力	IN 3	フリーアサイン
4	I	接点入力	IN 4	フリーアサイン
5	I	接点入力	IN 5	フリーアサイン
6	I	接点入力	IN 6	フリーアサイン
7	-	GND	GND	接点入力及び 双方向通信用グラウンド
8	O	双方向通信	PANEL	PANEL
9	O	接点出力	OUT 1	フリーアサイン
10	O	接点出力	OUT 2	フリーアサイン
11	O	接点出力	OUT 3	フリーアサイン
12	O	接点出力	OUT 4	フリーアサイン
13	O	接点出力	OUT 5	フリーアサイン
14	O	接点出力	OUT 6	フリーアサイン
15	-	COM	CO M	接点出力用コモン

※AUTO MODE ON でエラーが発生している場合は自動切り替えを優先します。

7. SNMP

Vbus筐体からSNMPでステータス監視を行う時、SMS-70HのMIBデータは、以下の表に対応します。

オブジェクト識別子は、【1. 3. 6. 1. 4. 1. 20120. 20. 1. [機種コード]. 1. 1. [項番]. [Index]】になります。

(旧識別子は、【1. 3. 6. 1. 4. 1. 20120. [Index] . [項番]. 0】となります)

例: 機種: SMS-70H、項番: 3、スロット: 1番の場合は【1. 3. 6. 1. 4. 1. 20120. 20. 1. 328. 1. 1. 3. 1】となります。

- [機種コード] ...機種毎に番号が割り当てられています。(SMS-70Hは328となります。)
- [項番] ...下記表の項番が入ります。(項番=OID:2バイト)
- [index] ...スロット番号が入ります。(10スロットタイプの筐体は1～10が入ります。)

MIBデータが変化した時は【TRAP】が発生します。(SNMPまたはWebserverで更新された項番は【TRAP】が発生しません。)※SNMPおよびSNMP TRAPの詳細はVbus筐体の取扱説明書を参照してください。

表の内容

- アクセス ...R/O=ReadOnly、R/W=Read/Writeを表します。
- TRAP ...MIBデータが変化してトラップが発生する物を[○]で表します。

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1	sms70hPid	R/O	80	プログラム情報	char PID[5][16]の内容 製品コード SMS-70H 会社名 VIDEOTRON Corp バージョン 01.00.00 R00 製造日時 2025/01/01 WED Build-00:00:00	STRING	
3	sms70hKcode	R/O	4	機種コード	328	INTEGER	
10	sms70hfanstop	R/O	4	FAN の状態 (dipsw2 が ON の時に有効です。) 0=正常 1=停止また回転数低下	正常 0	INTEGER	○
12	sms70hrefinput	R/O	4	リファレンス入力とロックの状態 Bit0: 1=LINE DIRECT Bit1: 1=EXT SUB Bit2: 1=外部入力あり Bit3: 1=内部入力あり Bit4: 1=ロック OK	LINE DIRECT 25	INTEGER	○
14	sms70hinputvideo	R/O	2	SDI 入力の状態 Bit0: 1=PRIMARY 入力あり Bit1: 1=SECONDARY 入力あり Bit2: 1=AUX 入力あり	PRIMARY と SECONDARY に入 力あり 3	INTEGER	○
21	sms70hErrorStatus	R/O	4	エラーステータス 0=エラーなし 1=DIPSW8 戻し忘れ警告	エラーなし 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
40	sms70hHardDipsw	R/O	4	ハードバージョン、ディップスイッチなどの情報 Bit0～15:バージョン(末尾2文字) Bit16～23: DIP SW1～8 Bit24～31: 予約		INTEGER	○
1000	sms70hVformat	R/W	4	映像フォーマット 0=1080i59 1=1080sF23 2=未使用 3=1080p59 4=1080p29 5=1080p23 6=1080sF29	1080i/59 0	INTEGER	○
1001	sms70hrefsel	R/W	4	リファレンス選択 1=EXT SUB 2=LINE DIRECT	EXT SUB 1	INTEGER	○
1002	sms70hgenHposi	R/W	4	ゲンロックポジション H -2749～2749	0	INTEGER	○
1003	sms70hgenVposi	R/W	4	ゲンロックポジション V -1124～1124	0	INTEGER	○
1004	sms70hErrorDetect 1	R/W	4	PRESET の設定(PRESET1～9 の切り替えは 1006 で行う)ビット対応、2bit で設定 0,0=OFF0,1=OR1,0=AND 検出 Bit1,0=SDI SIGNALBit3,2=TRSBBit5,4=LINE NUMBERBit7,6=CRC YBit9,8=CRC CBit11,10=LINE LENGTHBit13,12=FIELD LENGTHBit15,14=RESERVED DATABit17,16=未使用 Bit19,18= 未使用 Bit21,20=ANC PARTYBit23,22=ANC CHECKSUMBit25,24=BCHBit27,2 6=AUDIO PACKETBit29,28=NO AUDIOBit31,30=MUTE	SDI SIGNAL OR1	INTEGER	○
1005	sms70hErrorDetect 2	R/W	4	PRESET エラー検出の設定 (PRESET1～9 の切り替えは 1006 で行う) ビット対応、2bit で設定 0,0=OFF 0,1=ON 1,0=AND 検出 Bit1,0=BLACK Bit3,2=FREEZE Bit5,4=BLUE Bit7,6=COMPARE Bit9,8=STILL	BLACK OR 1	INTEGER	○
1006	sms70hPageSelect	R/W	4	1004、1005 のプリセットページ切り 替え 0～8=preset1～9	preset1 0	INTEGER	○
1007	sms70hpPresetSele ct	R/W	4	PRIMARY エラー検出プリセットの 選択 Bit0～7: PRIMARY1 Bit8～15: PRIMARY2 Bit16～23: PRIMARY3 0=OFF 1～9=プリセット選択	PRIMARY1=プリセット 1 PRIMARY2=OFF PRIMARY3=OFF 1	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1008	sms70hsPresetSelect	R/W	4	SECONDARY エラー検出プリセットの選択 Bit0～7: SECONDARY1 Bit8～15: SECONDARY 2 Bit16～23: SECONDARY 3 0=OFF 1～9=プリセット選択	SECONDARY1=プリセット 1 SECONDARY2=OFF SECONDARY3=OFF 1	INTEGER	○
1009	sms70hlogfilter	R/W	4	ERROR LOG 表示のフィルター設定と LOG のテキスト保存ビット対応 0=表示 1=非表示-1 を書き込むと LOG をテキストファイル logtext.txt に保存します。(フィルター設定には影響しません。)Bit0=SDI SIGNALBit1=TRSBBit2=LINE NUMBERBit3=CRC YBit4=CRC CBit5=LINE LENGTHBit6=FIELD LENGTHBit7=RESERVED DATABit8=未使用 Bit9=未使用 Bit10=ANC PARTYBit11=ANC CHECKSUMBit12=BCHBit13=AUDIO PACKETBit14=NO AUDIOBit15=MUTEBit16=BLACK Bit17=FREEZEBit18=BLUEBit19=COMPAREBit20=STILL	全て表示 0	INTEGER	○
1010	sms70hGpiHoldMode	R/W	4	GPI エラー出力保持の設定 0=OFF(保持しない) 1=ON(保持する)	保持しない 0	INTEGER	○
1011	sms70hGpiHoldReset	R/W	4	GPI エラー出力保持の解除 1=エラー解除	常に 0	INTEGER	
1012	sms70hAutoMode	R/W	4	自動切り替えの設定 Bit0～7: 0=自動切り替えなし 1=自動切り替えあり Bit8～15: PRI 切り替え条件 Bit16～23: SEC 切り替え条件 Bit24～31: AUX 切り替え条件 0=ERROR123 1=ERROR1 2=ERROR2 3=ERROR3 4=ERROR12 5=ERROR23 6=ERROR13	自動切り替えあり、切り替え条件 ERROR123 1	INTEGER	○
1013	sms70hReturnTime	R/W	4	エラー解除後の自動復帰時間の設定 0～3600=時間(秒)-1=自動復帰なし	復帰時間 0 秒 0	INTEGER	○
1014	sms70hDate	R/W	4	システム時計、日付 Bit0～7=日 Bit8～15=月 Bit16～31=年 ※リアルタイムには更新しません、更新させるには-1 を設定してください。	2025 年 1 月 1 日 132710657	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1015	sms70hTime	R/W	4	システム時計、時間 Bit0～7=秒 Bit8～15=分 Bit16～23=時 ※リアルタイムには更新しません、更新させるには-1を設定してください。	1時1分1秒 65793	INTEGER	○
1016	sms70hPrevMode	R/W	4	プレビューモードの設定 0=OFF 1=NEXT 2=SPLIT1 3=SPLIT2 4=AUX 5=FILE 6=4 SCREENS	OFF 0	INTEGER	○
1017	sms70hDoubleErr	R/W	4	PRIMARY,SECONDARY 共にエラーの場合の切り替え設定 0=OFF 1=PRIMARY 2=SECONDARY 3=AUX 4=COLOR 5=FILE 6=CUT OUT	AUX 3	INTEGER	○
1018	sms70hOutPut	R/W	4	SDI OUT1 の出力設定 (AUTO MODE が ON の場合は自動切り替えが優先します。) 0=PRIMARY 1=SECONDARY 2=AUX 3=COLOR 4=FILE 5=CUT OUT(SET はできません)	PRIMARY 0	INTEGER	○
1019	sms70hMtBkDetLv	R/W	4	MUTE、BLACK の検出レベル設定 Bit0～15:MUTE レベル 0～20=-80～-60dBFS Bit16～31:BLACK レベル 0～99(IRE)	MUTE レベル-80dBFS、 BLACK レベル 0IRE 0	INTEGER	○
1020	sms70hMtDetTm	R/W	4	MUTE エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0～15:PRIMARYBit16～31:SECONDARY1～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1021	sms70hMtDetCh	R/W	4	MUTE エラー検出チャンネルの設定 Bit0~7:PRIMARY CH Bit0:CH1 0=OFF,1=ON Bit1:CH2 0=OFF,1=ON Bit2:CH3 0=OFF,1=ON Bit3:CH4 0=OFF,1=ON Bit4:CH5 0=OFF,1=ON Bit5:CH6 0=OFF,1=ON Bit6:CH7 0=OFF,1=ON Bit7:CH8 0=OFF,1=ON Bit8~15:PRIMARY CH MODE 0=AND,1=OR Bit16~23:SECONDARY CH Bit16:CH1 0=OFF,1=ON Bit17:CH2 0=OFF,1=ON Bit18:CH3 0=OFF,1=ON Bit19:CH4 0=OFF,1=ON Bit20:CH5 0=OFF,1=ON Bit21:CH6 0=OFF,1=ON Bit22:CH7 0=OFF,1=ON Bit23:CH8 0=OFF,1=ON Bit24~31:SECONDARY CH MODE 0=AND,1=OR	PRIMARY、SECONDARY CH1 ~8=ON、AND モード 16711935	INTEGER	○
1022	sms70hCompareTime	R/W	4	COMPARE エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0~15:PRIMARY Bit16~31:SECONDARY 0~19800(frame)	PRIMARY、SECONDARY 150frame 9830550	INTEGER	○
1023	sms70hBkDetTm	R/W	4	BLACK エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0~15:PRIMARY Bit16~31:SECONDARY 0~999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1024	sms70hFreezeTime	R/W	4	FREEZE エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0~15:PRIMARY Bit16~31:SECONDARY 0~999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1025	sms70hBlueTime	R/W	4	BLUE エラーの検出時間 TIME1 の 設定 Bit0~15:PRIMARY Bit16~31:SECONDARY 0~999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1026	sms70hError1Code	R/O	4	PRIMARY、SECONDARY エラー1の種類 Bit0～15: PRIMARY ERROR1 Bit16～31: SECONDARY ERROR1 0=エラーなし 1=SDI SIGNAL2=TRS3=LINE NUMBER4=CRC Y5=CRC C6=LINE LENGTH7=FIELD LENGTH8=RESERVED DATA9=未使用 10=未使用 11=ANC PARTY12=ANC CHECKSUM13=BCH14=AUDIO PACKET15=NO AUDIO16=MUTE17=BLACK18=FREEZE19=BLUE20=COMPARE21=STILL	エラーなし 0	INTEGER	○
1027	sms70hError2Code	R/O	4	PRIMARY、SECONDARY エラー2の種類 Bit0～15: PRIMARY ERROR2 Bit16～31: SECONDARY ERROR2 0=エラーなし 1～21=エラーコード(1026 と同様)	エラーなし 0	INTEGER	○
1028	sms70hError3Code	R/O	4	PRIMARY、SECONDARY エラー3の種類 Bit0～15: PRIMARY ERROR3 Bit16～31: SECONDARY ERROR3 0=エラーなし 1～21=エラーコード(1026 と同様)	エラーなし 0	INTEGER	○
1029	sms70hPrimErrDump	R/W	4	PRIMARY エラーの状態ビット対応、ERROR DETECT OFF/OR/AND の設定に関係なく検出、MUTE～STILL までの項目は 1 秒以上で検出 Bit0=SDI SIGNAL Bit1=TRS Bit2=LINE NUMBER Bit3=CRC Y Bit4=CRC C Bit5=LINE LENGTH Bit6=FIELD LENGTH Bit7=RESERVED DATA Bit8=NO EDH Bit9=EDH Bit10=ANC PARTY Bit11=ANC CHECKSUM Bit12=BCH Bit13=AUDIO PACKET Bit14=NO AUDIO Bit15=MUTE Bit16=BLACK Bit17=FREEZE Bit18=BLUE Bit19=COMPARE Bit20=STILL	エラーなし 0	INTEGER	○
1030	sms70hSecErrDump	R/W	4	SECONDARY エラーの状態ビット対応、ERROR DETECT OFF/OR/AND の設定に関係なく検出、MUTE～STILL までの項目は 1 秒以上で検出 Bit0～20(1029 と同様)	エラーなし 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1031	sms70hGPIfreAsin1	R/W	4	GPI IN フリーアサインの設定 Bit0～7:IN1 の設定 Bit8～15:IN2 の設定 Bit16～23:IN3 の設定 Bit24～31:IN4 の設定 設定 0=OFF 1=PRIMARY 2=SECONDARY 3=AUX 4=COLOR 5=HOLD RESET 6=P/S SELECT 7=M/A SELECT 8=MASK ON/OFF 9=FILE	IN1～IN4 OFF 0	INTEGER	○
1032	sms70hGPIfreAsin2	R/W	4	GPI OUT フリーアサインの設定 Bit0～7:OUT1 の設定 Bit8～15:OUT2 の設定 Bit16～23:OUT3 の設定 Bit24～31:OUT4 の設定 設定 0=OFF1=PRIMARY2=SECONDARY3=AUX4=COLOR27=FILE28=CUT OUT5=PRI ERROR1236=PRI ERROR17=PRI ERROR28=PRI ERROR39=PRI ERROR1210=PRI ERROR2311=PRI ERROR1312=SEC ERROR12313=SEC ERROR114=SEC ERROR215=SEC ERROR316=SEC ERROR1217=SEC ERROR2318=SEC ERROR1320=AUX ERROR12321=AUX ERROR122=AUX ERROR223=AUX ERROR324=AUX ERROR1225=AUX ERROR2326=AUX ERROR1319=P/S ERROR ALL	OUT1～OUT4 OFF0	INTEGER	○
1033	sms70hAlarmMode	R/W	4	GPIOUT、パネルアラームのモード Bit0～15:PRIMARY アラームの設定 Bit16～23:SECONDARY アラームの設定 Bit24～31:AUX アラームの設定 0=ERROR123 1=ERROR1 2=ERROR2 3=ERROR3 4=ERROR12 5=ERROR23 6=ERROR13	PRIMARY、SECONDARY、AUX ERROR123 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1034	sms70hPnlColMode	R/W	4	パネル、カラーモード Bit0～7: パネルブザーボリューム 0～2Bit8～15: パネルブザータイプ 0～2Bit16～23: パネルブザータイム 0～3(分)Bit24～31: インターナルカラーモード 0=FULL CB1=BLUE2=RED3=BLACK4=MULTI CB	パネルブザーボリューム 1 パネルブザータイプ 1 パネルブザータイム 0 インターナルカラーモード FULL CB0	INTEGER	○
1035	sms70hMtDetTm2	R/W	4	MUTE エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 1～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1036	sms70hMtDetTm3	R/W	4	MUTE エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1037	sms70hBkDetTm2	R/W	4	BLACK エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～19800(フレーム)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1038	sms70hBkDetTm3	R/W	4	BLACK エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1039	sms70hFreezeTime2	R/W	4	FREEZE エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1040	sms70hFreezeTime3	R/W	4	FREEZE エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1041	sms70hBlueTime2	R/W	4	BLUE エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1042	sms70hBlueTime3	R/W	4	BLUE エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: PRIMARYBit16～31: SECONDARY0～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1043	sms70hCompareTim2	R/W	4	COMPARE エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1044	sms70hCompareTim3	R/W	4	COMPARE エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999(秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1045	sms70hStillTime1	R/W	4	STILL エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999 (秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1046	sms70hStillTime2	R/W	4	STILL エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999 (秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1047	sms70hStillTime3	R/W	4	STILL エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 0～999 (秒)	PRIMARY、SECONDARY5 秒 327685	INTEGER	○
1048	sms70hStillComp	R/W	4	STILL エラー検出の COMPARE 設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 1～10=PIX1～PIX10 11=VARI	PRIMARY、SECONDARY PIX1 65537	INTEGER	○
1049	sms70hStillVari	R/W	4	STILL エラー検出の COMPARE VARI 設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 1～100	PRIMARY、SECONDARY VARI=1 65537	INTEGER	○
1050	sms70hStillHit	R/W	4	STILL エラー検出の PIXEL HIT 設定 Bit0～15: PRIMARY Bit16～31: SECONDARY 700～1000=70.0～100%	PRIMARY、SECONDARY HIT=100 65537000	INTEGER	○
1051	sms70hMaskParaPri	R/W	4	PRIMARY MASK のパラメータ設定 Bit0～7: ON/OFF0=OFF1=ONBit8～15: PRESET1～8 REVERS0=OFF1=ON16～23: PRESET0～7=PRESET1～8	MASK OFF、PRESET1～8 REVERS OFF、PRESET10	INTEGER	○
1052	sms70hMaskHposiPri	R/W	4	PRIMARY MASK PRESET1～8 の H POSI 設定 Bit0～15: LEFT POSI Bit16～31: RIGHT POSI ※1051 で PRESET 番号を設定してから PUT、GET してください。 0～1919 ※LEFT < RIGHT	LEFT=960、RIGHT=1060 69469020	INTEGER	○
1053	sms70hMaskVposiPri	R/W	4	PRIMARY MASK PRESET1～8 の V POSI 設定 Bit0～15: TOP POSI Bit16～31: BOTTOM POSI ※1051 で PRESET 番号を設定してから PUT、GET してください。 0～1079 ※TOP < BOTTOM	TOP=440、BOTTOM=640 41943480	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1054	sms70hMaskParaSec	R/W	4	SECONDARY MASK のパラメータ設定 Bit0～7: ON/OFF 0=OFF 1=ON Bit8～15: PRESET1～8 REVERS 0=OFF 1=ON 16～23: PRESET 0～7=PRESET1～8	MASK OFF、PRESET1～8 REVERS OFF、PRESET1 0	INTEGER	○
1055	sms70hMaskHposiSec	R/W	4	SECONDARY MASK PRESET1～8 の H POSI 設定 Bit0～15: LEFT POSI Bit16～31: RIGHT POSI ※1054 で PRESET 番号を設定してから PUT、GET してください。 0～1919 ※LEFT < RIGHT	LEFT=960、RIGHT=1060 69469020	INTEGER	○
1056	sms70hMaskVposiSec	R/W	4	SECONDARY MASK PRESET1～8 の V POSI 設定 Bit0～15: TOP POSI Bit16～31: BOTTOM POSI※ 1054 で PRESET 番号を設定してから PUT、GET してください。0～1079※TOP < BOTTOM	TOP=440、 BOTTOM=64041943480	INTEGER	○
1057	sms70hMaskLevel	R/W	4	MASK LEVEL の設定 0～3=1～4	MASK LEVEL4 3	INTEGER	○
1058	sms70hInitCond	R/W	4	コンディションバッファ初期化 1=初期化	常に 0	INTEGER	
1059	sms70hFlashFormat	R/W	4	フラッシュドライブフォーマット、ログクリア 1=フォーマット、ログクリア実行	常に 0	INTEGER	
1060	sms70hAudioSelPri	R/W	4	PRIMARY AUDIO LEVEL のチャンネル選択 0～7=CH1～8	CH1 を選択 0	INTEGER	○
1061	sms70hAudioLevPri	R/W	4	PRIMARY AUDIO LEVEL ※1060 で CH を設定してから GET してください。 ※SET はできません。 0～99 -100=MUTE 9999=パケットなし		INTEGER	○
1062	sms70hAudioSelSec	R/W	4	SECONDARY AUDIO LEVEL のチャンネル選択 0～7=CH1～8	CH1 を選択 0	INTEGER	○
1063	sms70hAudioLevSec	R/W	4	SECONDARY AUDIO LEVEL ※1062 で CH を設定してから GET してください。 ※SET はできません。 0～99 -100=MUTE 9999=パケットなし		INTEGER	○
1064	sms70hGetPhase	R/W	4	VIDEO DELAY STATUS の値を取得します。 1065、1066、1067 1=GET	常に 0	INTEGER	
1065	sms70hPhasePri	R/W	4	PRIMARY VIDEO DELAY STATUS ※SET はできません。		INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1066	sms70hPhaseSec	R/W	4	SECONDARY VIDEO DELAY STATUS※SET はできません。		INTEGER	○
1067	sms70hPhaseAux	R/W	4	AUX VIDEO DELAY STATUS ※SET はできません。		INTEGER	○
1068	sms70hMuteerrch	R/O	4	MUTE ERROR CHANNEL Bit0～15: PRIMARY Bit0=CH1～Bit7=CH8 Bit16～31: SECONDARY Bit16=CH1～Bit23=CH8 ※チャンネルごとに MUTE を検出した時“1”に変化。ErrDump の MUTE が“1”になっている時に参照できます、通常は全て“0”	全 CH エラーなし 0	INTEGER	○
1069	sms70hErrorMask	R/W	4	エラーマスクの ON/OFF を設定します。 ON に設定すると ERROR DETECT の設定に関係なく SDI～STILL までの全ての検知を無効(エラーなし)にします。0=OFF(検知有効) 1=ON(検知無効)	検知有効 0	INTEGER	○
1070	sms70hToggleMode	R/W	4	トグルモードの ON/OFF を設定します。 0=OFF 1=ON	トグルモード OFF 0	INTEGER	○
1071	sms70hHoldTime	R/W	4	ホールドモードの自動リセット時間を設定します。 0=自動リセットなし 1～99=自動リセット時間(分)	自動リセットなし 0	INTEGER	○
1072	sms70hPanelAux	R/W	4	未使用		INTEGER	
1073	sms70hTimerReset	R/W	4	未使用		INTEGER	
1074	sms70haPresetSelect	R/W	4	AUX エラー検出プリセットの選択 Bit0～7: AUX1 Bit8～15: AUX2 Bit16～23: AUX3 0=OFF 1～9=プリセット選択	AUX1=OFF AUX2=OFF AUX3=OFF 0	INTEGER	○
1075	sms70hAuxErrCode	R/O	4	AUX エラーコード Bit0～7: AUX1 Bit8～15: AUX2 Bit16～23: AUX3 0=エラーなし 1～21=エラーコード(1026 と同様)	エラーなし 0	INTEGER	○
1076	sms70hAuxErrDump	R/O	4	AUX エラーの状態 ビット対応、ERROR DETECT ON/OFF の設定に関係なく検出、MUTE～STILL までの項目は 1 秒以上で検出 Bit0～20(1029 と同様)	エラーなし 0	INTEGER	○
1077	sms70hMtDetTm1a	R/W	4	MUTE エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0～15: AUX1～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1078	sms70hMtDetTm2a	R/W	4	MUTE エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: AUX 1～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1079	sms70hMtDetTm3a	R/W	4	MUTE エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: AUX 1～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1080	sms70hBkDetTm1a	R/W	4	BLACK エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1081	sms70hBkDetTm2a	R/W	4	BLACK エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1082	sms70hBkDetTm3a	R/W	4	BLACK エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1083	sms70hFreezeTime1a	R/W	4	FREEZE エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1084	sms70hFreezeTime2a	R/W	4	FREEZE エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1085	sms70hFreezeTime3a	R/W	4	FREEZE エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1086	sms70hBuleTime1a	R/W	4	BLUE エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1087	sms70hBuleTime2a	R/W	4	BLUE エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1088	sms70hBuleTime3a	R/W	4	BLUE エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1089	sms70hStillTime1a	R/W	4	STILL エラーの検出時間 TIME1 の設定 Bit0～15: AUX0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1090	sms70hStillTime2a	R/W	4	STILL エラーの検出時間 TIME2 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1091	sms70hStillTime3a	R/W	4	STILL エラーの検出時間 TIME3 の設定 Bit0～15: AUX 0～999(秒)	AUX 5 秒 5	INTEGER	○
1092	sms70hStillCompa	R/W	4	STILL エラー検出の COMPARE 設定 Bit0～15: AUX 1～10=PIX1～PIX10 11=VARI	AUX PIX1 1	INTEGER	○
1093	sms70hStillVaria	R/W	4	STILL エラー検出の COMPARE VARI 設定 Bit0～15: AUX 1～100	AUX VARI=1 1	INTEGER	○
1094	sms70hStillHita	R/W	4	STILL エラー検出の PIXEL HIT 設定 Bit0～15: AUX 700～1000=70.0～100%	AUX HIT=100 1000	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1095	sms70hMaskParaAux	R/W	4	AUX MASK のパラメータ設定 Bit0～7: ON/OFF 0=OFF 1=ON Bit8～15: PRESET1～8 REVERS 0=OFF 1=ON 16～23: PRESET 0～7=PRESET1～8	MASK OFF、PRESET1～8 REVERS OFF、PRESET1 0	INTEGER	○
1096	sms70hMaskHposiAux	R/W	4	AUX MASK PRESET1～8 の H POSI 設定 Bit0～15: LEFT POSI Bit16～31: RIGHT POSI ※1095 で PRESET 番号を設定して から PUT、GET してください。 0～1919 ※LEFT < RIGHT	LEFT=960、RIGHT=1060 69469020	INTEGER	○
1097	sms70hMaskVposiAux	R/W	4	AUX MASK PRESET1～8 の V POSI 設定 Bit0～15: TOP POSI Bit16～31: BOTTOM POSI※ 1095 で PRESET 番号を設定して から PUT、GET してください。0～ 1079※TOP < BOTTOM	TOP=440、 BOTTOM=64041943480	INTEGER	○
1098	sms70hAudioSelAux	R/W	4	AUX AUDIO LEVEL のチャンネル 選択 0～7=CH1～8	CH1 を選択 0	INTEGER	○
1099	sms70hAudioLevAux	R/W	4	AUX AUDIO LEVEL ※1098 で CH を設定してから GET してください。 ※SET はできません。 0～99 -100=MUTE 9999=バケットなし		INTEGER	○
1100	sms70hMtDetCha	R/W	4	AUX MUTE エラー検出チャンネル の設定 Bit0～7: AUX CH Bit0: CH1 0=OFF, 1=ON Bit1: CH2 0=OFF, 1=ON Bit2: CH3 0=OFF, 1=ON Bit3: CH4 0=OFF, 1=ON Bit4: CH5 0=OFF, 1=ON Bit5: CH6 0=OFF, 1=ON Bit6: CH7 0=OFF, 1=ON Bit7: CH8 0=OFF, 1=ON Bit8～15: AUX CH MODE 0=AND, 1=OR	CH1～8=ON、AND モード 255	INTEGER	○
1101	sms70hMuteerrcha	R/O	4	MUTE ERROR CHANNEL Bit0～15: AUX Bit0=CH1～Bit7=CH8 ※チャンネルごとに MUTE を検出 した時“1”に変化。ErrDump の MUTE が“1”になっている時に参 照できます、通常は全て“0”	全 CH エラーなし 0	INTEGER	○
1102	sms70hSyncMode	R/W	4	シンクモードを設定 Bit0～7: PRIMARY Bit8～15: SECONDARY Bit16～23: AUX 設定 0=FS 1=AVDL	PRIMARY、SECONDARY、 AUX 全て FS 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1103	sms70hGPIfreAsin3	R/W	4	GPI IN フリーアサインの設定 Bit0～7:IN5 の設定 Bit8～15:IN6 の設定 設定 0=OFF1=PRIMARY2=SECONDARY3=AUX4=COLOR5=FILE6=HOLD RESET7=P/S SELECT8=M/A SELECT9=MASK ON/OFF	IN5～IN6 OFF0	INTEGER	○
1104	sms70hGPIfreAsin4	R/W	4	GPI OUT フリーアサインの設定 Bit0～7:OUT5 の設定 Bit8～15:OUT6 の設定 設定 0=OFF 1=PRIMARY 2=SECONDARY 3=AUX 4=COLOR 5=FILE 6=PRI ERROR123 7=PRI ERROR1 8=PRI ERROR2 9=PRI ERROR3 10=PRI ERROR12 11=PRI ERROR23 12=PRI ERROR13 13=SEC ERROR123 14=SEC ERROR1 15=SEC ERROR2 16=SEC ERROR3 17=SEC ERROR12 18=SEC ERROR23 19=SEC ERROR13 20=AUX ERROR123 21=AUX ERROR1 22=AUX ERROR2 23=AUX ERROR3 24=AUX ERROR12 25=AUX ERROR23 26=AUX ERROR13 27=P/S ERROR ALL	OUT5～OUT6 OFF0	INTEGER	○
1105	sms70hAncCtrl	R/W	4	アンシラリの設定 Bit0～7:LINE 19/582 の設定 Bit8～15:LINE 20/583 の設定 0=THROUGH1=AUX IN ANC DATA	LINE 19/582、LINE 20/583 どちらも THROUGH0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1106	sms70hDisplay	R/W	4	表示器、オンスクリーンの設定 Bit0~7:SCREEN SAVER 0=OFF 1=NAME ROLL 2=DIM 70% 3=DIM 50% 4=DIM 30% Bit8~15:MAIN VIEW 0=STATUS 1=PRI AVDL METER 2=SEC AVDL METER 3=AUX AVDL METER Bit16~23:OSD 0=DISABLE 1=ENABLE Bit24~31:OSD BRIGHT 0~100	SCREEN SAVER=50%、 MAIN VIEW=AVDL METER、 OSD=ENABLE、 OSD BRIGHT=100 1677787136	INTEGER	○
1107	sms70hIntCol1	R/W	4	インターナルカラーの設定 1 Bit0~7:AUDIO 0=MUTE 1=1kHz	AUDIO=MUTE 0	INTEGER	○
1108	sms70hIntCol2	R/W	4	インターナルカラーの設定 2 Bit0~7:SCROLL H 0=OFF 1=LEFT 2=RIGHT Bit8~15:SCROLL V 0=OFF 1=UP 2=DOWN Bit16~23:SCROLL H SPEED 0=LOW 1=MID 2=HIGH Bit24~31:SCROLL V SPEED 0=LOW 1=MID 2=HIGH	SCROLL H、V=OFF SCROLL H、V SPEED=LOW 0	INTEGER	○
1109	sms70hColbarChr	R/W	32	カラーバーのキャラクター 英数字最大 32 文字	デフォルト “(ブランク)”	STRING	○
1110	sms70hPrev4scr1	R/W	4	プレビュー4 画面の設定 1 Bit0~7:TOP LEFT SEL Bit8~15:TOP RIGHT SEL Bit16~23:BOTTOM LEFT SEL Bit24~31:BOTTOM RIGHT SEL SEL0=PRIMARY1=SECONDARY2=AUX3=COLOR4=FILE5=BLACK6=OUT	TOP LEFT SEL=PRIMARY、 TOP RIGHT SEL=SECONDARY、 BOTTOM LEFT SEL=AUX、 BOTTOM RIGHT SEL=COLOR50462976	INTEGER	○
1111	sms70hPrev4scr2	R/W	4	プレビュー4 画面の設定 2 Bit0~7:TOP LEFT CHR Bit8~15:TOP RIGHT CHR Bit16~23:BOTTOM LEFT CHR Bit24~31:BOTTOM RIGHT CHR 0=OFF 1=AUTO 2=CUSTOM	全て OFF 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1112	sms70hPrev4scrTlchr	R/W	32	TOP LEFT の CUSTOM キャラクター 英数字最大 32 文字		STRING	○
1113	sms70hPrev4scrTrchr	R/W	32	TOP RIGHT の CUSTOM キャラクター 英数字最大 32 文字		STRING	○
1114	sms70hPrev4scrBlchr	R/W	32	BOTTOM LEFT の CUSTOM キャラクター 英数字最大 32 文字		STRING	○
1115	sms70hPrev4scrBrchr	R/W	32	BOTTOM RIGHT の CUSTOM キャラクター 英数字最大 32 文字		STRING	○
1116	sms70HAuxIn	R/W	4	AUX の IN/OUT を設定します 0=IN 1=OUT(SEC OUT)	IN 0	INTEGER	○
1117	sms70hOption	R/O	4	オプション Bit0:1=FILE オプションあり	オプションなし 0	INTEGER	
1118	sms70hImageSel	R/W	4	FILE 選択の設定 Bit0~7:IMAGE SELECT 0~3=IMAGE1~4	IMAGE1 を選択 0	INTEGER	○
1119	sms70hImg1Pra1	R/W	4	IMAME1 の設定 1Bit0~7:TRANSITION SEL0=DISABLE1=CUT2=DISSOLVE Bit8~15:AUDIO SEL0=MUTE1=AUDIO12=AUDIO2 3=AUDIO34=AUDIO4Bit16~23:AUDIO LOOP0=DISABLE1=ENABLE	TRANSITION=DISABLEAUDIO SEL=MUTEAUDIO LOOP=DISABLE0	INTEGER	○
1120	sms70hImg1Pra2	R/W	4	IMAME1 の設定 2 Bit0~15:TRANSITION TIME 1~3600 秒 Bit16~31:DISSOLVE SPEED 1~3600 フレーム	TRANSITION TIME=10 秒 DISSOLVE SPEED=30 フレーム 1966090	INTEGER	○
1121	sms70hImg2Pra1	R/W	4	IMAGE2 の設定 1 OID1122 と同じ		INTEGER	○
1122	sms70hImg2Pra2	R/W	4	IMAGE2 の設定 2 OID1123 と同じ		INTEGER	○
1123	sms70hImg3Pra1	R/W	4	IMAGE3 の設定 1 OID1122 と同じ		INTEGER	○
1124	sms70hImg3Pra2	R/W	4	IMAGE3 の設定 2 OID1123 と同じ		INTEGER	○
1125	sms70hImg4Pra1	R/W	4	IMAGE4 の設定 1 OID1122 と同じ		INTEGER	○
1126	sms70hImg4Pra2	R/W	4	IMAGE4 の設定 2 OID1123 と同じ		INTEGER	○
1127	sms70hDbErrAux	R/W	4	DOUBLE ERROR エラーで AUX 選択時、AUX がエラーの時の切り替え設定 0=COLOR 1=FILE	COLOR 0	INTEGER	○
1128	sms70HFpgaVer	R/O	8	FPGA バージョン	00.00.00	STRING	
1129	sms70HPriErrAlarm	R/O	4	PRIMARY ERROR ALARM 0=エラーなし 1=エラーあり	エラーなし 0	INTEGER	○
1130	sms70HSecErrAlarm	R/O	4	SECONDARY ERROR ALARM 0=エラーなし 1=エラーあり	エラーなし 0	INTEGER	○
1131	sms70HAuxErrAlarm	R/O	4	PRIMARY ERROR ALARM 0=エラーなし 1=エラーあり	エラーなし 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1132	sms70hPriPayloadIn1	R/O	11	PRI PAYLOAD IN ID1 PAYLOAD なしの場合は、 " _ _ _ _ _ "	"00 00 00 00"	STRING	○
1133	sms70hPriPayloadIn2	R/O	11	PRI PAYLOAD IN ID2 PAYLOAD なしの場合は、 " _ _ _ _ _ "	"00 00 00 00"	STRING	○
1134	sms70hSecPayloadIn1	R/O	11	SEC PAYLOAD IN ID1 PAYLOAD なしの場合は、 " _ _ _ _ _ "	"00 00 00 00"	STRING	○
1135	sms70hSecPayloadIn2	R/O	11	SEC PAYLOAD IN ID2 PAYLOAD なしの場合は、 " _ _ _ _ _ "	"00 00 00 00"	STRING	○
1136	sms70hAuxPayloadIn1	R/O	11	AUX PAYLOAD IN ID1 PAYLOAD なしの場合は、 " _ _ _ _ _ "	"00 00 00 00"	STRING	○
1137	sms70hAuxPayloadIn2	R/O	11	AUX PAYLOAD IN ID2 PAYLOAD なしの場合は、 " _ _ _ _ _ "	"00 00 00 00"	STRING	○
1138	sms70hPayloadOut1	R/O	11	PAYLOAD OUT ID1 PAYLOAD なしの場合は、 " _ _ _ _ _ "	"00 00 00 00"	STRING	○
1139	sms70hPayloadOut2	R/O	11	PAYLOAD OUT ID2 PAYLOAD なしの場合は、 " _ _ _ _ _ "	"00 00 00 00"	STRING	○
1140	sms70hPrev4scrAudio	R/W	4	プレビュー4画面のAUDIO設定 0=TOP LEFT 1=TOP RIGHT 2=BOTTOM LEFT 3=BOTTOM RIGHT 4=PRIMARY 5=SECONDARY 6=AUX 7=FILE 8=1KHz 9=MUTE	TOP LEFT 0	INTEGER	○
1141	sms70hEsubLost	R/W	4	EXT SUB モードでバスリファレンスが断になった時の動作を設定します。 0=INTERNAL 1=LINE DIRECT	INTERNAL 0	INTEGER	○
1142	sms70hSwnFilter	R/W	4	SWN FILTERを設定します。 0=OFF 1=ON	OFF 0	INTEGER	○

8. トラブルシューティング

トラブルが発生した場合の対処方法です。

(文中の→は対処方法を示しています)

現 象 動作しない。

原 因 ・筐体正面の電源スイッチはON側になっていますか？

・筐体の電源ケーブルのプラグはコンセントに挿入されていますか？

・筐体のヒューズは切れていませんか？

・メインモジュールは正しく挿入されていますか？

→もし交換してすぐにヒューズが切れるようであれば直ちに使用を中止し、弊社へお問い合わせください。

現 象 映像がまったく表示されない。

原 因 ・入力映像信号は正しいですか？

・コネクターモジュールはSMS-70H用ですか？

・ケーブルの接続は正しいですか？

→「3.各部の名称と働き」を参考にして、コネクターとケーブルが正確に接続されているかご確認ください。

現 象 ログの時刻が正しくない。

原 因 ・本体のTIMEの設定(MENU→SYSTEM→SYSTEM TIME)は正しく設定されていますか？

・筐体の内蔵時計は正しく設定されていますか？

→本体のTIME設定と筐体の内蔵時計とは、直近に設定がされた方の時刻に設定されます。

現 象 ログが保存できない。

原 因 ・フラッシュメモリーの書き込み寿命を超えている可能性があります。

→「4.操作方法/(1)ERROR LOG」を参照し、ログをクリアしてください。クリアしてもログが保存できない場合は弊社へお問い合わせください。

現 象 出力映像が垂直方向にずれる！

VTR、サーバー、各種送信システム等に接続すると映像は出るが音声が出ない！

原 因 ・該当するSDI入力信号のSYNC MODE(MENU→SYNC MODE)が「AVDL」になっていませんか？

→REF信号とSDI入力信号は同期させて使用してください。

入力信号の位相がAVDLの引き込み範囲に無い時は、MENU→SYSTEM→GENLOCK PHASEでSDI出力の位相を調整して入力信号の位相がAVDLの引き込み範囲へ収まるようにしてください。「10.その他/(2)GENLOCK PHASE」を参照してください。

位相を調整しきれない時はSYNC MODEを「FS」にしてご使用ください。

現 象 映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)でCOMPARE(映像比較)のエラーが消えない。

原 因 ・PRIMARYとSECONDARYの位相がAVDLの引き込み範囲に収まっていますか？

→映像フォーマット3G-SDI(1080p59.94A)ではSYNC MODEにFSを選択されていてもAVDLを経由してのエラー検出になりますので、PRIMARY INとSECONDARY INのそれぞれの映像位相はAVDLの引き込み範囲に入っている必要があります。

現 象 リモート・コントロール・パネルが動作しない。

原 因 ・パネル背面の電源スイッチはON側になっていますか？
・電源ケーブルのプラグはコンセントに挿入されていますか？
→もし電源が入らないようであれば、弊社へお問い合わせください。

現 象 リモート・コントロール・パネルのLEDが全点灯のままになっている。

原 因 ・コントロールケーブルは正しく接続されていますか？
・ケーブルの接続は正しいですか？
→「3.各部の名称と働き」を参考にして、コネクタとケーブルが正確に接続されているかご確認ください。

現 象 リモート・コントロール・パネルのスイッチ操作ができない。

原 因 ・PANEL LOCKスイッチがOFFになっていますか？
→「3.各部の名称と働き」を参照してください。

現 象 リモート・コントロール・パネルのブザー音が出ない。

原 因 ・BUZZER MUTEスイッチがOFFになっていますか？
→「3.各部の名称と働き」を参照してください。

お問い合わせは、当社サポートセンターまでご連絡ください。

9. 仕様

1. 機能

PRIMARY/SECONDARY 自動切換え	PRIMARY でエラー発生時に SECONDARY へ切り替わります。
エラーログ	40,000イベントまで記録保存し超えた時は順次古いイベントから削除されます。 イベント内容は、日付、時間、エラー内容です。
信号検出項目	
・ SDI SIGNAL	SDI信号のなし
・ TRS	映像タイミング基準コード(TRS)のエラー
・ LINE NUMBER	ラインナンバーエラー
・ CRC Y	Yデータ系列CRCエラー
・ CRC C	Cb,Crデータ系列CRCエラー
・ LINE LENGTH	1ラインの長さエラー
・ FIELD LENGTH	1フィールドの長さエラー
・ RESERVED DATA	リザーブドデータエラー
・ ANC PARITY	補助データパケットのパリティエラー
・ ANC CHECKSUM	補助データパケットのチェックサムエラー
・ BCH	エンベデッド・オーディオのエラー
・ AUDIO PACKET	エンベデッド・オーディオ・パケットのデータブロック番号インクリメントエラー
・ NO AUDIO PACKET	エンベデッド・オーディオ・パケットなし
・ MUTE	オーディオ無音検出 (1～8CH 対応)
・ BLACK	黒味検出
・ BLUE	青色検出
・ FREEZE	フリーズ検出 (映像データが完全に静止した静止画用)
・ STILL	スチル検出 (フレーム間で圧縮した映像やノイズがある静止画用) ※1
・ COMPARE	PRI INとSEC INの映像比較 ※1 3G-SDIではご使用になれません。
入力設定	
・ AVDL	入力チャンネルごとにFS、AVDLのどちらかを選択できます。 入力信号がREF信号に同期している条件で使用可能です。映像をフレーム遅延させたくないときに選択します。 引き込み範囲は約1Hです。
・ FS	HANC、VANCのパケットは全て通過します。 入力信号が非同期の場合に設定します。また、前段にブランキングスイッチャー等を接続している場合、スイッチングによる音声ノイズを吸収させたい場合にも有効です。 HANCは音声パケット16ch、タイムコード(SMPTE RP188)、ペイロードID(SMPTE 352M)が通過し、VANC(スイッチングポイントとその次のラインを含まない)が通過します。
インターナルカラー出力	ムービング設定が可能なカラーバー及び青、赤、黒の単色カラーを出力する事ができます。 エンベデッド音声は1kHzとMUTEが選択できます。
静止画像/WAV音声出力 (オプション)	内蔵のフラッシュメモリーに保存された静止画とWAV音声を再生出力できます。 静止画はHDサイズ(8bit階調)で4枚、WAV音声は2CH(16bit, 48kHz)でおよそ52秒までの音声を4つ保存可能です。

PREVIEW出力設定	
・ OFF	SDI OUT 1と同じ映像を出力します。
・ NEXT	SDI OUT 1の反対BUSを出力します。
・ SPLIT1	PRIMARYとSECONDARY入力を分割して出力します。
・ SPLIT2	PRIMARYとSECONDARYとAUX入力を分割して出力します。
・ 4SCREENS	4つの映像を分割して出力します。※1
・ AUX	AUXを出力します。※2
・ FILE	FILE(静止画像、音声WAV)を選択して出力します。※3 ※1 3G-SDIではご使用になれません。 ※2 SDI OUT1の選択をFILEにしている時はご使用になれません。 ※3 オプションです。
GPI入力	出力をする映像ソースの切り替え等が可能です。
GPI出力	各SDI入力信号のエラー出力等が可能です。
手動制御	オプションのSMS-70V-01、RCP-01-ALMもしくはGPIから制御によって、現用系・予備系を含む手動切り替えが可能です。
オンスクリーンメニュー	各機能の設定項目やエラーログの表示が可能です。

2. 定 格

(1)SMS-70H 本体

入力信号	
・ SDI IN	
PRIMARY	SMPTE424M/292M準拠 0.8Vp-p/75Ω BNC 1系統
SECONDARY	SMPTE424M/292M準拠 0.8Vp-p/75Ω BNC 1系統
AUX(入力設定時)	SMPTE424M/292M準拠 0.8Vp-p/75Ω BNC 1系統
出力信号	
・ SDI OUT	
1, 2, 3(PREVIEW)	SMPTE424M/292M準拠 0.8Vp-p/75Ω BNC 各1系統
AUX(出力設定時)	SMPTE424M/292M準拠 0.8Vp-p/75Ω BNC 1系統
外部I/F	
・ GPI	接点入力×6、出力×6 Dsub-15(f) 1系統 ※1 TTL信号で制御する際は、吸い込み電流が12mAまで 耐えられるデバイスで駆動してください。 ※2 接点の絶対最大定格は60V、300mAです。外部抵抗で 電流を300mA以下に制限してください。
・ PANEL	2Vp-p/75Ω 上記コネクタ内に割り当てられます
映像フォーマット	HD: 1080i59.94、1080sF29.97/23.98、1080p29.97/23.98 3G-SDI: 1080p59.94 Level-A
動作温度・動作湿度	0～40℃ 20～80%RH(ただし結露なき事)
消費電力	13VA (5.0V 2.6A)
質量	0.8kg (コネクターモジュールを含む)

(2)SMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル (オプション)

外部I/F	
・ PANEL IN	2Vp-p/75Ω BNC 1系統
・ PANEL OUT (未使用)	2Vp-p/75Ω BNC 1系統
外形寸法	420W×44H×90D (突起部含まず)
質量	約1.5kg
動作温度・動作湿度	0～40℃ 20～80% RH(ただし結露なき事)
電源	AC90～250V 50/60Hz IEC inlet C14タイプ 1系統
消費電力	15VA

(3)RCP-01F-ALM LAN 対応 アラーム・コントロール・パネル (オプション)

外部I/F		
・ PANEL IN	2Vp-p/75Ω	BNC 1系統
・ PANEL OUT (未使用)	2Vp-p/75Ω	BNC 1系統
・ Ethernet	10/100BASE-T	RJ45 1系統
外形寸法	420W×44H×90D (突起部含まず)	
質量	約1.4kg	
動作温度・動作湿度	0～40℃ 20～80% RH(ただし結露なき事)	
電源	AC90～250V 50/60Hz	IEC inlet C14タイプ 1系統
消費電力	15VA	

(4)RCP-01F-STAND 卓上置きタイプ取付キット (オプション)

外形寸法	90W×62H×20D (突起部含まず)
質量	約0.18kg

3. 性 能

(1)SMS-70H 本体

入力特性	
・ SDI IN	
分解能	10bit
サンプリング周波数	HD: 74.18MHz、3G: 148.35MHz
イコライザー特性	HD: 100m/5CFB、3G: 80m/5CFB
反射減衰量	5MHz～1.485GHz 15dB以上 1.485GHz～3GHz 10dB以上
出力特性	
・ SDI OUT	
分解能	10bit
サンプリング周波数	HD-SDI: 74.18MHz、3G-SDI: 148.35MHz
信号振幅	0.8Vp-p±10%/75Ω
反射減衰量	5MHz～1.485GHz 15dB以上 SD: 5 MHz～270MHz 15dB以上 1.485GHz～3GHz 10dB以上
立ち上がり/立ち下がり時間	HD: 270ps以下 (20%～80%間)、3G: 135ps以下 (20%～80%間)
オーバーシュート	10%以下
DCオフセット	0V±0.5V
ジッター特性	
アライメント	HD: 0.2UI以下、3G: 0.3UI以下
タイミング	HD: 1.0UI以下、3G: 2.0UI以下
映像入出力遅延	
・ AVDL設定	HD: 約 2μs 3G: 約 1μs
・ FS設定	SYNC MODE が EXT SUB の時 各映像フォーマットの約 0.5～1.5 フレーム SYNC MODE が LINE DIRECT の時 各映像フォーマットの 3 ライン

音声入出力遅延

・ AVDL設定	HD: 約 $2\mu\text{s}$ 3G: 約 $1\mu\text{s}$
・ FS設定	SYNC MODE が EXT SUB の時 各映像フォーマットの 1 フレーム SYNC MODE が LINE DIRECT の時 各映像フォーマットの 3 ライン

GPI

・ 接点入力	12mA 以上
・ 接点出力	60V/300mA 最大定格

(2) SMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル (オプション)

外部 I/F

・ PANEL IN	100m/3C2V
・ 本体の接続数	1台

(3) RCP-01F-ALM LAN対応 アラーム・コントロール・パネル (オプション)

外部 I/F

・ PANEL IN	100m/3C2V
・ 本体の接続数	同軸パネル通信の接続時 : 1台 ネットワーク通信の接続時 : 最大10台

10. その他

1. 出荷時設定に戻す

メインモジュール上の DIP スwitch の 8 番を ON にして電源を投入します。初期化中 SMS-70H 正面の表示器に「RST」と表示され、しばらくして通常表示になったら出荷時設定完了です。

出荷時設定完了は必ず DIP スwitch の 8 番を OFF に戻して再起動をしてください。

DIP スwitch の場所は、「図 3-1 各部の名称と働き」の(12)を参照してください。

2. GENLOCK PHASE 設定

(1) **MENU** → SYSTEM → REFERENCE SELECT → EXT SUB の時

筐体内部バスのリファレンス信号に同期します。

SYNC MODE は FS と AVDL が選択できます。

SDI 出力信号の位相は、GENLOCK PHASE の H と V のそれぞれの設定が 0 時、SDI 入力信号に対して 1 フレーム遅延した信号になります。

1) SYNC MODE に FS を設定した時

MENU → SYSTEM → GENLOCK PHASE の階層にて、H、V の位相を動かすことができます。

2) SYNC MODE に AVDL を設定した時

AVDL は約 1 ラインです。SDI 出力信号の位相は工場出荷時設定でリファレンス信号と同相で出力されます。SMS-70H の最小内部遅延は HD 信号を入力した場合、約 $2.0\mu\text{s}$ (3G 信号は約 $1.0\mu\text{s}$) ですので、リファレンス信号と同相の SDI 入力信号を使用した場合、AVDL の位相引き込み範囲を外れるために映像の中身が 1 ライン落ちて出力されます。

※映像は 1 ライン落ちて見えますが、SDI 出力信号の同期信号はリファレンス信号と同相です。リファレンス信号と同相で出力させ、かつ映像を落とさずに出力させたい場合、SMS-70H の内部遅延分 (HD: 約 $2.0\mu\text{s}$ 、3G: 約 $1.0\mu\text{s}$) 以上アドバンスした SDI 入力信号を使用するか、または SMS-70H の内部遅延分以上ディレイしたリファレンス信号を使用してください。

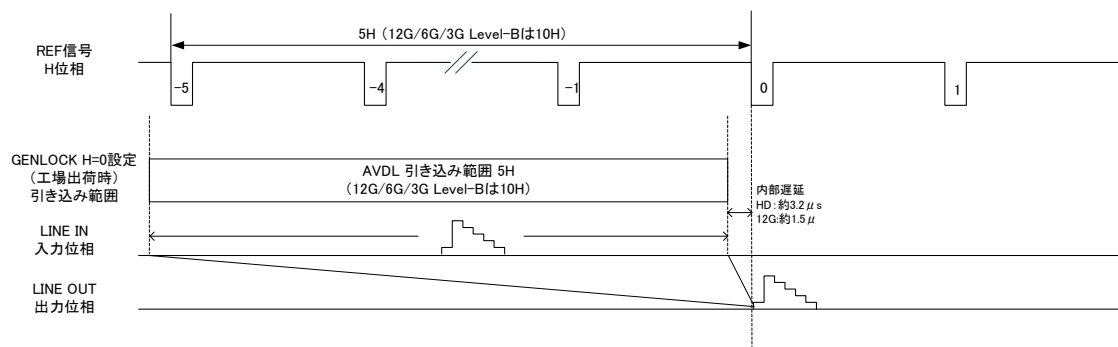


図 11-1 AVDL 引き込み範囲

ディレイしたリファレンス信号を用意できない場合は、疑似的に SMS-70H 側でリファレンス信号の位相をずらすことができます。

調整手順

MENU→SYSTEM→GENLOCK PHASE の階層にて、H、V の位相を動かすことができます。AVDL メーターの ▼ のマーカーが緑色で表示されるように設定してください。なお、H、V の位相を動かすと AVDL の引き込み範囲と出力の位相が同時に動きますので注意してください。

(2) **MENU**→SYSTEM→REFERENCE→LINE DIRECT の時

SDI OUT 1 の出力に選択した SDI 入力信号をリファレンス信号にします。

SYNC MODE は強制的に FS になります。

SDI 出力信号の位相は、GENLOCK PHASE の H と V のそれぞれの設定が 0 の時、SDI 入力信号に対して 3 ライン遅延した信号になります。

GENLOCK PHASE の設定によって遅延時間が変わりますのでご注意ください。

遅延時間は EL ディスプレイで確認できます。**MENU**→CONFIG→DISPLAY→MAIN VIEW で設定)

なお、SDI OUT 1 の出力に SDI 入力以外を選択した場合は自走モードになります。

3. 切り替えタイミング

エラー発生から切り替えまでのタイミングを映像フォーマット別に示します。

DOUBLE ERROR の場合も同様のタイミングで切り替わります。

※DOUBLE ERROR の切り替えとは以下の動作です。

- ・PRIMARY にエラー発生時、SECONDARY もエラー発生状態で AUX に切り替わる動作。
- ・PRIMARY にエラー発生時、SECONDARY、AUX もエラー発生状態で COLOR に切り替わる動作。

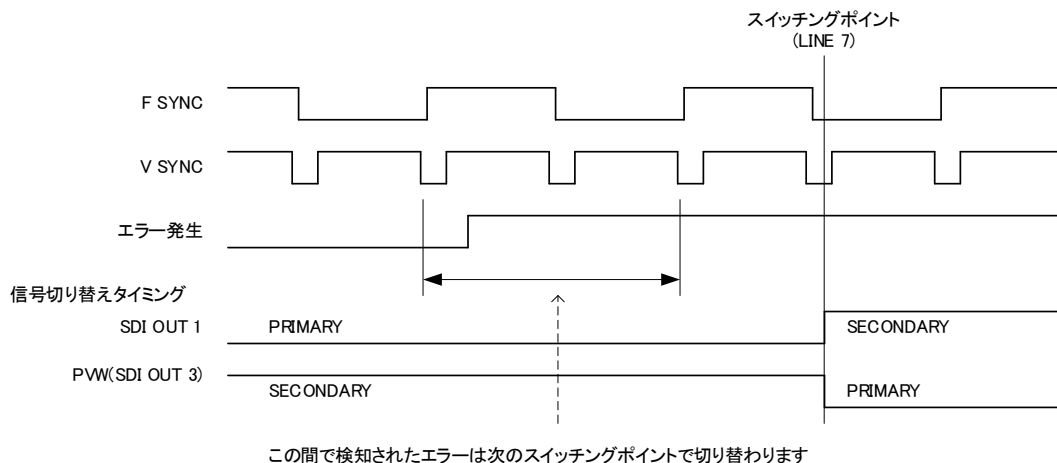


図 11-2 1080i59/sF29/sF23 のエラー発生から切り替えまでの時間

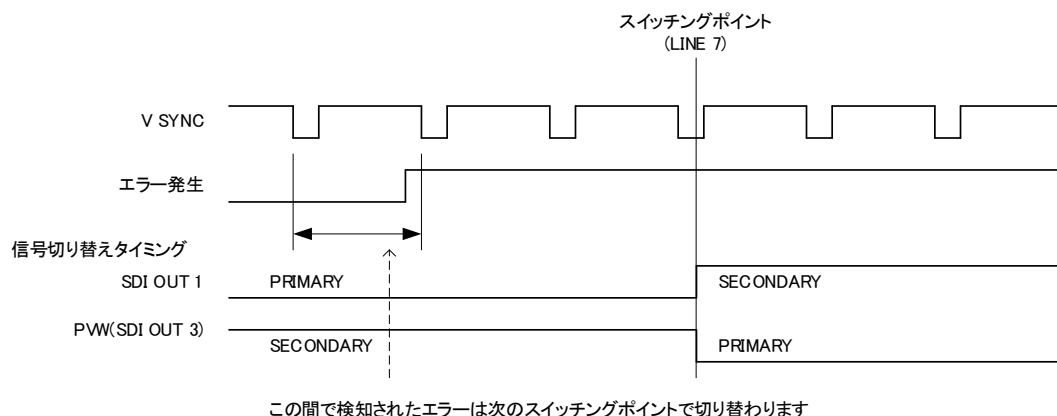


図 11-3 1080p59 のエラー発生から切り替えまでの時間

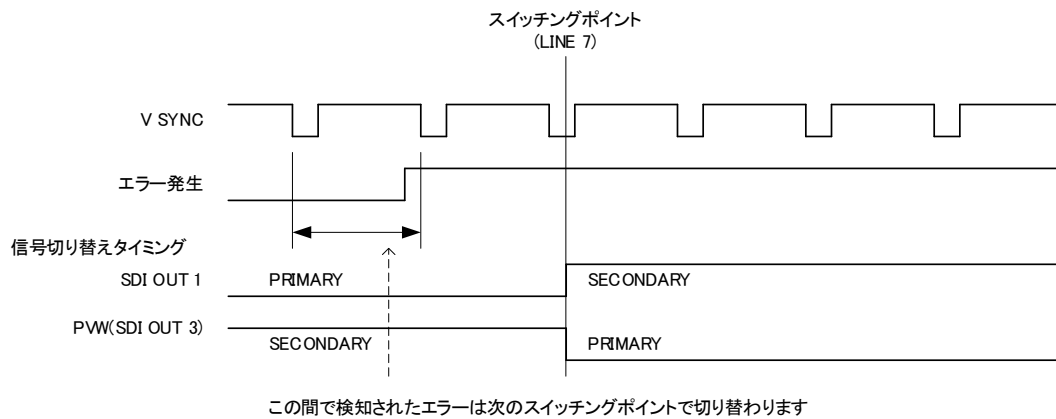
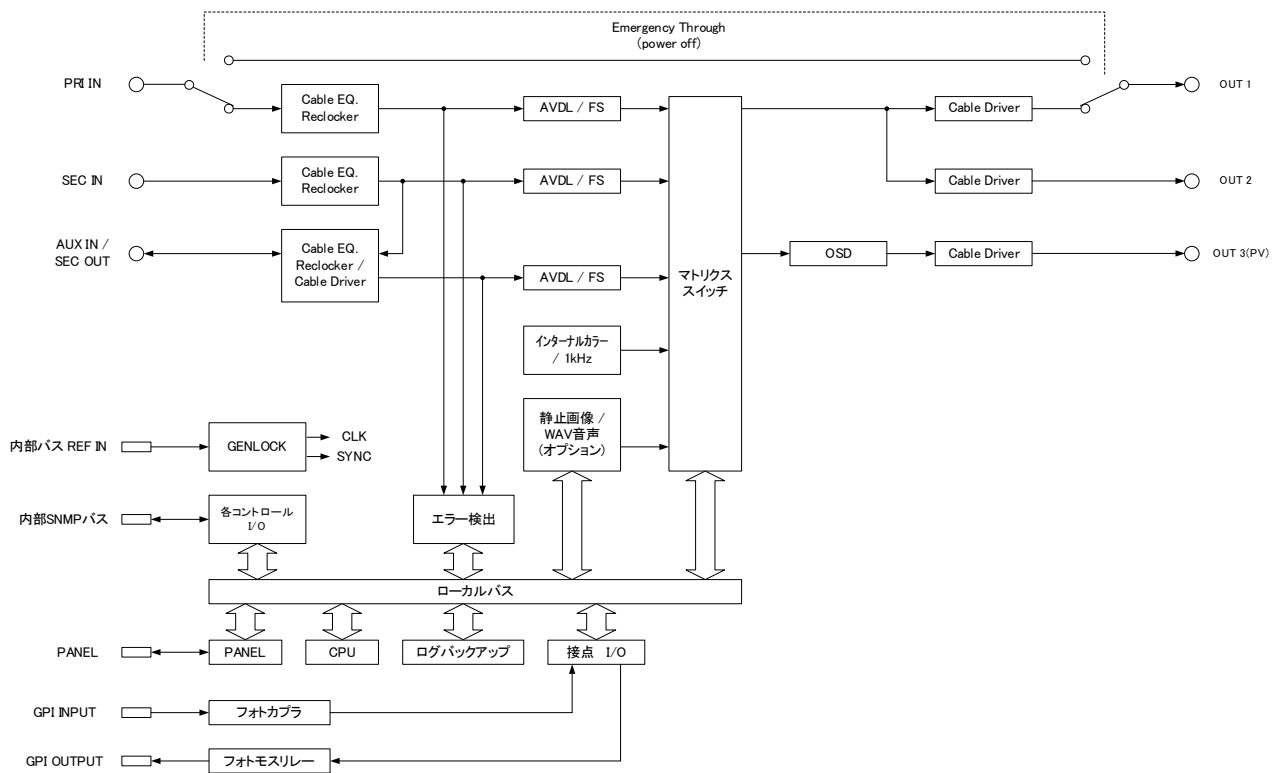


図 11-4 1080p29/p23 のエラー発生から切り替えまでの時間

検出時間はエラーの内容により異なり、エラー検出にかかる時間は以下のとおりです。

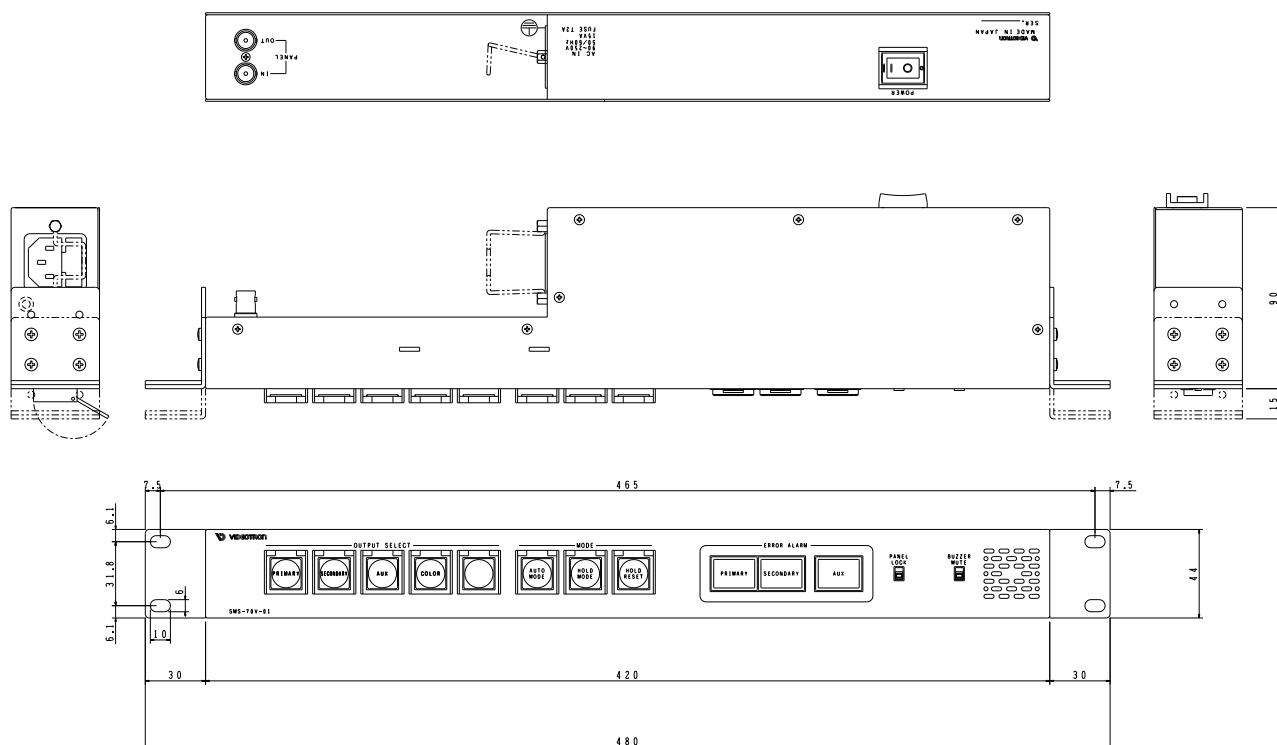
NO SIGNAL	0～0.5 フレーム
TRS	0～0.5 フレーム
LINE NUMBER	0～0.5 フレーム
CRC Y, CRC C	0～0.5 フレーム
LINE LENGTH	0～0.5 フレーム
FIELD LENGTH	0～0.5 フレーム
RESERVED DATA	0～0.5 フレーム
ANC PARITY	0～0.5 フレーム
ANC CHECKSUM	0～0.5 フレーム
BCH	0～0.5 フレーム
AUDIO PACKET	0～0.5 フレーム
NOAUDIO PACKET	約 1 秒
MUTE	メニュー設定時間
BLACK	1 フレーム+メニュー設定時間
FREEZE	1 フレーム+メニュー設定時間
BLUE	1 フレーム+メニュー設定時間
COMPARE	1 フレーム+メニュー設定時間
STILL	1 フレーム+メニュー設定時間

11. ブロック図

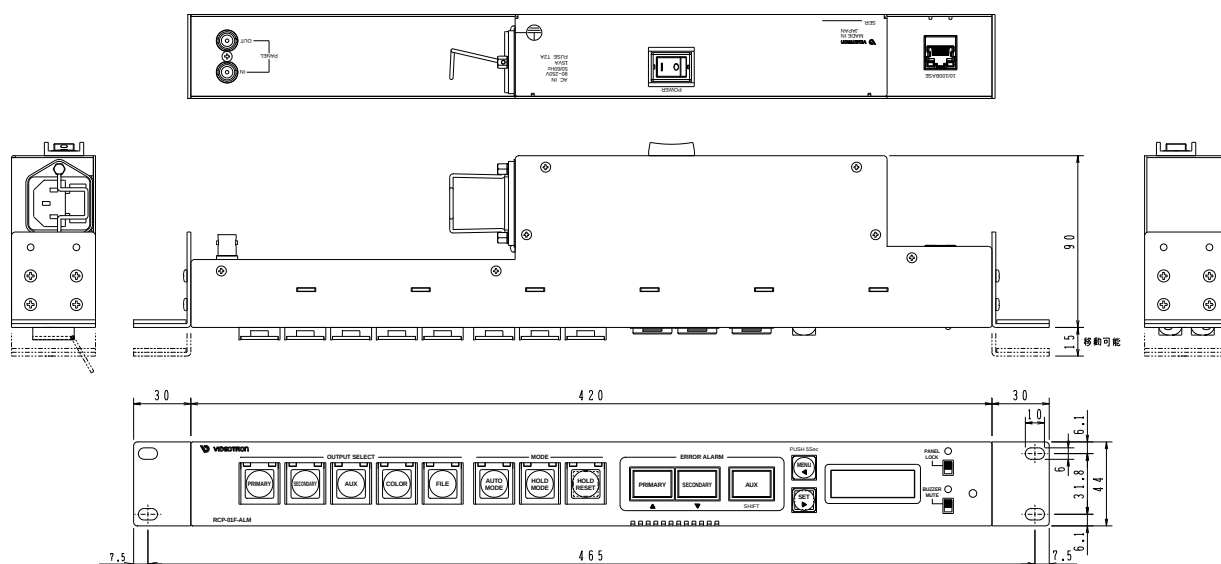


12. 外形寸法図

1. SMS-70V-01 リモート・コントロール・パネル(オプション)



2. RCP-01F-ALM LAN対応 アラーム・コントロール・パネル (オプション)



Technical drawing of the RCP-02F-ALM receiver, showing front, top, and side views with dimensions.

Front View: The front panel features a "videocon" logo on the left, followed by an "OUTPUT SELECT" section with buttons for PRIMARY, SECONDARY, AUX, COLOR, and FILE. To the right is a "MODE" section with buttons for AUTO, HOLD, and HOLD-EXIT. Further right is a "REMOTE ALARM" section with buttons for PRIMARY, SECONDARY, and AUX. On the far right is a "POWER-ON/OFF" section with a power button and a "POWER-ON/OFF" indicator. Below the buttons is a "RCP-02F-ALM" label.

Top View: The top of the unit shows a "VIDEO" input port, a "VIDEO" output port, and a "VIDEO" output port. The "VIDEO" output port is labeled "VIDEO".

Side View: The side view shows the unit's profile with a height of 48 mm and a depth of 14 mm. The front panel is 420 mm wide (excluding the handle).

Dimensions:

- Front panel width: 420 (excluding handle)
- Front panel height: 48
- Depth: 14
- Top panel width: 424
- Top panel height: 90
- Bottom panel width: 118
- Bottom panel height: 121

図を起こすことで本体に約21°の角度がつきます。

無断転写禁止



- ・本書の著作権はビデオトロン株式会社に帰属します。
- ・本書に含まれる文書および図版の流用を禁止します。

お問い合わせ

製品に関するお問い合わせは、下記サポートダイヤルにて承ります。

本社営業部/サポートセンター TEL **042-666-6311**

大阪営業所 TEL **06-6195-8741**

ビデオトロン株式会社 E-Mail: sales@videotron.co.jp

本 社 〒193-0835 東京都八王子市千人町 2-17-16

大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-8-8 花原第8ビル 5F

ビデオトロンWEBサイト

<https://www.videotron.co.jp>

102140R02

本書の内容については、予告なしに変更する事がありますので予めご了承下さい。